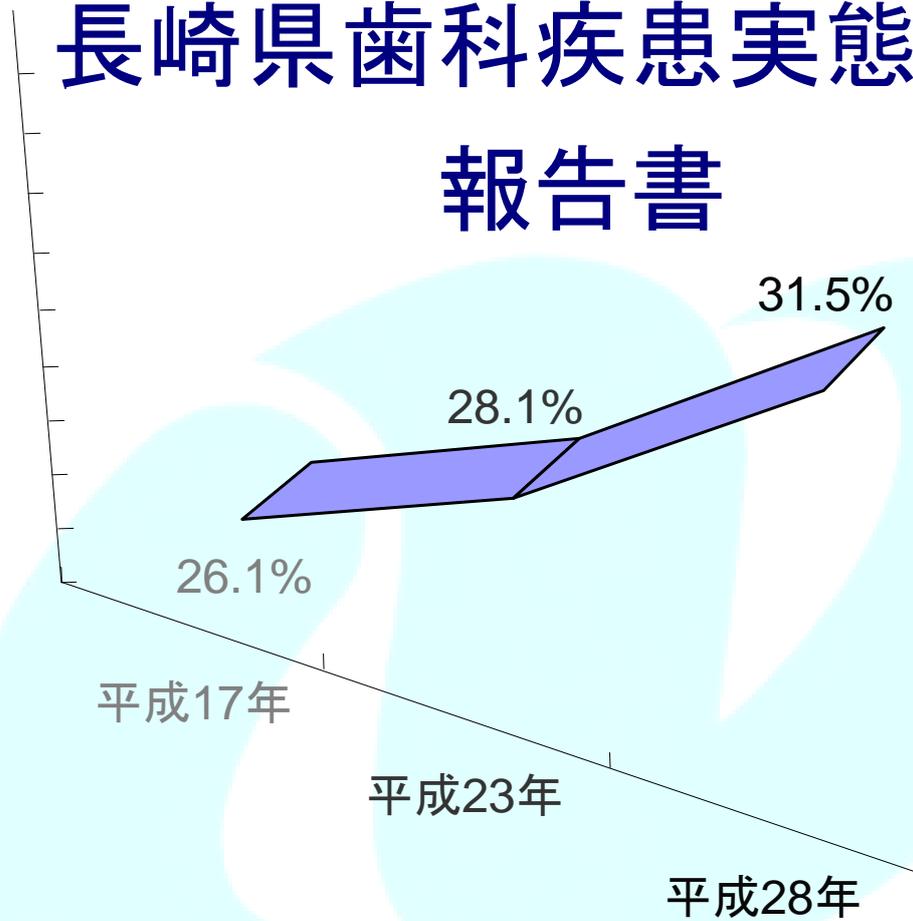


平成 28 年

長崎県歯科疾患実態調査 報告書



長崎県福祉保健部国保・健康増進課
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
社会医療科学講座口腔保健学

はじめに

この報告書は、「長崎県歯・口腔の健康づくり推進条例」に基づき、去る10月から11月にかけて県内全域で行われた、平成28年長崎県歯科疾患実態調査の結果をまとめたものです。

平成28年に厚生労働省医政局歯科保健課が歯科疾患実態調査を、6年毎から今回5年に変更して全国で実施したのに合わせて、長崎県も同様にその診査基準を用いて調査を企画しました。したがって本調査の結果は、わが県の歯科保健の現状を示すだけでなく、これらの値と相互比較することが可能です。しかしながら調査対象者に関わる標本抽出の方法や選択バイアスを最小にする取り組みにもそれぞれ現実的な限界がありました。口腔内診査が難しい場合に質問調査票だけでも回収する努力がなされたことは今回の特徴です。よく言われるような数字の独り歩きにならないよう、解釈には配慮が必要でしょう。その意味でも本報告書の統計表にある標本数や標準偏差に関する値を参考にして頂きたいと思います。

わが国では平成34年度に向けて「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」が設定され、「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」も全部改正（いわゆる「健康日本21（第2次）」）されました。それらを踏まえて策定された「長崎県歯・口腔の健康づくり推進計画（歯なまるスマイルプラン）」や「健康ながさき21（第2次）」の評価に活用され、広く県民の歯科疾患の減少や健康格差の是正に寄与することを願うものです。

平成28年長崎県歯科疾患実態調査の実施に際し、ご尽力・ご協力頂いた長崎県および長崎市・佐世保市保健所等の行政機関、長崎県歯科衛生士会関係各位、ならびに県民の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

社会医療科学講座 口腔保健学教授

齋藤 俊行

目次：

1. 調査のあらまし・・・・・・・・・・・・・・・・ p.3
2. 結果のまとめ－口腔内診査（成人）・・・・・・・・ p.11
3. 結果のまとめ－口腔内診査（小児）・・・・・・・・ p.44
4. 結果のまとめ－質問調査・・・・・・・・ p.63
5. 調査票および口腔診査票の様式・・・・・・・・ 巻末

1. 調査のあらまし

研究題目：

平成 28 年長崎県歯科疾患実態調査

研究担当者氏名：

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 社会医療科学講座口腔保健学教授 齋藤俊行

研究協力者氏名：

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔保健学
福田英輝（調査）、 小山善哉（調査）、 古堅麗子（調査）、
北村雅保（調査・分析）、 岩崎理浩（調査）
長崎県口腔保健支援センター
田浦勝彦（調査）

研究目的及び内容：

長崎県民の歯・口腔の健康づくりの総合的な推進を図るための基礎資料とし、「長崎県歯・口腔の健康づくり推進計画（歯なまるスマイルプラン）」において設定された目標に対する実態把握のため、厚生労働省が全国で実施する調査に合わせて、広く県民の歯科疾患等について調査し、分析評価を行う（長崎県歯・口腔の健康づくり推進条例 第 13 条）。

対象と方法：

本調査は、平成 28 年 10 月から 11 月にかけて、厚生労働省の平成 28 年歯科疾患実態調査の基準に従って、長崎県において実施されたものである。質問調査と口腔内診査を通じて得られたデータで、質問調査票には長崎県が追加した項目がある。巻末の調査票を参照されたい。口腔内診査は、長崎大学ならびに長崎県口腔保健支援センターおよび長崎市市民健康部・こども部の歯科医師によった。

本調査には厚生労働省により抽出された被調査者が含まれており(2地区が国調), 全地区で長崎県(一部は国民)健康・栄養調査と併せて実施したものである。調査対象とされた1,322人のうち被調査者(回収した調査票)は601人となるが, 歯の状況について診査を受けた者は387人である。また様々な事情から調査会場に来ることができない, もしくは調査会場でも口腔内診査ができず, 質問調査票のみを提出した被調査者214人も含まれる。性・年齢階級別の構成を示す(表1)。長崎県内全域の各保健所圏域で1か所から2か所の調査地区が設定されており, 保健所圏域・年齢階級別にも被調査者数を示す(表2)。

分析結果は, 質的データを割合(%)として, 量的データを「平均値±標準偏差」で表示した。平均値を中心として測定値がどのように分布するか(ばらつくか)を示すことで, 健康格差を検討するための指標となる。

表1. 口腔内診査の有無・性別でみた被調査者の人数分布

年齢階級		1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
あり	男性	30	2	6	18	18	44	40	22	0	180
	女性	13	9	11	28	29	52	42	21	2	207
	計	43	11	17	46	47	96	82	43	2	387
なし	男性	18	6	5	17	15	16	11	3	1	92
	女性	19	11	9	15	10	31	18	5	4	122
	計	37	17	14	32	25	47	29	8	5	214
総計		80	28	31	78	72	143	111	51	7	601

註: あり, 質問調査に口腔内診査; なし, 質問調査のみ

長崎市保健所: 2地区

長崎市田中町(国調地区, 対象者75人); 長崎市西海町(対象者141人)

佐世保市保健所: 2地区

佐世保市山手町(対象者113人); 佐世保市中里町(対象者23人)

西彼保健所: 時津町久留里郷(対象者130人)

県央保健所: 2地区

諫早市永昌町(対象者66人); 大村市久原1丁目(対象者143人)

県南保健所: 南島原市口之津町(国調地区, 対象者103人)

県北保健所: 松浦市御厨町(対象者63人)

五島保健所: 五島市吉田町(対象者121人)

上五島保健所: 新上五島町青方郷(対象者96人)

壱岐保健所: 壱岐市郷ノ浦町牛方触(対象者144人)

対馬保健所: 対馬市峰町三根(対象者104人)

表2. 保健所圏域別・口腔内診査の有無でみた被調査者の人数分布

年齢階級		1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
長崎市	あり	6	2	3	8	7	27	18	11	1	83
	なし	1	4	0	1	2	6	2	1	1	18
	計	7	6	3	9	9	33	20	12	2	101
佐世保市	あり	3	0	1	2	1	2	4	2	0	15
	なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	3	0	1	2	1	2	4	2	0	15
西彼	あり	7	1	2	6	2	11	7	4	0	40
	なし	5	1	2	7	1	7	12	0	0	35
	計	12	2	4	13	3	18	19	4	0	75
県央	あり	5	0	0	7	6	5	10	2	0	35
	なし	16	6	2	14	2	9	4	2	0	55
	計	21	6	2	21	8	14	14	4	0	90
県南	あり	0	0	3	1	2	14	14	11	0	45
	なし	0	0	0	1	1	2	4	1	1	10
	計	0	0	3	2	3	16	18	12	1	55
県北	あり	1	0	1	1	0	3	0	2	0	8
	なし	2	0	0	1	1	4	2	0	0	10
	計	3	0	1	2	1	7	2	2	0	18
五島	あり	2	3	0	2	3	3	3	1	0	17
	なし	10	0	5	6	7	6	0	0	1	35
	計	12	3	5	8	10	9	3	1	1	52
新上五島	あり	8	0	1	11	6	5	2	1	0	34
	なし	2	1	2	0	2	4	2	0	1	14
	計	10	1	3	11	8	9	4	1	1	48
壱岐	あり	7	2	4	7	11	17	20	7	1	76
	なし	1	2	3	1	5	4	2	2	0	20
	計	8	4	7	8	16	21	22	9	1	96
対馬	あり	4	3	2	1	9	9	4	2	0	34
	なし	0	3	0	1	4	5	1	2	1	17
	計	4	6	2	2	13	14	5	4	1	51
総計		80	28	31	78	72	143	111	51	7	601

註： あり，質問調査に口腔内診査； なし，質問調査のみ

結果の概要：

成人の歯の状況は、永久歯の現在歯およびう蝕に関する経年的推移を図1に示した。平成28年には、現在歯数の増加を認め、またいずれの年齢階級でも未処置歯の保有が見られるものの減少傾向で平均すると1歯未満であったが、30歳代まで新たなう蝕の発症が処置歯数の増加から推察された。

50歳代からは歯の喪失が進行していた。地域の比較を行ったところ、離島では60歳代から20歯以上有する者の割合が低く、さらに70歳代からは無歯顎者率においてもその差が認められた。しかしながら経年的にそれらの差は縮小傾向にあった。なお長崎県の人口に占める離島の割合はおよそ1割とされているが、被調査者に占める同割合は約4割であった。

8020者を厚生労働省医政局歯科保健課の方法に従って、75-79歳ならびに80-84歳の数値を単純平均することで80歳での値を推定すると31.5%と算出され、平成17年、平成23年から微増傾向にあった(表紙)。改善が見られるものの全国値とは乖離していた。

歯肉の状況は、歯周病のスクリーニング評価であるWHO(2013年)のCPI modified (Community Periodontal Index modified : 改変地域歯周疾患指数)を平成28年には用いて、図2に示した。診査対象は、上下顎の中切歯ならびに、第1大臼歯および第2大臼歯であり、無歯顎でなくとも対象歯のない者が60歳代から増えるが、ここでは評価に含めた。4mm以上の深い歯周ポケットを有する者(旧CPIの最高コード3以上の者)が、厚生労働省の「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」で「進行した歯周炎を有する者」とされている。進行した歯周炎を有する者の割合は、20歳代から見られる。60歳代まで増加し、概ね3分の2に上るが、歯の喪失に伴って70歳代から減少する。

図3では「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」に従い対象歯のない者(歯周病リスクのない者)は除外して経年的推移を示したが、歯周ポケットの状況に一定の傾向は認められなかった。

図1. 現在歯（永久歯）の内訳の経年的推移

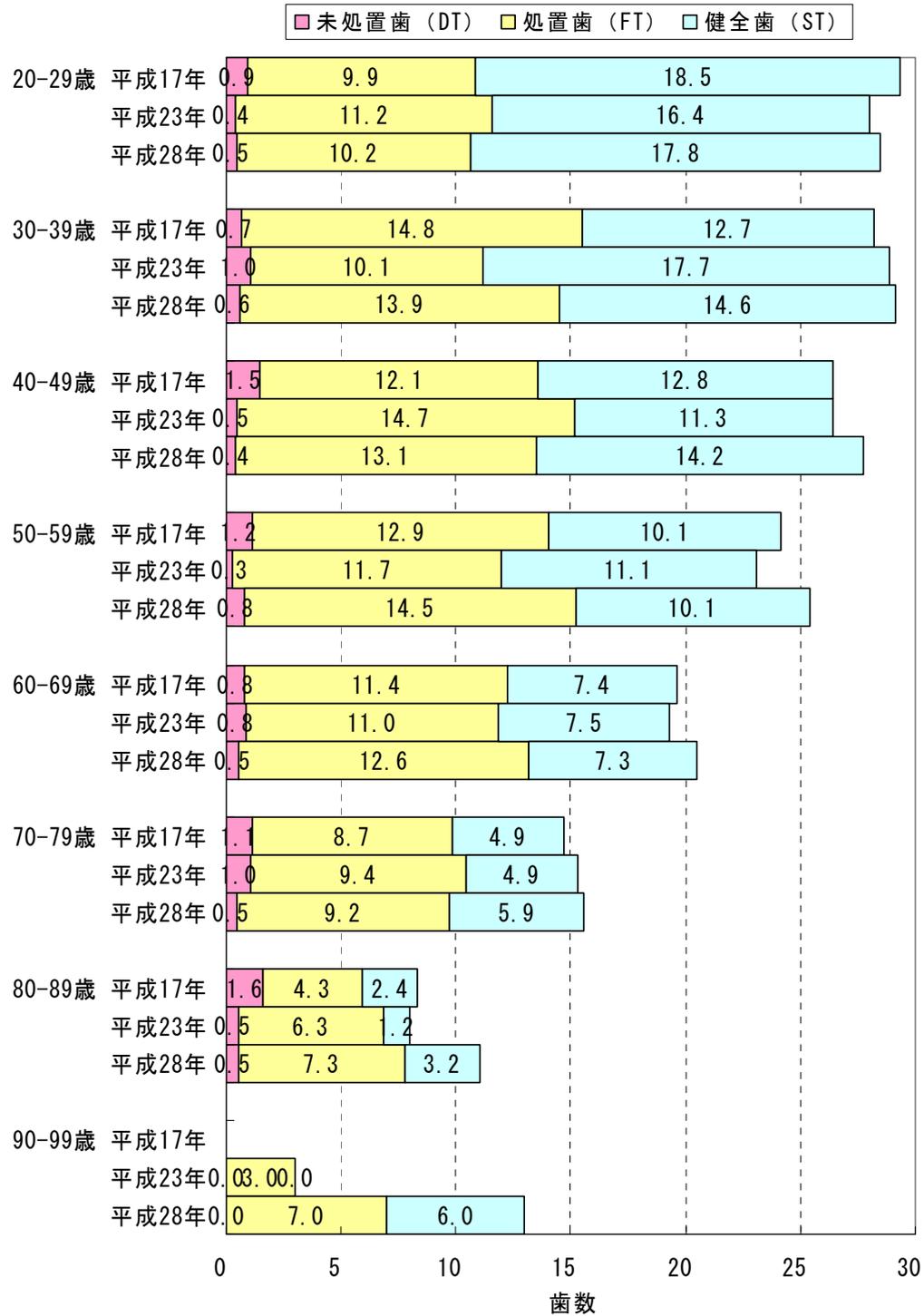


図2. 年齢階級別にみた歯周ポケットの状況（改変CPI）

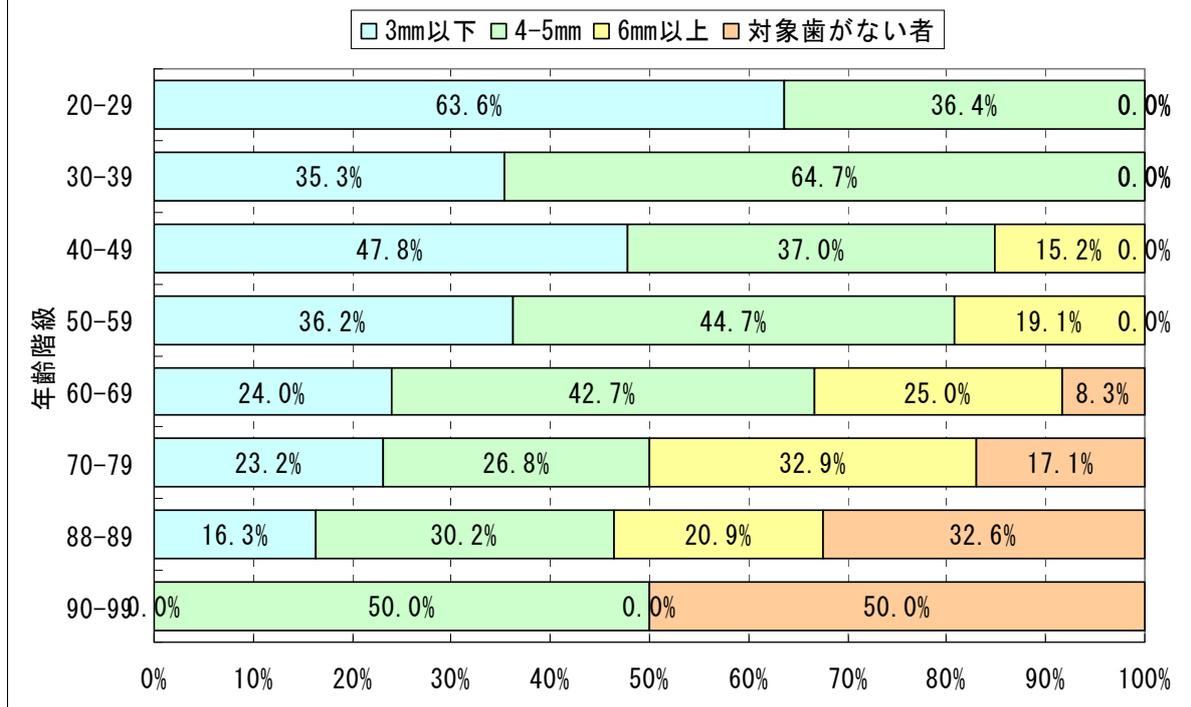
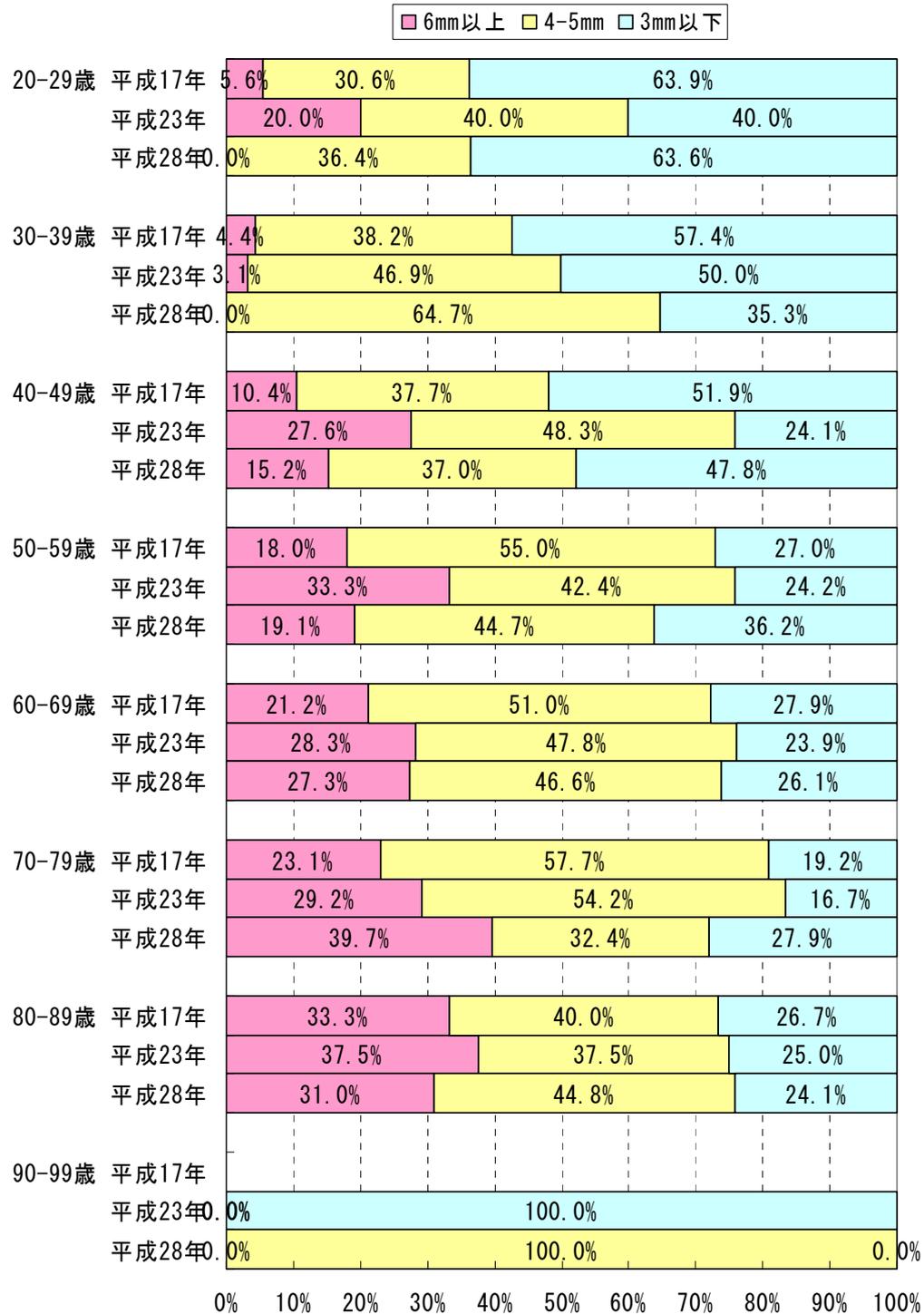


図3. 歯周ポケットの状況の経年的推移（対象歯がない者は除外）



歯なまるスマイルプランの評価（平成 28 年長崎県歯科疾患実態調査による）：

- ・ 80 歳代で 20 歯以上の歯を有する者の割合：30.2%
（平成 29 年の目標： 35%）
- ・ 60 歳代で 24 歯以上の歯を有する者の割合：56.3%
（平成 29 年の目標： 50%）
- ・ 40 歳代で喪失歯のない者の割合：71.7%
（平成 29 年の目標： 80%）
- ・ 20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合：72.7%
（平成 29 年の目標： 50%）
- ・ 40 歳代における進行した歯周炎を有する者の割合：52.2%
（平成 29 年の目標： 50%）
- ・ 60 歳代における進行した歯周炎を有する者の割合：73.9%
（平成 29 年の目標： 60%）
- ・ 過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の割合：43.0%
（平成 29 年の目標： 55%）
- ・ 3 歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある者の割合：100.0%
（平成 29 年の目標： 90%）

2. 結果のまとめ—口腔内診査（成人）

現在歯：

現在歯（残存歯）について図表 A-1, 図表 A-2, 図表 A-3 に示した。現在歯とは、う蝕（むし歯）の見られない「健全歯」と、治療の必要なう蝕の認められる「未処置歯」、充填や冠といった「処置歯」を合わせたものである。図表 A-1 と図表 A-2 で分布をみると歯列矯正治療による便宜抜歯（現在歯数 24 歯となる）以上の歯の喪失は 40 歳代から見られ、50 歳代から急激に進行していた。図表 A-3 で表示した標準偏差からは、年齢が高くなるにつれて平均値が低くなるだけでなく、分布が広がること、すなわち格差が生じることも認められた。

8020 に関して長崎県の方法は、厚生労働省医政局歯科保健課の方法と若干異なり、「80 歳代」としているので年齢が 5 歳高いが、「20 歯以上の歯を有する者の割合」が 30.2%と算出され（図表 A-1）、全国値より大幅に低い割合を示した。また「60 歳代で 24 歯以上の歯を有する者の割合」を算定したところ、56.3%となった（図表 A-2）。

表A-1. 現在歯数20歯以上保有者の割合（乳歯；永久歯）

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
0-19歯	0	0	0	5	31	45	30	1
	0.0%	0.0%	0.0%	10.6%	32.3%	54.9%	69.8%	50.0%
20歯+	11	17	46	42	65	37	13	1
	100.0%	100.0%	100.0%	89.4%	67.7%	45.1%	30.2%	50.0%
総計	11	17	46	47	96	82	43	2
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段、人数； 下段、割合

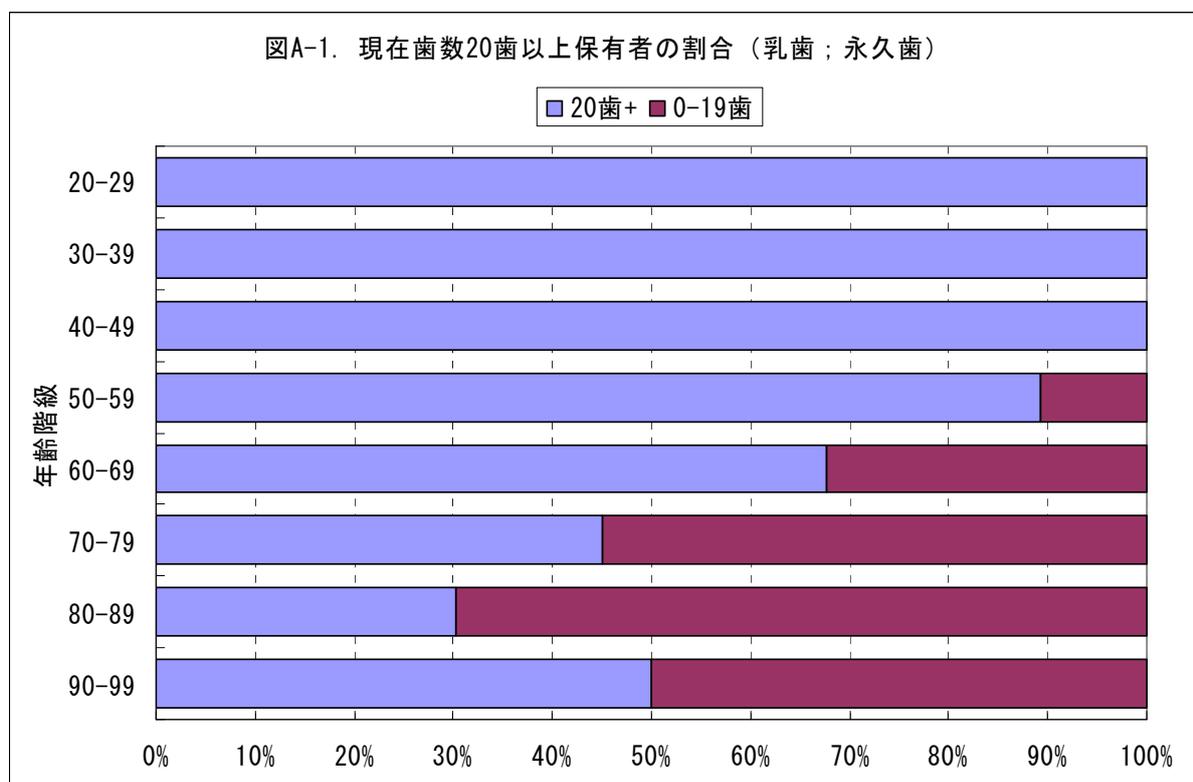
表A-2. 現在歯数24歯以上保有者の割合（乳歯；永久歯）

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
0-23歯	0	0	1	11	42	60	36	1
	0.0%	0.0%	2.2%	23.4%	43.8%	73.2%	83.7%	50.0%
24歯+	11	17	45	36	54	22	7	1
	100.0%	100.0%	97.8%	76.6%	56.3%	26.8%	16.3%	50.0%
総計	11	17	46	47	96	82	43	2
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

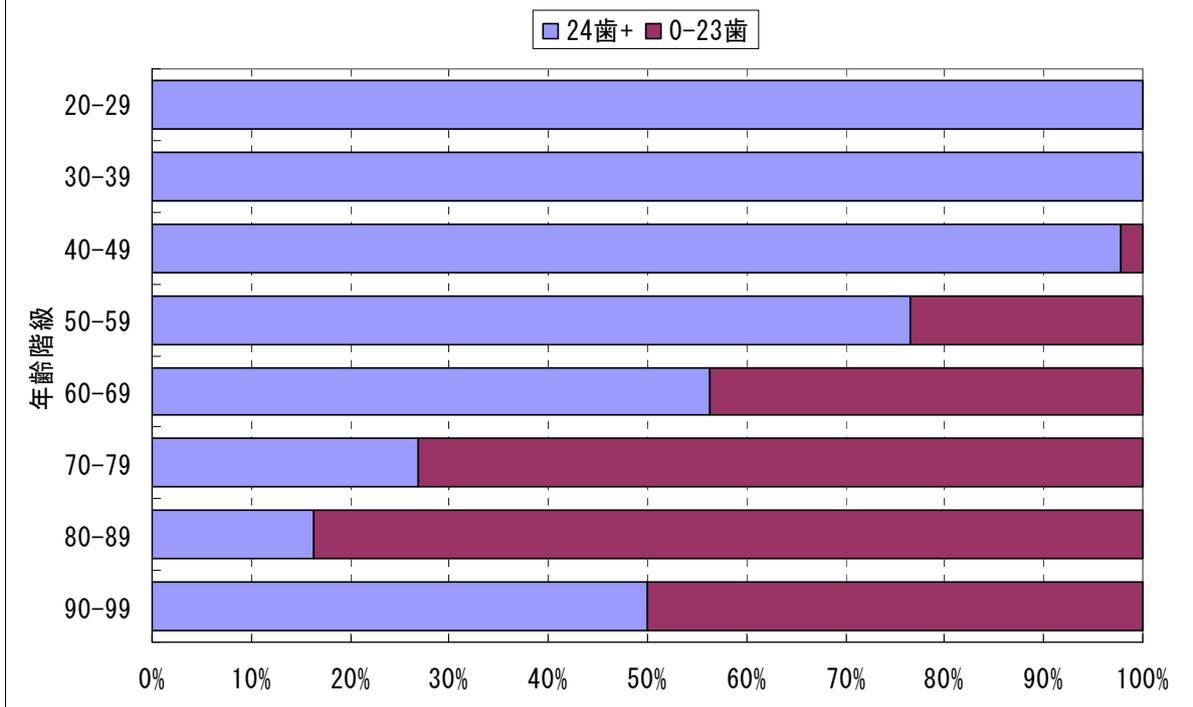
註： 上段、人数； 下段、割合

表A-3. 一人平均現在歯数 (pt ; PT指数)

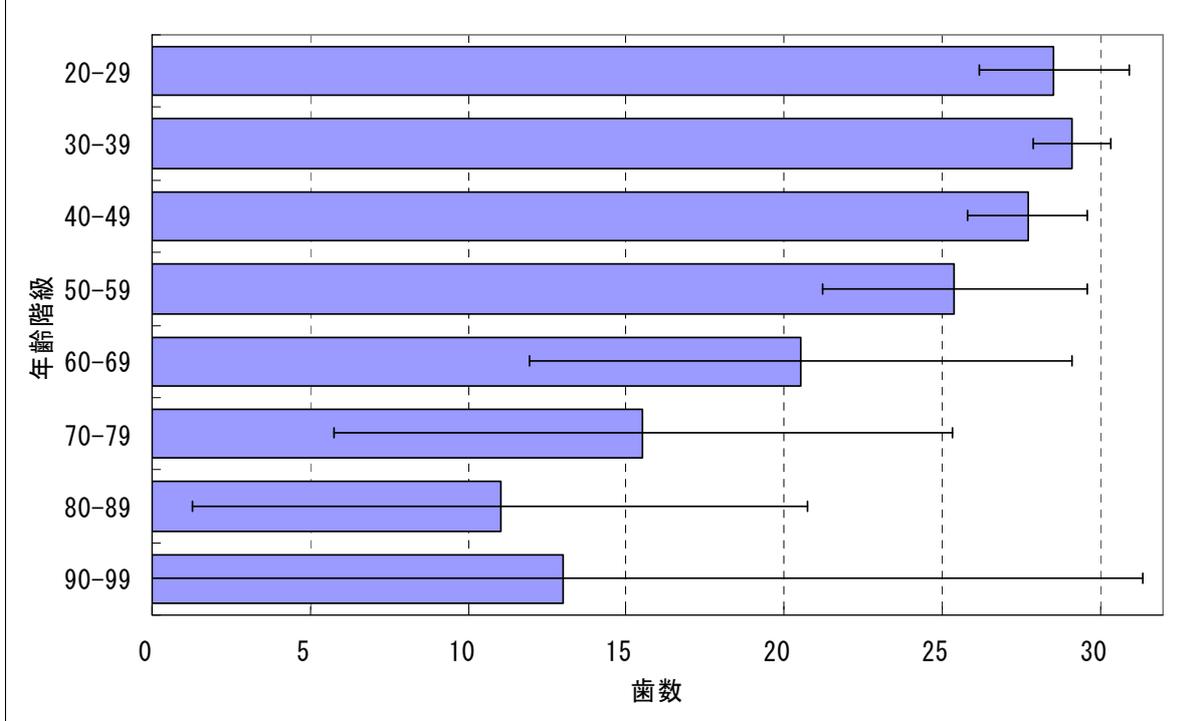
年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
人数	11	17	46	47	96	82	43	2
平均値	28.5	29.1	27.7	25.4	20.5	15.5	11.0	13.0
標準偏差	2.4	1.2	1.9	4.2	8.6	9.8	9.7	18.4



図A-2. 現在歯数24歯以上保有者の割合（乳歯；永久歯）



図A-3. 一人平均現在歯数（pt；PT指数）

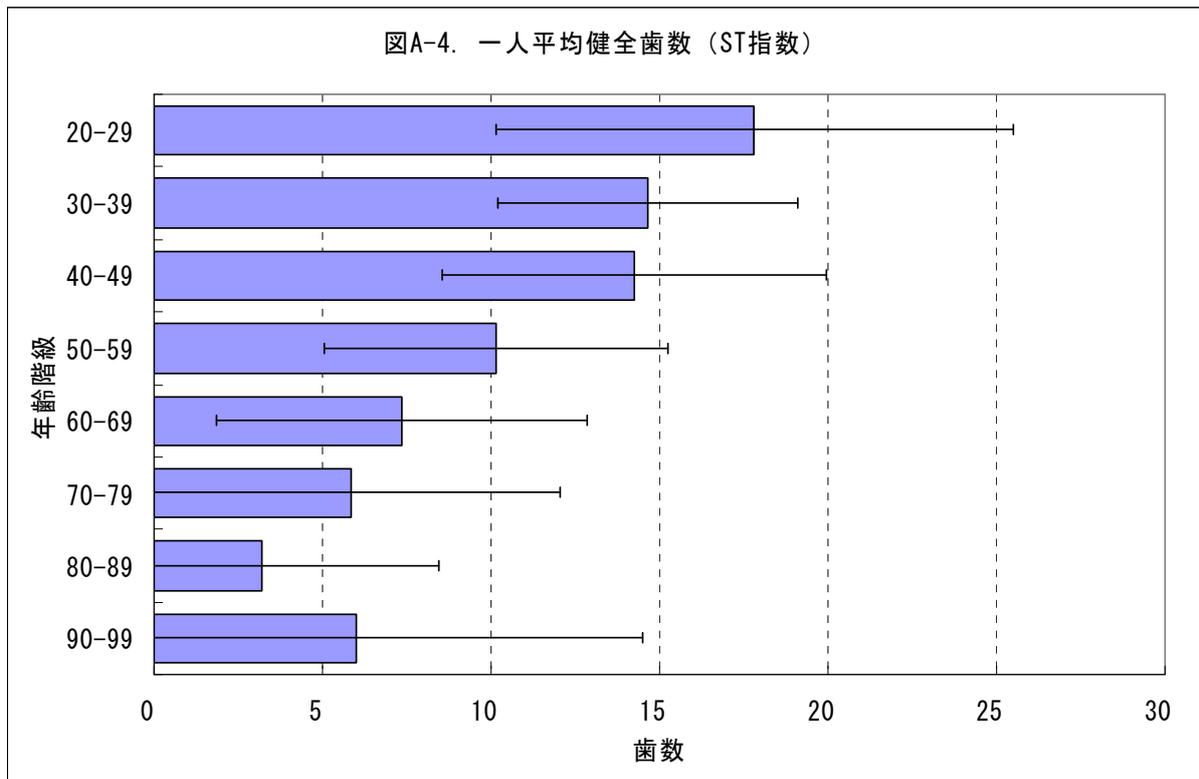


健全歯：

永久歯の健全歯について図表 A-4 に示した。現在歯との差は、ほとんどがう蝕の発症によるものと推察される。現在歯数の変化は曲線的（徐々に減少し 50 歳代を境に急激な喪失）なのに対して、健全歯数は直線的（どの年代でも同程度に変化）に減少した。またいずれの年齢階級でも標準偏差すなわち格差が等しいことも現在歯とは異なる傾向である。

表A-4. 一人平均健全歯数（ST指数）

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
人数	11	17	46	47	96	82	43	2
平均値	17.8	14.6	14.2	10.1	7.3	5.9	3.2	6.0
標準偏差	7.7	4.4	5.7	5.1	5.5	6.2	5.3	8.5



喪失歯：

永久歯の喪失歯について図表 A-5 と図表 A-6 に示した。現在歯の変化に対応するものであるが、智歯（親不知）の喪失は含まれない。20 歳代から既に歯の喪失が見られるが、図表 A-3 と同様に標準偏差から個人差が大きいことが判る。

さらに「40 歳代で喪失歯のない者の割合」を算出したところ、71.7%となった。

2005 年に全国 2000 余の歯科医療機関で行われた調査から、智歯を含めた永久歯抜歯の原因は、う蝕とその继发症である破折によるものが 43.3%，歯周病によるもの 41.8%と報告されている。歯の喪失に対して、長期的にはう蝕と歯周病を予防すること、また離島地域において喪失歯数が多いため更に対策が求められる。

表A-5. 喪失歯保有者の割合（M者率）

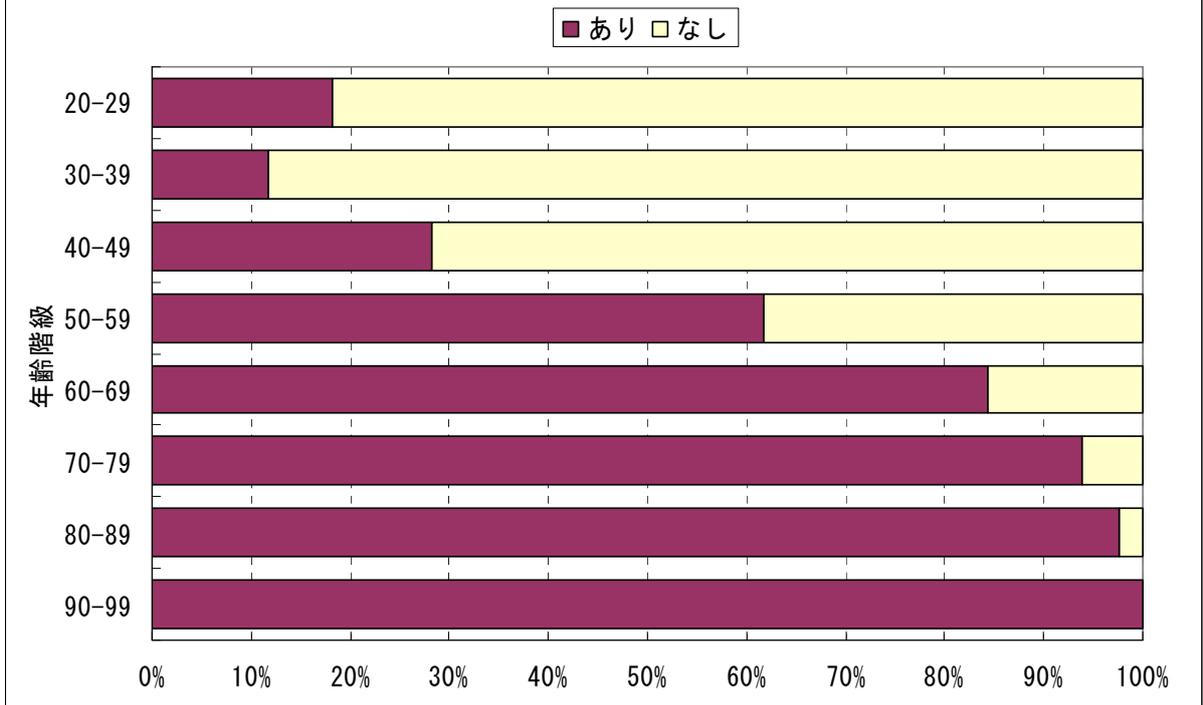
年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
なし	9	15	33	18	15	5	1	0
	81.8%	88.2%	71.7%	38.3%	15.6%	6.1%	2.3%	0.0%
あり	2	2	13	29	81	77	42	2
	18.2%	11.8%	28.3%	61.7%	84.4%	93.9%	97.7%	100.0%
総計	11	17	46	47	96	82	43	2
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

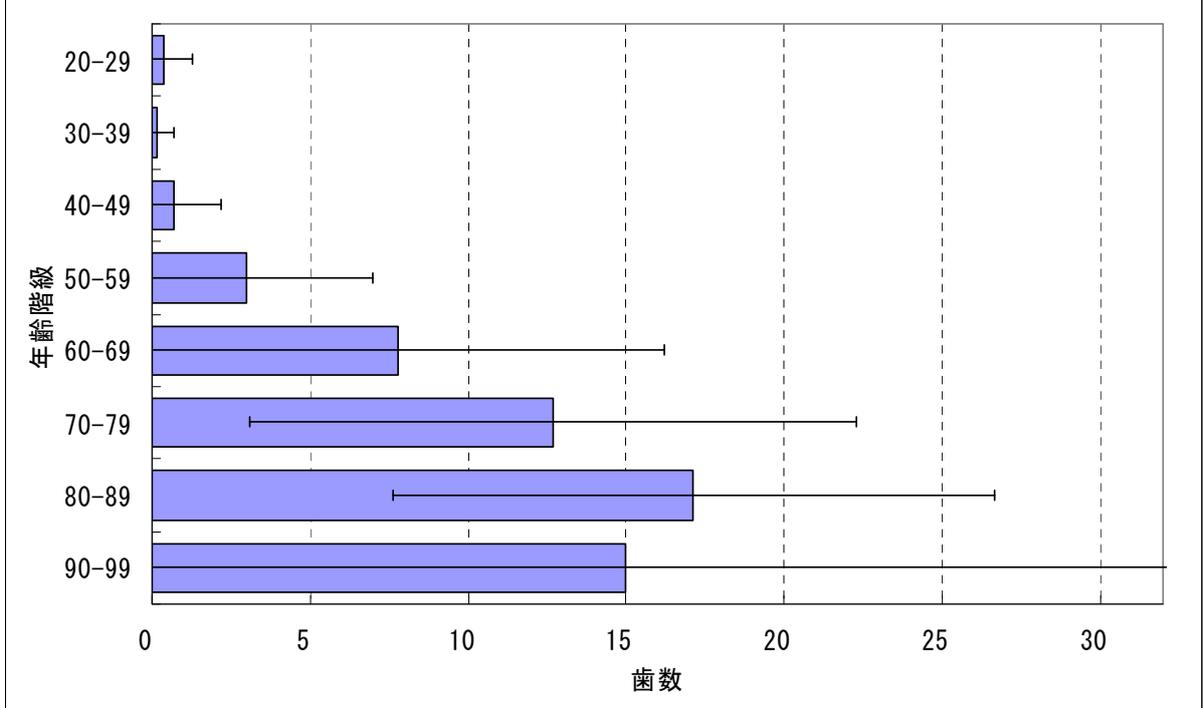
表A-6. 一人平均喪失歯数（MT指数）

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
人数	11	17	46	47	96	82	43	2
平均値	0.4	0.2	0.7	3.0	7.8	12.7	17.1	15.0
標準偏差	0.9	0.5	1.5	4.0	8.4	9.6	9.5	18.4

図A-5. 喪失歯保有者の割合（M者率）



図A-6. 一人平均喪失歯数（MT指数）

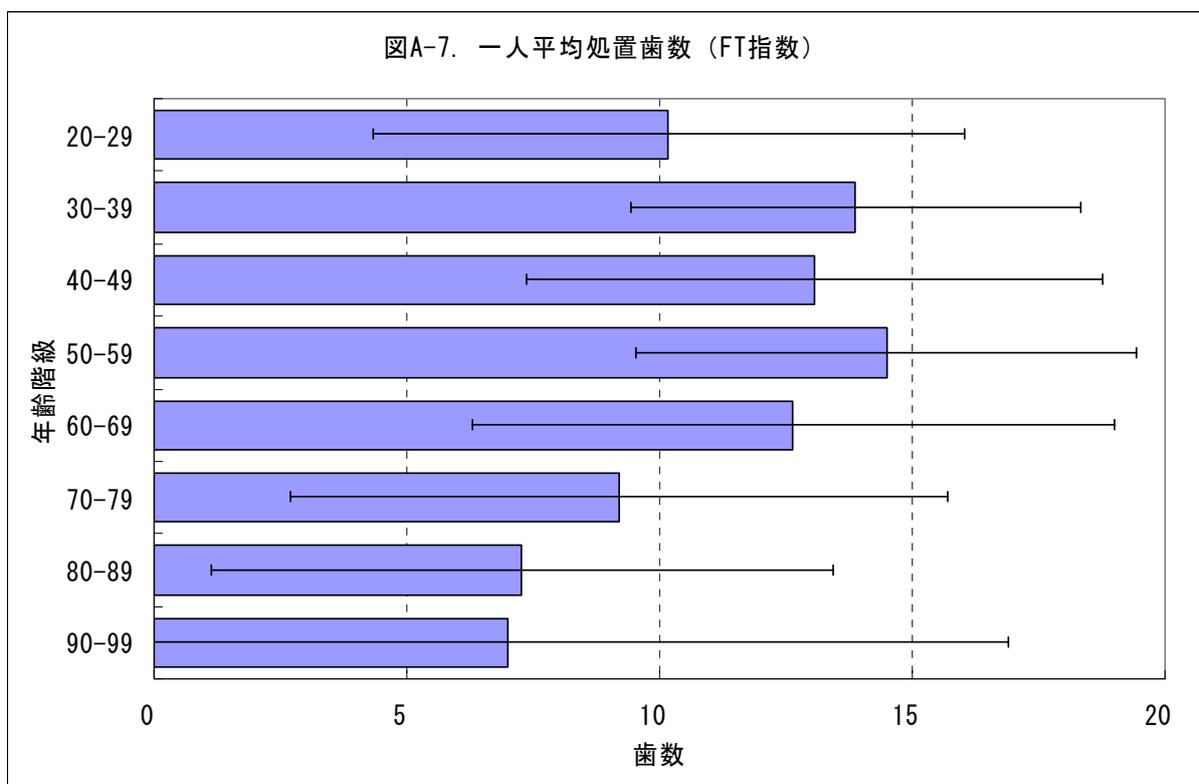


処置歯：

永久歯の処置歯について図表 A-7 に示した。処置歯は 30 歳代まで増加し、70 歳代から現在歯の喪失に伴う減少傾向が見られた。

表A-7. 一人平均処置歯数 (FT指数)

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
人数	11	17	46	47	96	82	43	2
平均値	10.2	13.9	13.1	14.5	12.6	9.2	7.3	7.0
標準偏差	5.9	4.5	5.7	5.0	6.3	6.5	6.2	9.9



未処置歯：

永久歯の未処置歯について図表 A-8 と図表 A-9 に示した。1 歯以上の未処置歯保有者は概ね 2 割から 3 割に認められた。いずれの年齢階級でも未処置歯の保有は平均すると 1 歯未満であったが，その標準偏差から個人差が非常に大きいことが示された。

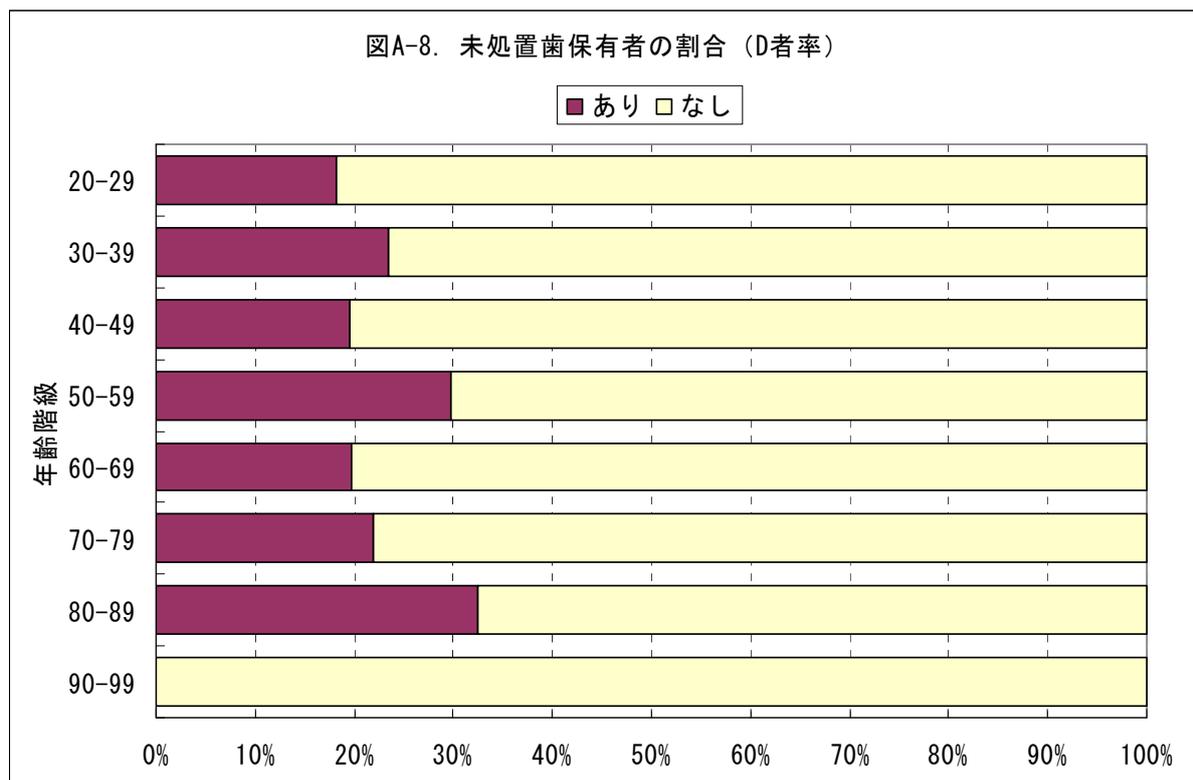
表A-8. 未処置歯保有者の割合（D者率）

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
なし	9 81.8%	13 76.5%	37 80.4%	33 70.2%	77 80.2%	64 78.0%	29 67.4%	2 100.0%
あり	2 18.2%	4 23.5%	9 19.6%	14 29.8%	19 19.8%	18 22.0%	14 32.6%	0 0.0%
総計	11 100.0%	17 100.0%	46 100.0%	47 100.0%	96 100.0%	82 100.0%	43 100.0%	2 100.0%

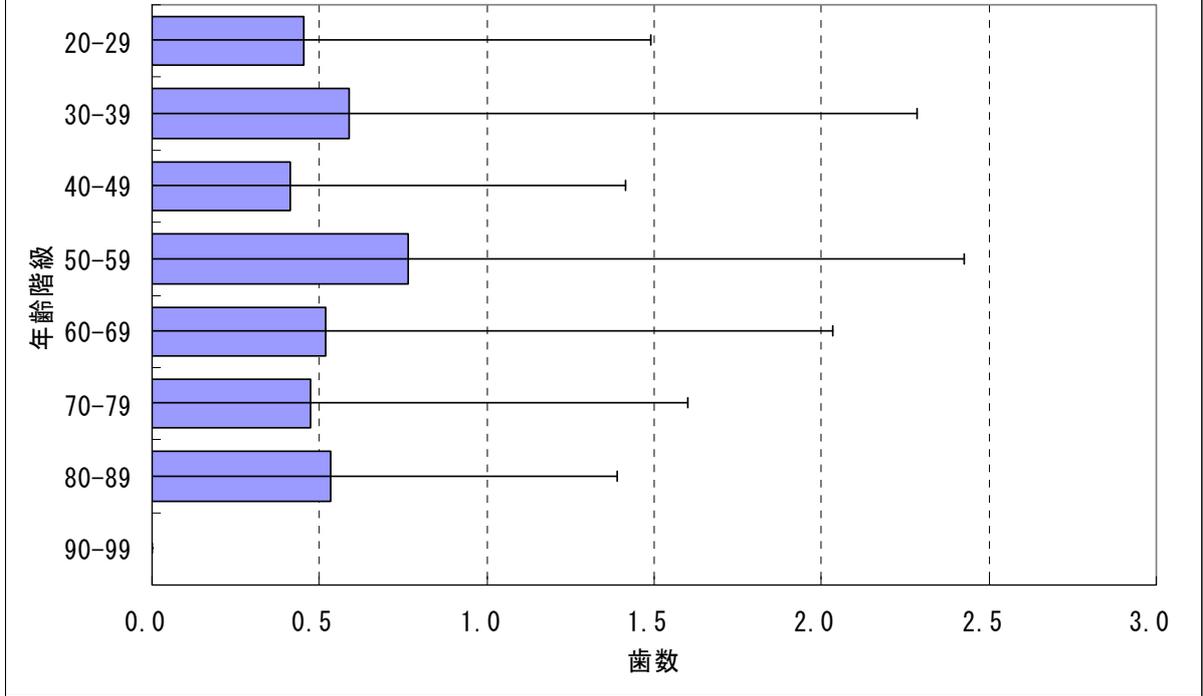
註： 上段，人数； 下段，割合

表A-9. 一人平均未処置歯数（DT指数）

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
人数	11	17	46	47	96	82	43	2
平均値	0.5	0.6	0.4	0.8	0.5	0.5	0.5	0.0
標準偏差	1.0	1.7	1.0	1.7	1.5	1.1	0.9	0.0



图A-9. 一人平均未处置函数 (DT指数)



歯肉の状況：

歯肉の状況については、WHO の CPI modified (2013 年改変) により評価した歯周ポケット深さ最大値の分布を図表 A-10、1 口腔 6 分画中の歯周ポケット 4mm 以上保有分画数を図表 A-11 に示した。いずれの分画にも診査対象歯がない (旧コード X) 者は、厚生労働省の方法に準じて対象者から除いた。診査対象歯がない者も対象者に含めた結果は、「調査のあらまし」に掲載した。歯周ポケットの深さは、歯肉を含む歯周組織の破壊の指標の 1 つである。

30 歳代で 4mm 以上の歯周ポケットを有する者 (進行した歯周炎を有する者) の割合が増加し、40 歳代から 70 歳代まで 6mm 以上の歯周ポケットを有する者の割合が増加する傾向を認めた。80 歳代から 6mm 以上が減少するのは、歯の喪失によるものと考えられる。歯周ポケットを保有する者は成人全体では概ね 6 割に上る。「40 歳代における進行した歯周炎を有する者の割合」は 52.2%で、「60 歳代における進行した歯周炎を有する者の割合」は 73.9%であった。

一方で歯周ポケット 4mm 以上保有分画数は、個人差が大きいものの 60 歳代まで増大傾向であった。このことから年齢とともに歯周炎が重症化するだけでなく、拡がることも判明した。

歯肉出血については炎症所見の指標となり、図表 A-12 に示した。「20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合」が 72.7%で、年齢による差は少ない。なお「歯肉に炎症所見を有する者」の定義は、平成 23 年長崎県歯科疾患実態調査では「旧 CPI の最高コード 1 以上の者」であり、「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」では国民健康・栄養調査の生活習慣調査票において「歯ぐきが腫れている」または「歯を磨いた時に血が出る」と答えた者とされ、これらの値を単純に比較はできない。

歯石沈着に関しては、図表 A-13 に示した。歯肉出血と同様の傾向で、概ね 7 割前後に見られた。

表A-10. 歯周ポケットの状況 (改変CPI, 対象歯がない者は除外)

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
3mm以下	7 63.6%	6 35.3%	22 47.8%	17 36.2%	23 26.1%	19 27.9%	7 24.1%	0 0.0%
4-5mm	4 36.4%	11 64.7%	17 37.0%	21 44.7%	41 46.6%	22 32.4%	13 44.8%	1 100.0%
6mm以上	0 0.0%	0 0.0%	7 15.2%	9 19.1%	24 27.3%	27 39.7%	9 31.0%	0 0.0%
総計	11 100.0%	17 100.0%	46 100.0%	47 100.0%	88 100.0%	68 100.0%	29 100.0%	1 100.0%

註： 上段, 人数； 下段, 割合

表A-11. 歯周ポケット4mm以上保有分画数（改変CPI）

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
人数	11	17	46	47	88	68	29	1
平均値	0.8	1.1	1.2	1.6	1.7	1.6	1.7	4.0
標準偏差	1.3	1.0	1.6	1.6	1.5	1.6	1.6	

表A-12. 歯肉出血の状況（改変CPI，対象歯がない者は除外）

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
なし	3	2	15	15	26	21	8	1
	27.3%	11.8%	32.6%	31.9%	29.5%	30.9%	27.6%	100.0%
あり	8	15	31	32	62	47	21	0
	72.7%	88.2%	67.4%	68.1%	70.5%	69.1%	72.4%	0.0%
総計	11	17	46	47	88	68	29	1
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

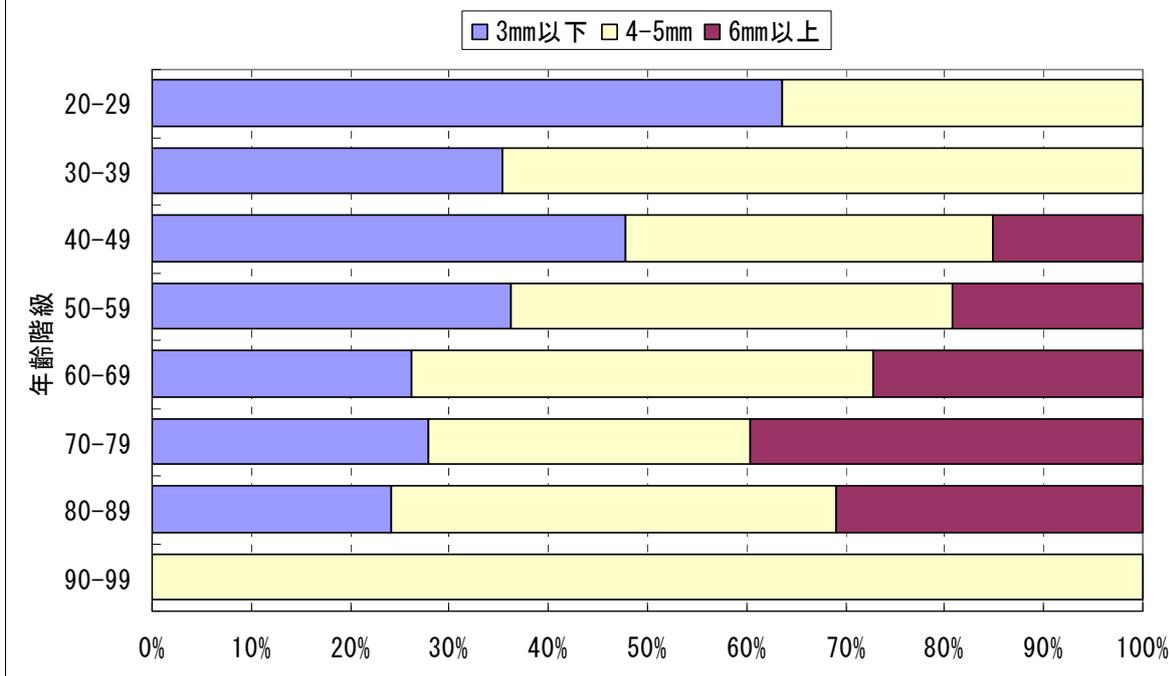
註： 上段，人数； 下段，割合

表A-13. 歯石沈着の状況（改変CPI，対象歯がない者は除外）

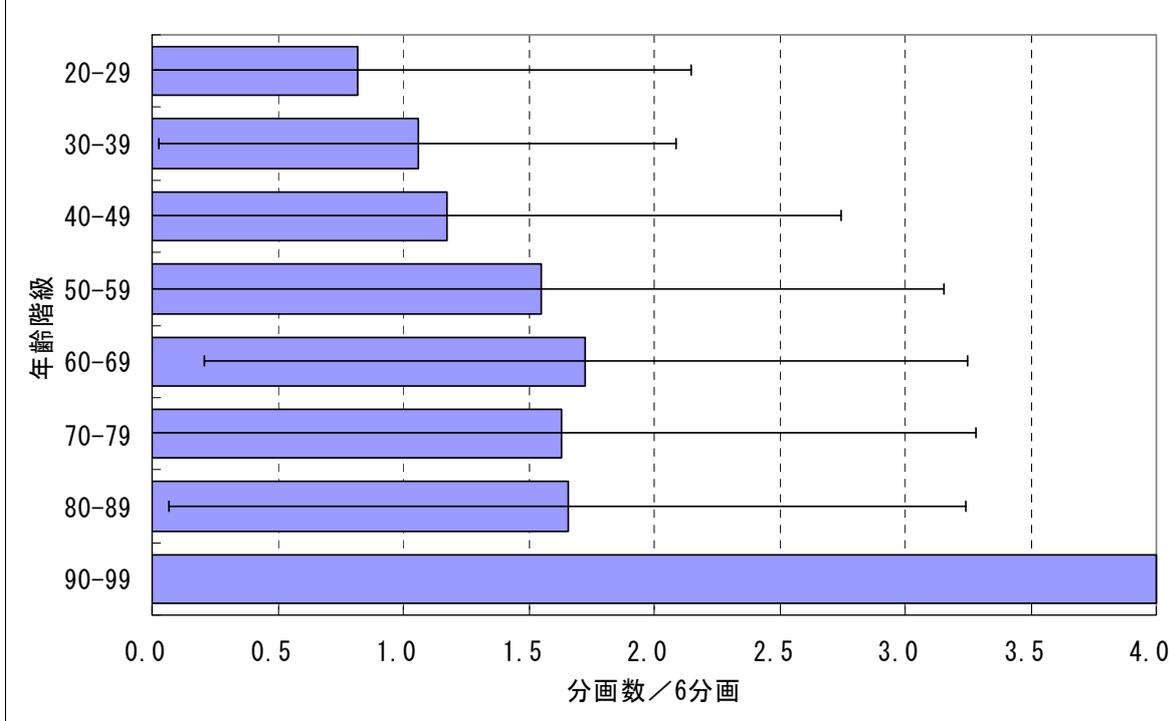
年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
なし	4	4	15	14	25	25	9	0
	36.4%	23.5%	32.6%	29.8%	28.4%	36.8%	31.0%	0.0%
あり	7	13	31	33	63	43	20	1
	63.6%	76.5%	67.4%	70.2%	71.6%	63.2%	69.0%	100.0%
総計	11	17	46	47	88	68	29	1
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

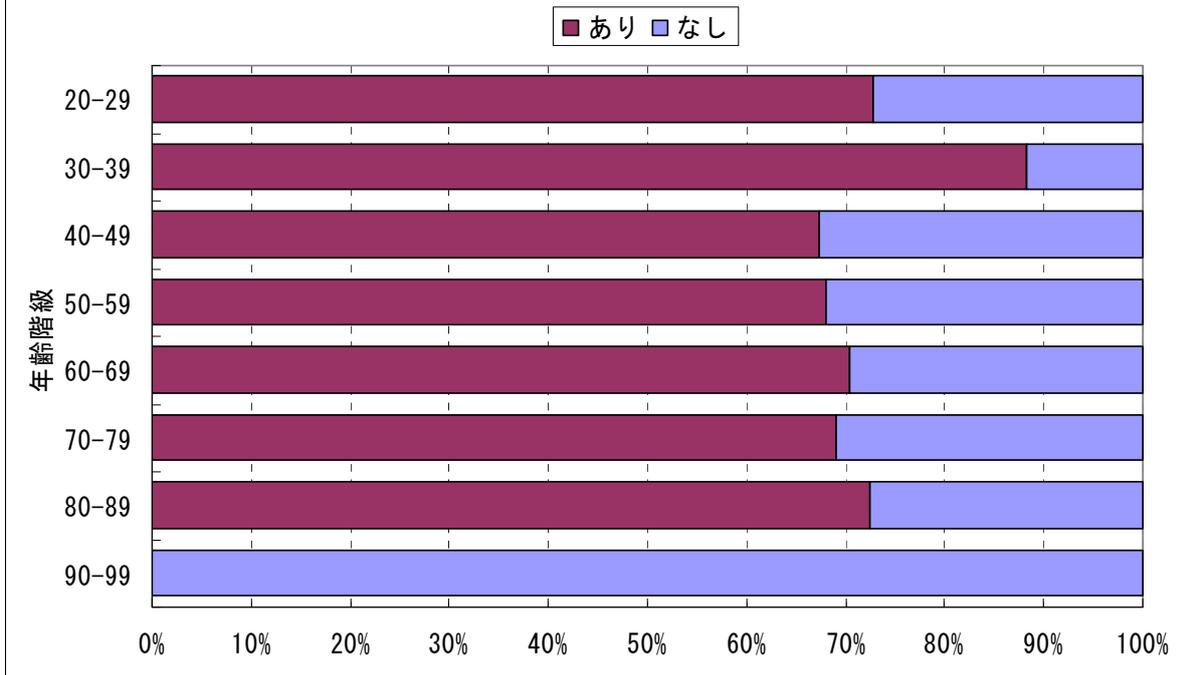
図A-10. 歯周ポケットの状況
(改変CPI, 対象歯がない者は除外)



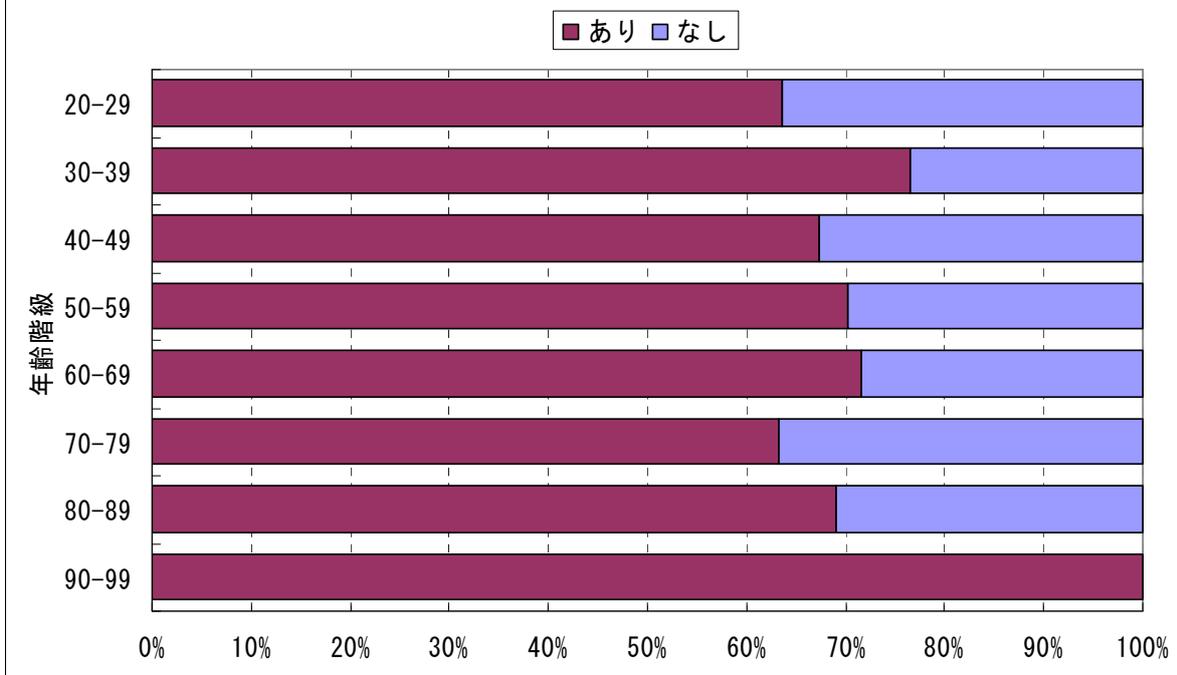
図A-11. 歯周ポケット4mm以上保有分画数 (改変CPI)



図A-12. 歯肉出血の状況
(改変CPI, 対象歯がない者は除外)



図A-13. 歯石沈着の状況
(改変CPI, 対象歯がない者は除外)



喪失歯およびその補綴状況：

補綴の状況に関しては、図表 A-14 に示した。歯の喪失後に義歯によって回復を図る処置がなされているか評価したものである。可撤式の有床義歯または非可撤式のブリッジやインプラント等の処置内容を問わない。また第3大臼歯や歯列不正の改善を図る便宜抜歯は要補綴としないが、第2大臼歯の単独欠損も要補綴と扱う。その結果、完了も含めた要補綴の者は、歯の喪失に連動して50歳代から急激に増えて半数を超える。更にその半数程度は、一部補綴をしている者と補綴をしていない者を合わせた受診勧奨される者と見なせる。

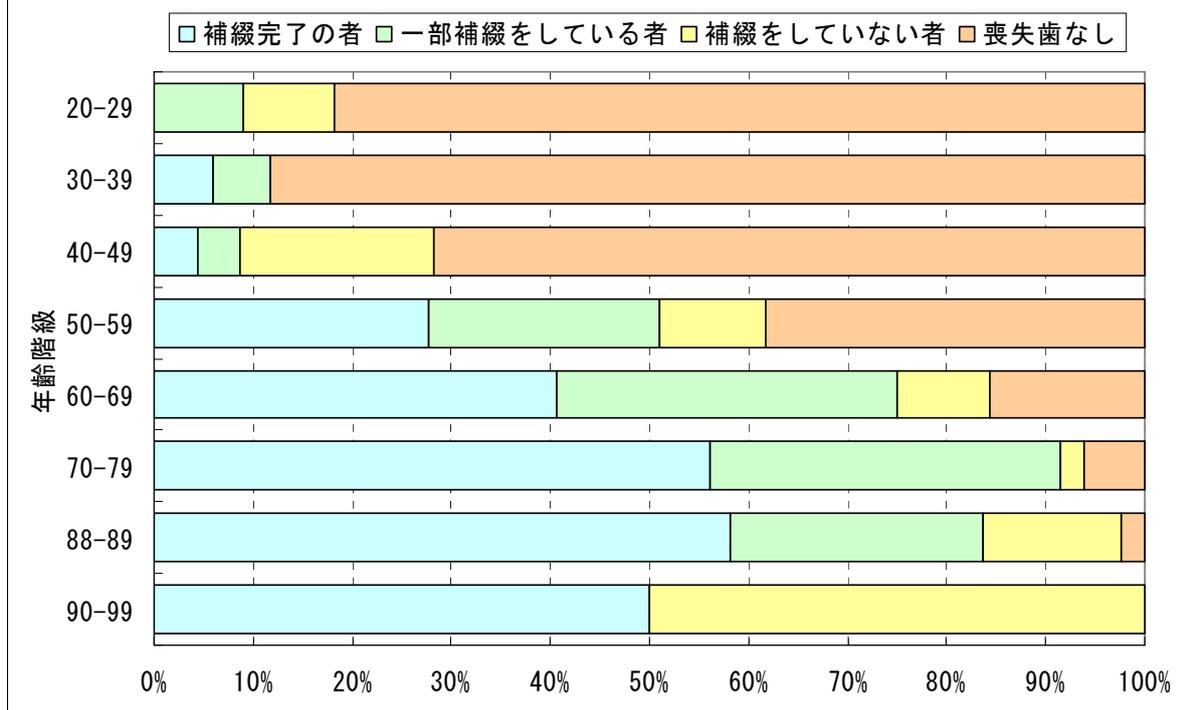
表A-14. 喪失歯およびその補綴状況

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
1) 補綴完了	0 0.0%	1 5.9%	2 4.3%	13 27.7%	39 40.6%	46 56.1%	25 58.1%	1 50.0%
2) 一部補綴	1 9.1%	1 5.9%	2 4.3%	11 23.4%	33 34.4%	29 35.4%	11 25.6%	0 0.0%
3) していない	1 9.1%	0 0.0%	9 19.6%	5 10.6%	9 9.4%	2 2.4%	6 14.0%	1 50.0%
4) 喪失歯なし	9 81.8%	15 88.2%	33 71.7%	18 38.3%	15 15.6%	5 6.1%	1 2.3%	0 0.0%
総計	11 100.0%	17 100.0%	46 100.0%	47 100.0%	96 100.0%	82 100.0%	43 100.0%	2 100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

- 1), 補綴完了の者； 2), 一部補綴をしている者；
3), 補綴をしていない者； 4), 喪失歯なし

図A-14. 喪失歯およびその補綴状況



現在歯数の地域格差：

現在歯数の分布について、県内本土と離島地域に分けて比較した結果を図表 A-15 に示した。60 歳代から離島地域では歯の喪失が顕著で、無歯顎者も高い割合で認められた。経年的にそれらの差は縮小傾向にあったが、依然として長崎県の課題と考えられる。なお離島地域の調査地区に調査時で無歯科医離島はなかったが、特に高齢者では過去の医療資源の影響と推察される。

表A-15a. 本土と離島地域における現在歯数の比較：本土

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
0歯	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 6.5%	4 7.5%	5 15.6%	0 0.0%
1-19歯	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 16.7%	8 12.9%	20 37.7%	14 43.8%	0 0.0%
20歯+	3 100.0%	10 100.0%	25 100.0%	15 83.3%	50 80.6%	29 54.7%	13 40.6%	1 100.0%
総計	3 100.0%	10 100.0%	25 100.0%	18 100.0%	62 100.0%	53 100.0%	32 100.0%	1 100.0%

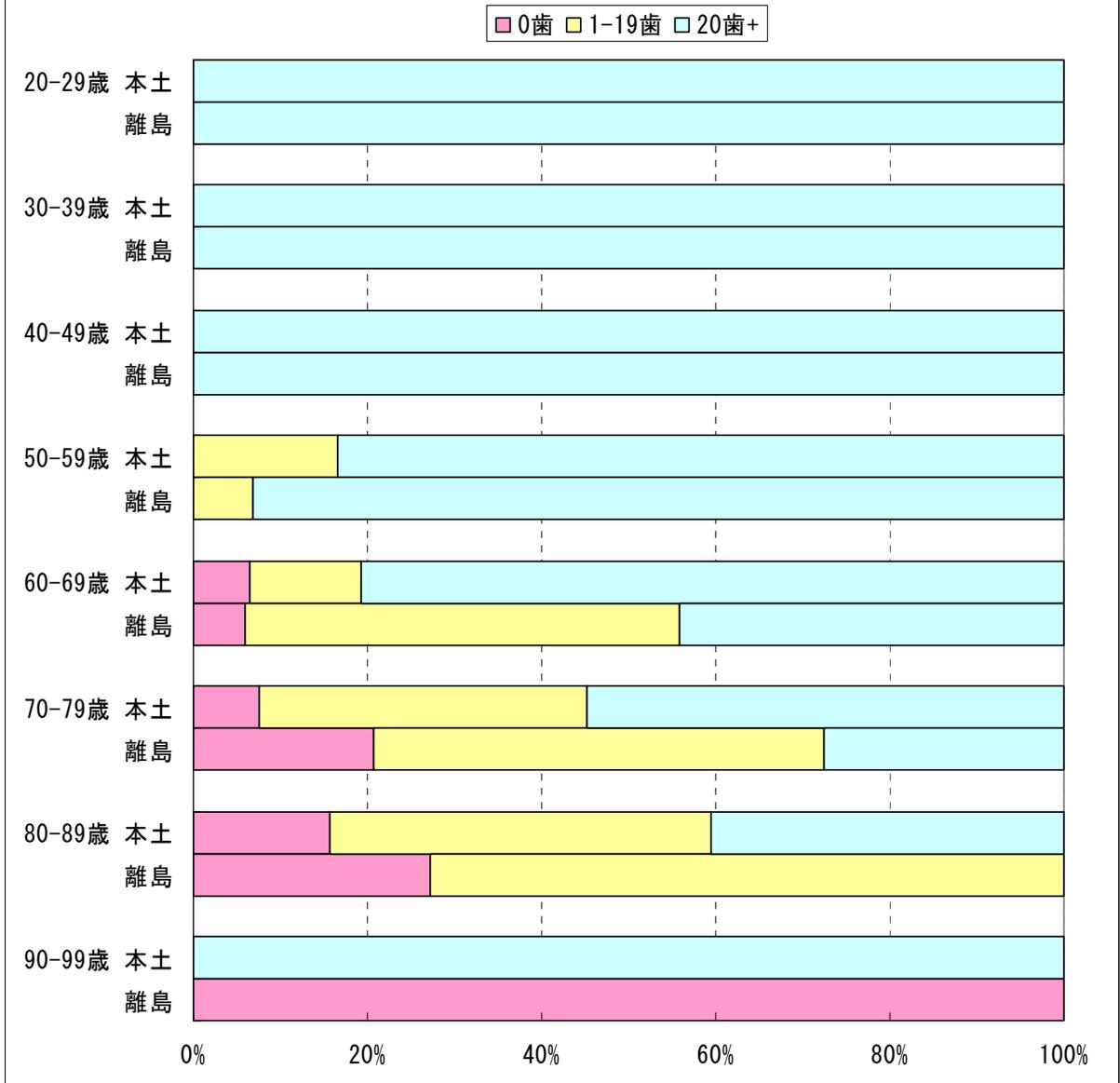
註： 上段, 人数； 下段, 割合

表A-15b. 本土と離島地域における現在歯数の比較：離島

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
0歯	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.9%	6 20.7%	3 27.3%	1 100.0%
1-19歯	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.9%	17 50.0%	15 51.7%	8 72.7%	0 0.0%
20歯+	8 100.0%	7 100.0%	21 100.0%	27 93.1%	15 44.1%	8 27.6%	0 0.0%	0 0.0%
総計	8 100.0%	7 100.0%	21 100.0%	29 100.0%	34 100.0%	29 100.0%	11 100.0%	1 100.0%

註： 上段, 人数； 下段, 割合

図A-15. 本土と離島地域における現在歯数の比較



現在歯数の経年的推移：

現在歯数の分布について、平成 17 年（2005 年）、平成 23 年（2011 年）からの推移を図表 A-16 に示した。8020 者だけでなく（表紙）他の世代においても若干の改善傾向が見られた。90 歳代の者に関しては健康寿命の延伸とも関連するかもしれない。

表A-16a. 現在歯数の経年的推移：平成28年

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
0歯	0	0	0	0	6	10	8	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	12.2%	18.6%	50.0%
1-19歯	0	0	0	5	25	35	22	0
	0.0%	0.0%	0.0%	10.6%	26.0%	42.7%	51.2%	0.0%
20歯+	11	17	46	42	65	37	13	1
	100.0%	100.0%	100.0%	89.4%	67.7%	45.1%	30.2%	50.0%
総計	11	17	46	47	96	82	43	2
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段, 人数； 下段, 割合

表A-16b. 現在歯数の経年的推移：平成23年

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
0歯	0	0	0	0	3	4	8	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.0%	13.8%	44.4%	50.0%
1-19歯	0	0	2	6	15	12	6	1
	0.0%	0.0%	6.9%	17.6%	30.0%	41.4%	33.3%	50.0%
20歯+	5	32	27	28	32	13	4	0
	100.0%	100.0%	93.1%	82.4%	64.0%	44.8%	22.2%	0.0%
総計	5	32	29	34	50	29	18	2
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

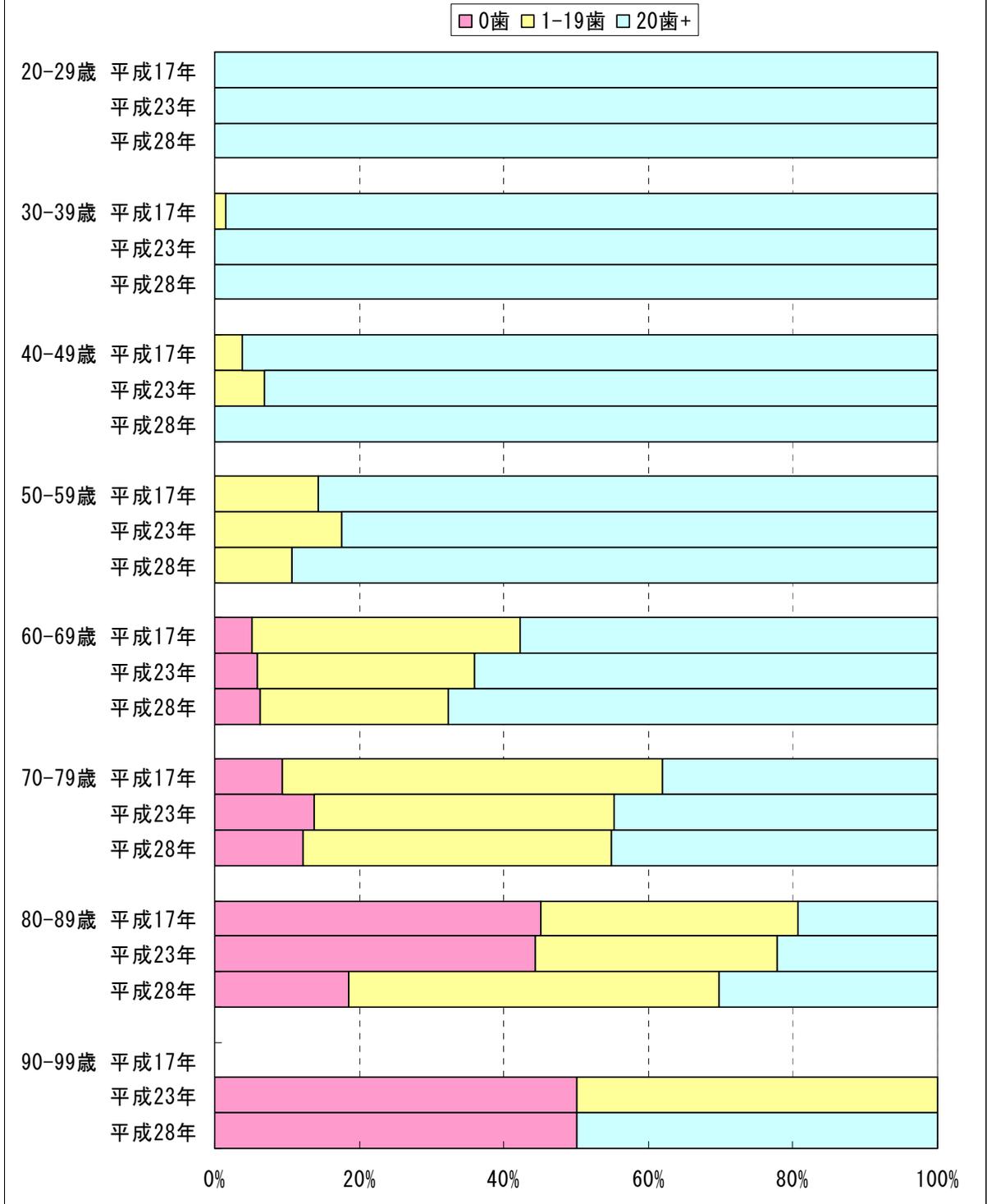
註： 上段, 人数； 下段, 割合

表A-16c. 現在歯数の経年的推移：平成17年

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89
0歯	0	0	0	0	6	9	14
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.2%	9.3%	45.2%
1-19歯	0	1	3	16	43	51	11
	0.0%	1.5%	3.9%	14.4%	37.1%	52.6%	35.5%
20歯+	36	67	74	95	67	37	6
	100.0%	98.5%	96.1%	85.6%	57.8%	38.1%	19.4%
総計	36	68	77	111	116	97	31
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段, 人数； 下段, 割合

図A-16. 現在歯数の経年的推移



現在歯数と肥満の関連性：

現在歯数について、長崎県健康・栄養調査から得られた身長・体重と連結できた個票において、肥満との関連性を年齢階級別に探索した。身長（m）・体重（kg）から求めたBMI（Body Mass Index, kg/m²）の平均値を図表A-17に、BMI25以上を肥満としてその割合を図表A-18に示した。他の交絡因子の調整がされていないこともあるが、一定の傾向は見出されなかった。

表A-17. 現在歯数とBMIの関係

現在歯数	年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
0-19歯	人数				4	29	45	26	1
	平均値				22.8	23.0	23.4	22.9	24.6
	標準偏差				3.3	3.5	2.8	2.7	
20歯+	人数	11	17	46	38	61	37	13	
	平均値	22.6	23.4	25.2	23.6	23.2	23.8	22.5	
	標準偏差	4.3	5.0	4.7	3.6	3.2	3.2	2.4	
全体	人数	11	17	46	42	90	82	39	1
	平均値	22.6	23.4	25.2	23.5	23.1	23.6	22.7	24.6
	標準偏差	4.3	5.0	4.7	3.5	3.2	3.0	2.6	

表A-18a. 現在歯数と肥満の関係：0-19歯

年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
BMI<25	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%	21 72.4%	34 75.6%	21 80.8%	1 100.0%
BMI>=25	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	8 27.6%	11 24.4%	5 19.2%	0 0.0%
総計	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	29 100.0%	45 100.0%	26 100.0%	1 100.0%

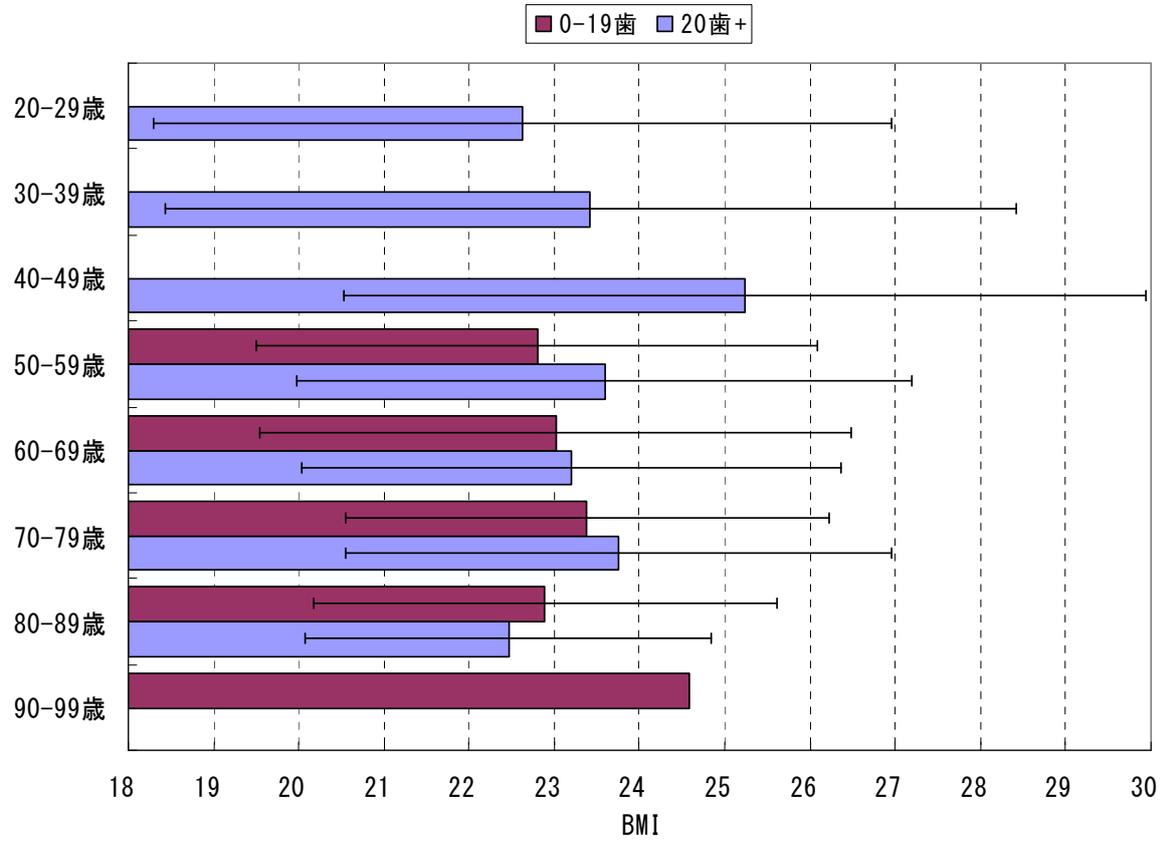
註： 上段、人数； 下段、割合

表A-18b. 現在歯数と肥満の関係：20歯+

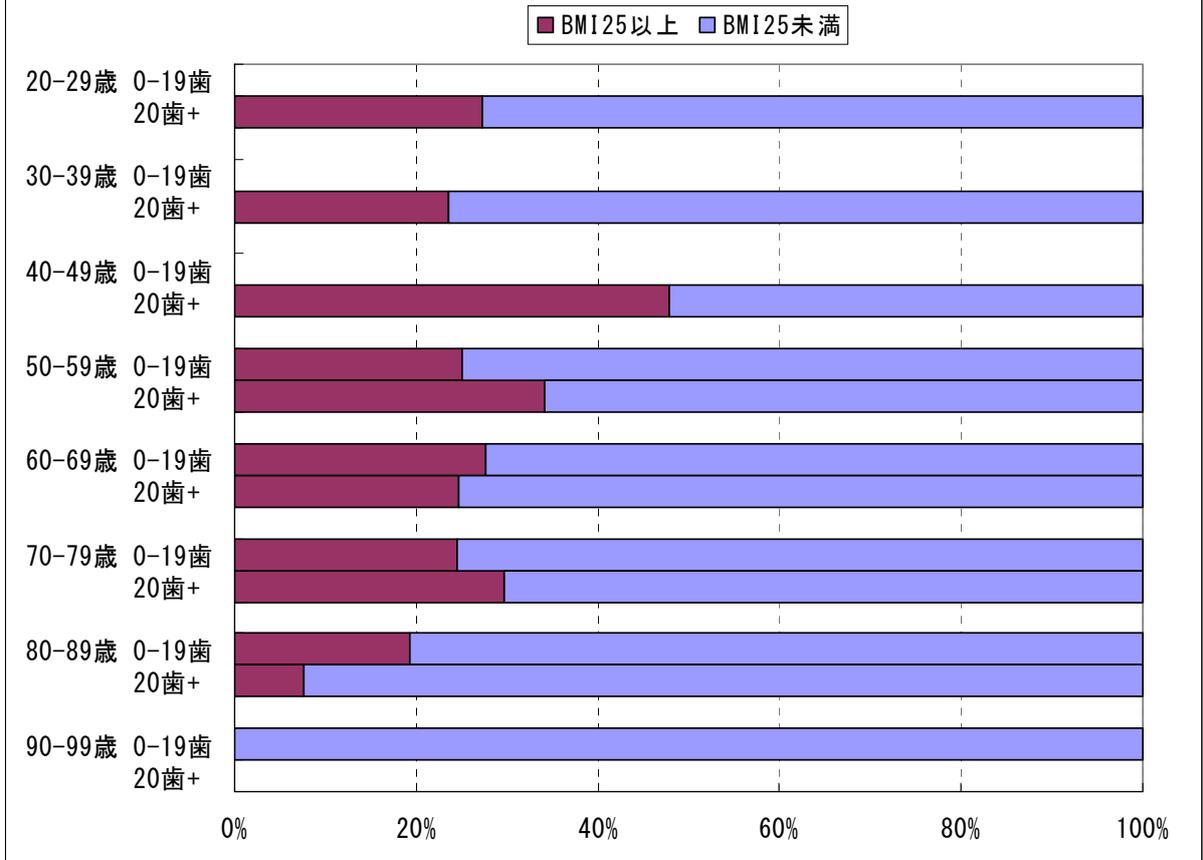
年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99
BMI<25	8 72.7%	13 76.5%	24 52.2%	25 65.8%	46 75.4%	26 70.3%	12 92.3%	0 0.0%
BMI>=25	3 27.3%	4 23.5%	22 47.8%	13 34.2%	15 24.6%	11 29.7%	1 7.7%	0 0.0%
総計	11 100.0%	17 100.0%	46 100.0%	38 100.0%	61 100.0%	37 100.0%	13 100.0%	0 0.0%

註： 上段、人数； 下段、割合

図A-17. 現在歯数とBMIの関係



図A-18. 現在歯数と肥満の関係



歯種別にみた現在歯の保有割合：

現在歯の口腔内分布（左右差はないので両側を合算）について，図表 A-15 のように県内本土と離島地域に分けて比較した結果を図表 A-19 に示した。90 歳代は本土と離島地域に各 1 人ずつであったため，分析しなかった。

第 3 大臼歯は，智歯や親不知とも呼ばれ，成人前後に萌出するが，先天欠如であったり，智歯周囲炎のために早期に抜歯されることも多い。20 歳代でも保有状況は半数に満たなかった。次いで第 1 小臼歯の保有割合が 20 歳代においても低かったが，矯正治療のため便宜抜歯をされたものと考えられる。その他，外傷も歯の喪失の原因となるが，う蝕に継発するものと歯周病によるものが圧倒的である。う蝕と歯周病の好発部位が歯の喪失のリスク部位である。

歯の喪失は，50 歳代から下顎第 1 大臼歯で見られた。離島地域では 60 歳代から全顎的に認められたが，特に下顎第 1 大臼歯と下顎第 2 大臼歯において本土との差が大きかった。上顎は中切歯，側切歯，第 1 小臼歯，第 2 小臼歯でも差が見られた。80 歳代ではその差は拡大し，上顎でも顕著な差が認められた。最も喪失のリスクが低い歯種は，下顎犬歯であった。

歯種により喪失の時期など傾向が異なることが示された。

表A-19. 本土と離島地域における歯種別にみた現在歯の保有割合

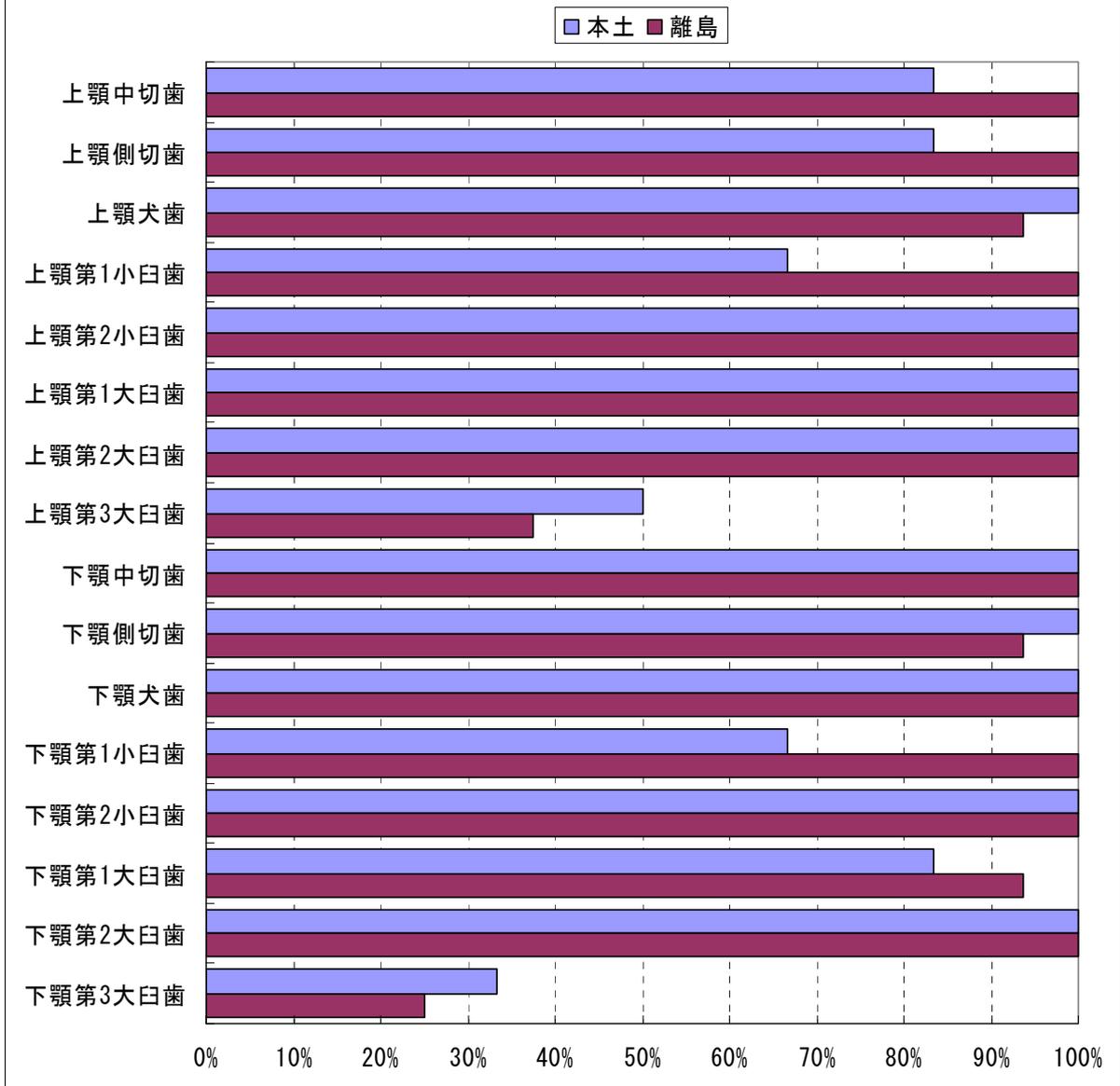
歯種	年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89
上顎 中切歯	本土	5	20	50	34	104	66	27
		83.3%	100.0%	100.0%	94.4%	83.9%	62.3%	42.2%
	離島	16	14	42	54	41	23	0
		100.0%	100.0%	100.0%	93.1%	60.3%	39.7%	0.0%
下顎 中切歯	本土	6	20	50	35	111	73	36
		100.0%	100.0%	100.0%	97.2%	89.5%	68.9%	56.3%
	離島	16	14	41	56	53	35	4
		100.0%	100.0%	97.6%	96.6%	77.9%	60.3%	18.2%
上顎 側切歯	本土	5	20	49	34	102	72	28
		83.3%	100.0%	98.0%	94.4%	82.3%	67.9%	43.8%
	離島	16	14	41	50	39	28	0
		100.0%	100.0%	97.6%	86.2%	57.4%	48.3%	0.0%
下顎 側切歯	本土	6	20	49	35	111	77	38
		100.0%	100.0%	98.0%	97.2%	89.5%	72.6%	59.4%
	離島	15	14	42	57	56	34	6
		93.8%	100.0%	100.0%	98.3%	82.4%	58.6%	27.3%
上顎 犬歯	本土	6	20	50	31	105	77	32
		100.0%	100.0%	100.0%	86.1%	84.7%	72.6%	50.0%
	離島	15	14	42	56	50	30	2
		93.8%	100.0%	100.0%	96.6%	73.5%	51.7%	9.1%
下顎 犬歯	本土	6	20	50	36	114	85	46
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	91.9%	80.2%	71.9%
	離島	16	14	41	57	62	38	10
		100.0%	100.0%	97.6%	98.3%	91.2%	65.5%	45.5%
上顎 第1小臼歯	本土	4	20	42	29	101	56	32
		66.7%	100.0%	84.0%	80.6%	81.5%	52.8%	50.0%
	離島	16	14	42	52	37	24	2
		100.0%	100.0%	100.0%	89.7%	54.4%	41.4%	9.1%
下顎 第1小臼歯	本土	4	20	45	33	108	71	35
		66.7%	100.0%	90.0%	91.7%	87.1%	67.0%	54.7%
	離島	16	14	42	56	44	31	10
		100.0%	100.0%	100.0%	96.6%	64.7%	53.4%	45.5%

註： 上段, 歯数 (左右側合計) ; 下段, 割合

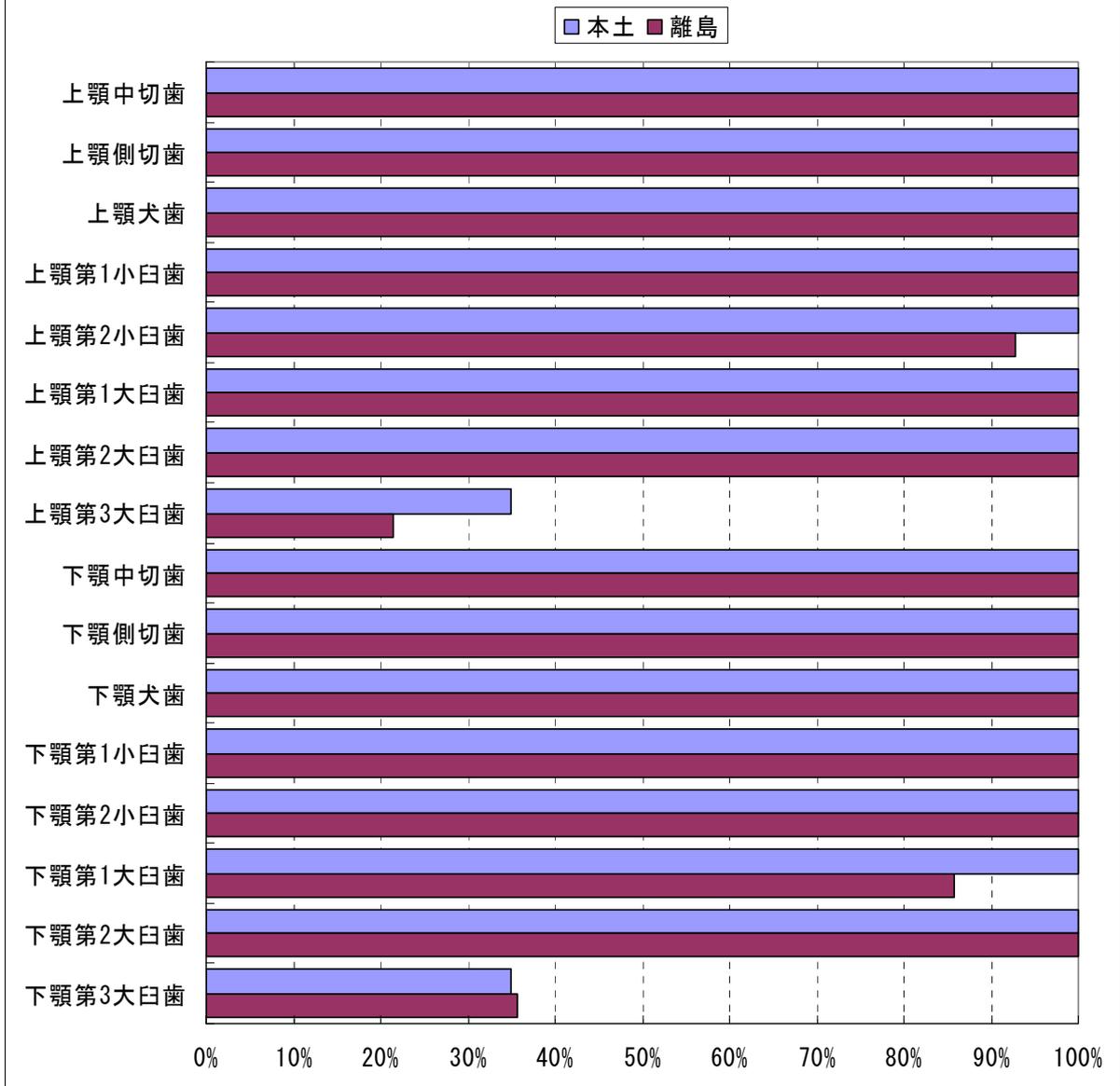
表A-19. (続き)

歯種	年齢階級	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89
上顎 第2小臼歯	本土	6	20	48	27	97	57	31
		100.0%	100.0%	96.0%	75.0%	78.2%	53.8%	48.4%
	離島	16	13	41	51	36	24	3
		100.0%	92.9%	97.6%	87.9%	52.9%	41.4%	13.6%
下顎 第2小臼歯	本土	6	20	48	34	86	61	28
		100.0%	100.0%	96.0%	94.4%	69.4%	57.5%	43.8%
	離島	16	14	40	54	38	27	3
		100.0%	100.0%	95.2%	93.1%	55.9%	46.6%	13.6%
上顎 第1大臼歯	本土	6	20	48	30	83	50	27
		100.0%	100.0%	96.0%	83.3%	66.9%	47.2%	42.2%
	離島	16	14	40	47	41	19	3
		100.0%	100.0%	95.2%	81.0%	60.3%	32.8%	13.6%
下顎 第1大臼歯	本土	5	20	44	26	70	43	20
		83.3%	100.0%	88.0%	72.2%	56.5%	40.6%	31.3%
	離島	15	12	39	44	24	20	5
		93.8%	85.7%	92.9%	75.9%	35.3%	34.5%	22.7%
上顎 第2大臼歯	本土	6	20	48	30	75	50	17
		100.0%	100.0%	96.0%	83.3%	60.5%	47.2%	26.6%
	離島	16	14	40	44	35	14	3
		100.0%	100.0%	95.2%	75.9%	51.5%	24.1%	13.6%
下顎 第2大臼歯	本土	6	20	44	30	83	47	17
		100.0%	100.0%	88.0%	83.3%	66.9%	44.3%	26.6%
	離島	16	14	40	47	24	18	1
		100.0%	100.0%	95.2%	81.0%	35.3%	31.0%	4.5%
上顎 第3大臼歯	本土	3	7	9	6	8	11	4
		50.0%	35.0%	18.0%	16.7%	6.5%	10.4%	6.3%
	離島	6	3	6	5	6	1	1
		37.5%	21.4%	14.3%	8.6%	8.8%	1.7%	4.5%
下顎 第3大臼歯	本土	2	7	13	5	14	9	3
		33.3%	35.0%	26.0%	13.9%	11.3%	8.5%	4.7%
	離島	4	5	9	9	11	3	0
		25.0%	35.7%	21.4%	15.5%	16.2%	5.2%	0.0%

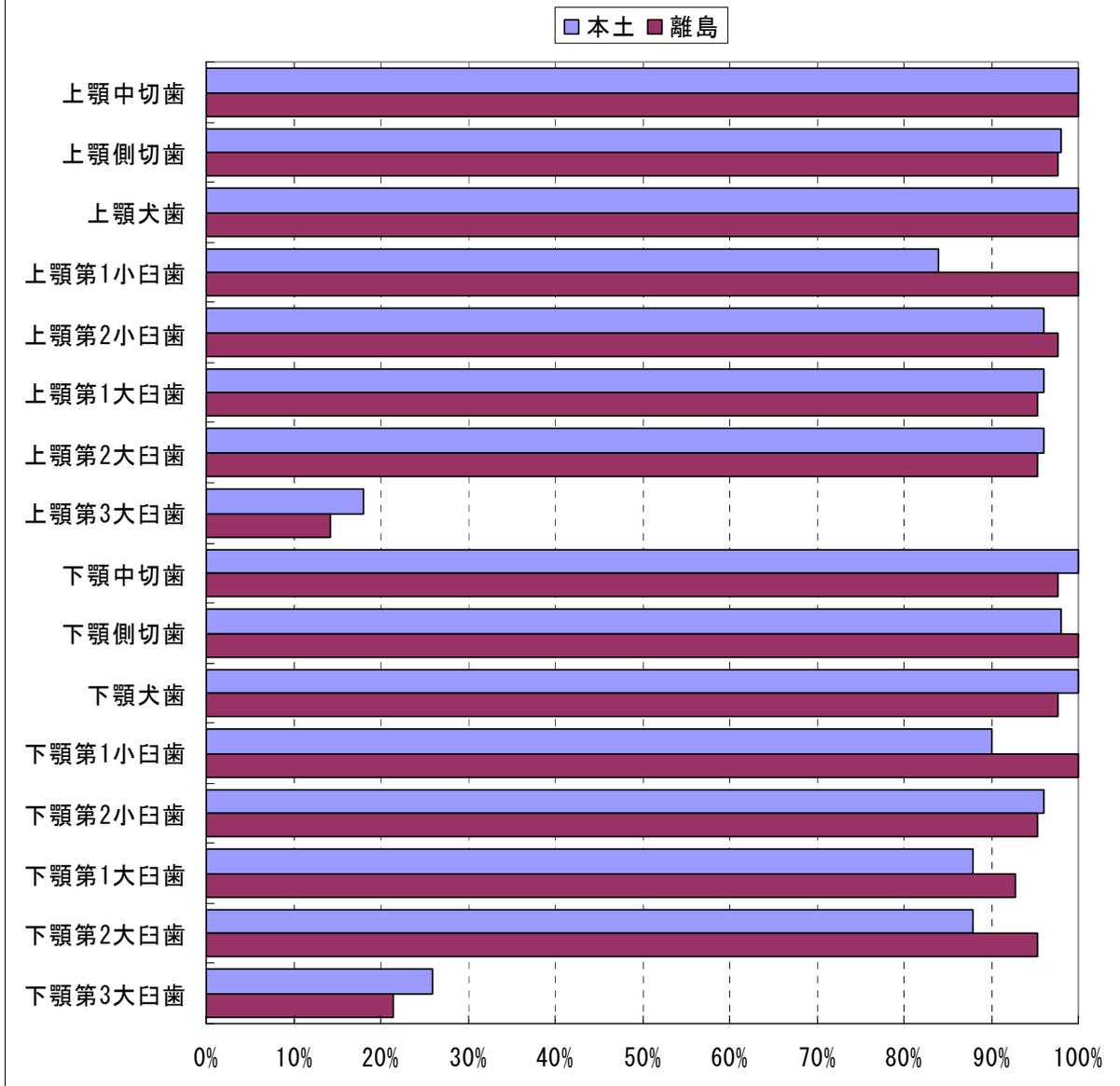
図A-19a. 本土と離島地域における歯種別にみた現在歯の保有割合：20-29歳



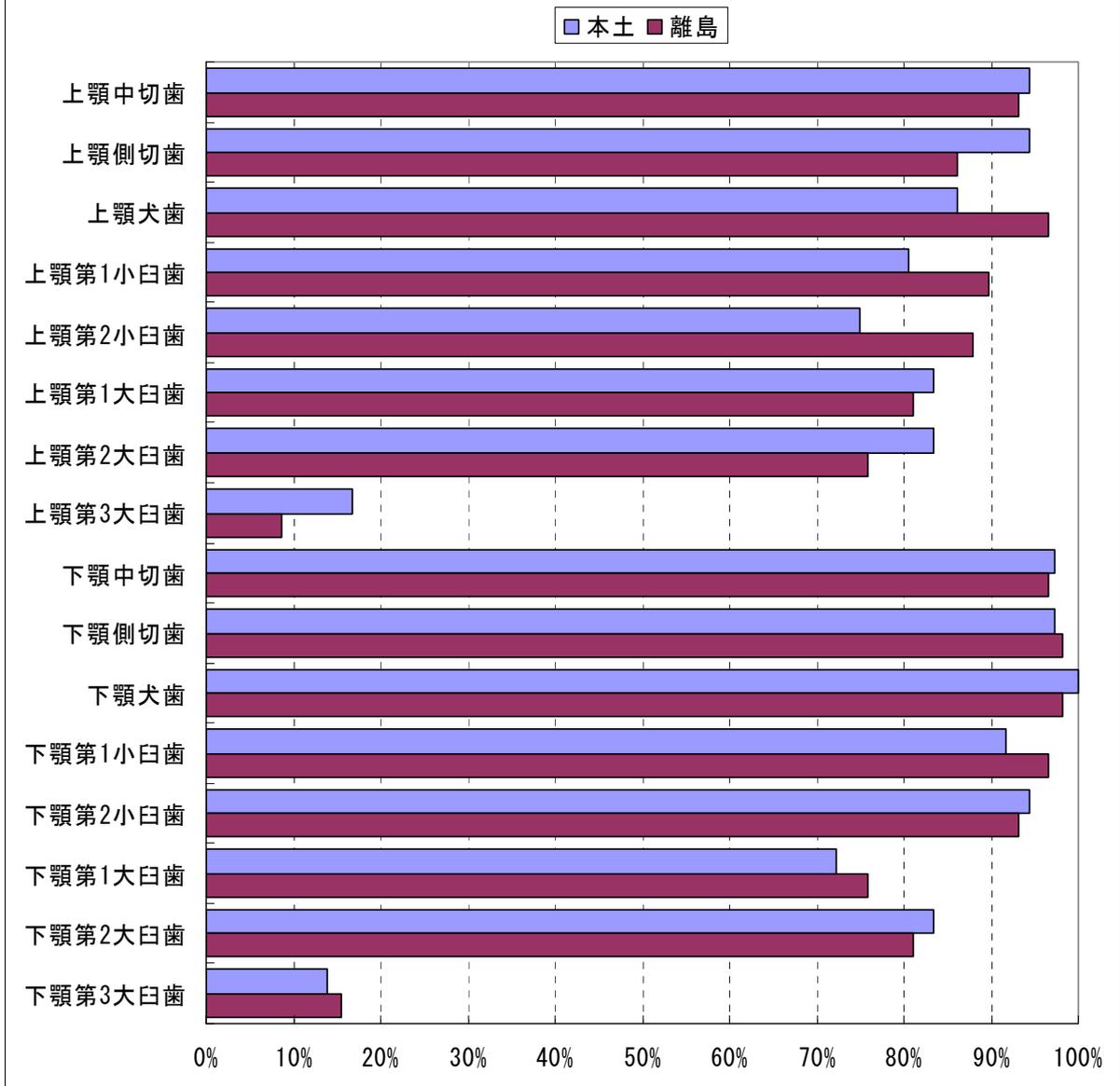
図A-19b. 本土と離島地域における歯種別に応じた現在歯の保有割合：30-39歳



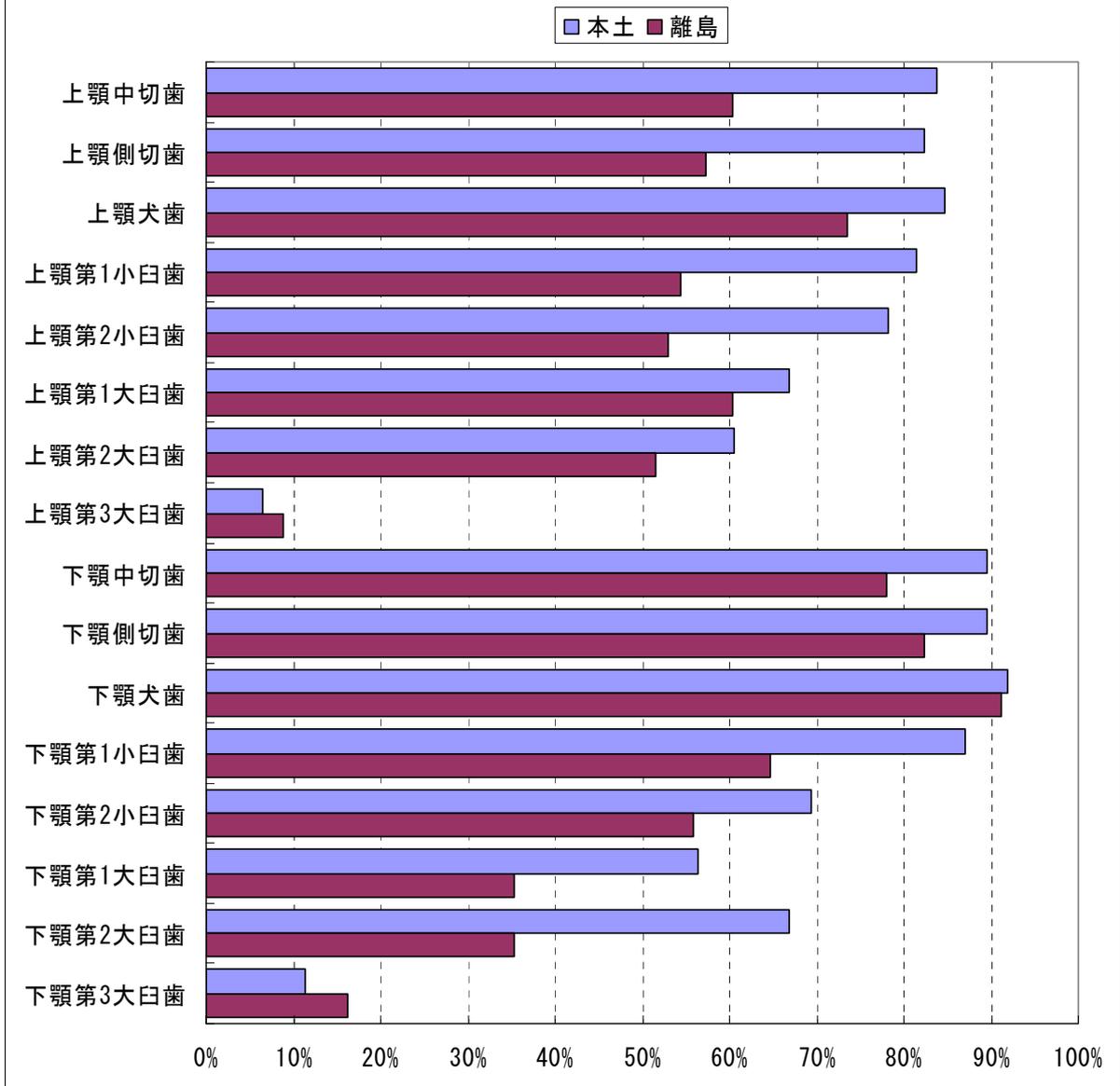
図A-19c. 本土と離島地域における歯種別にみた現在歯の保有割合：40-49歳



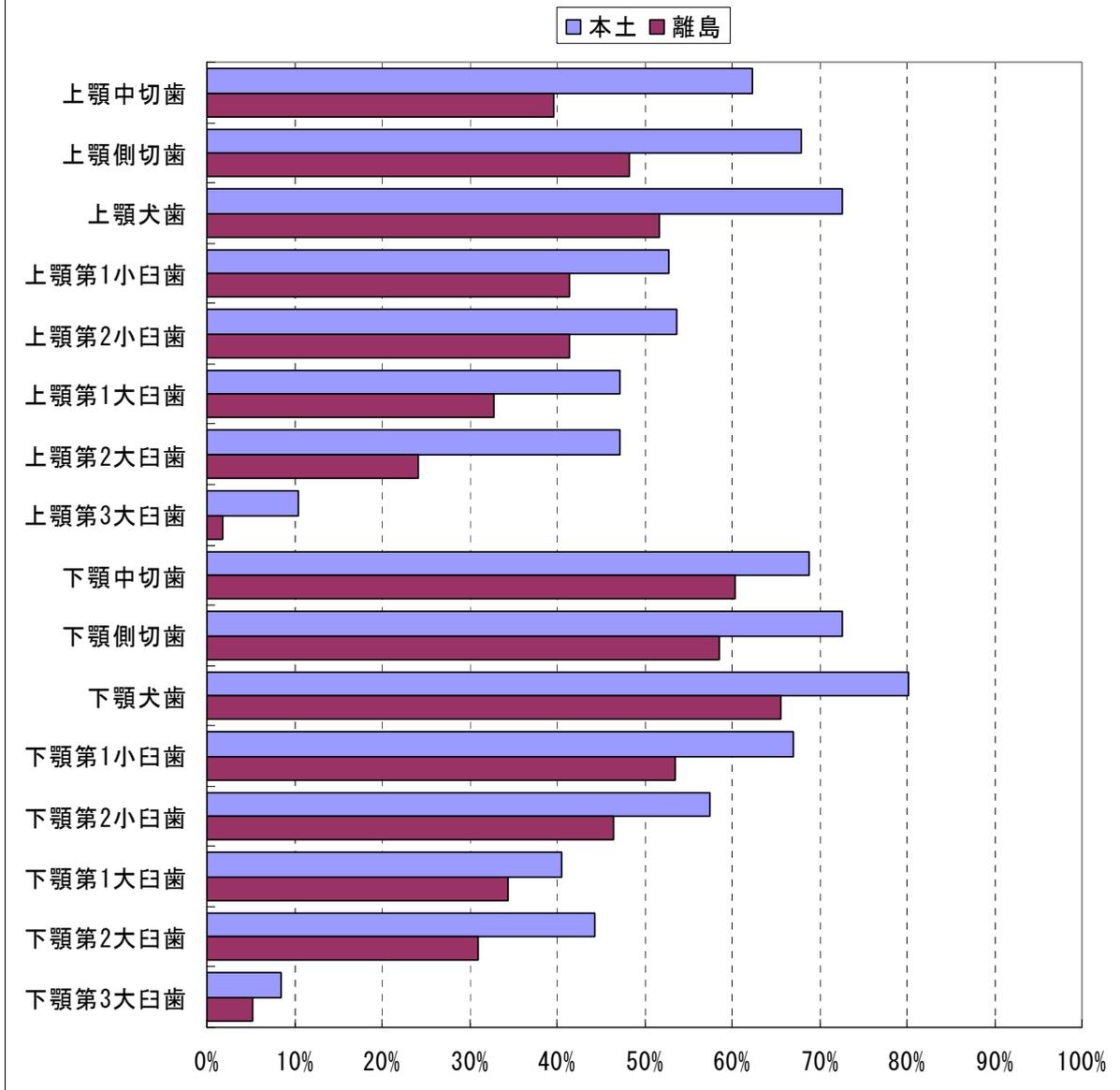
図A-19d. 本土と離島地域における歯種別にみた現在歯の保有割合：50-59歳



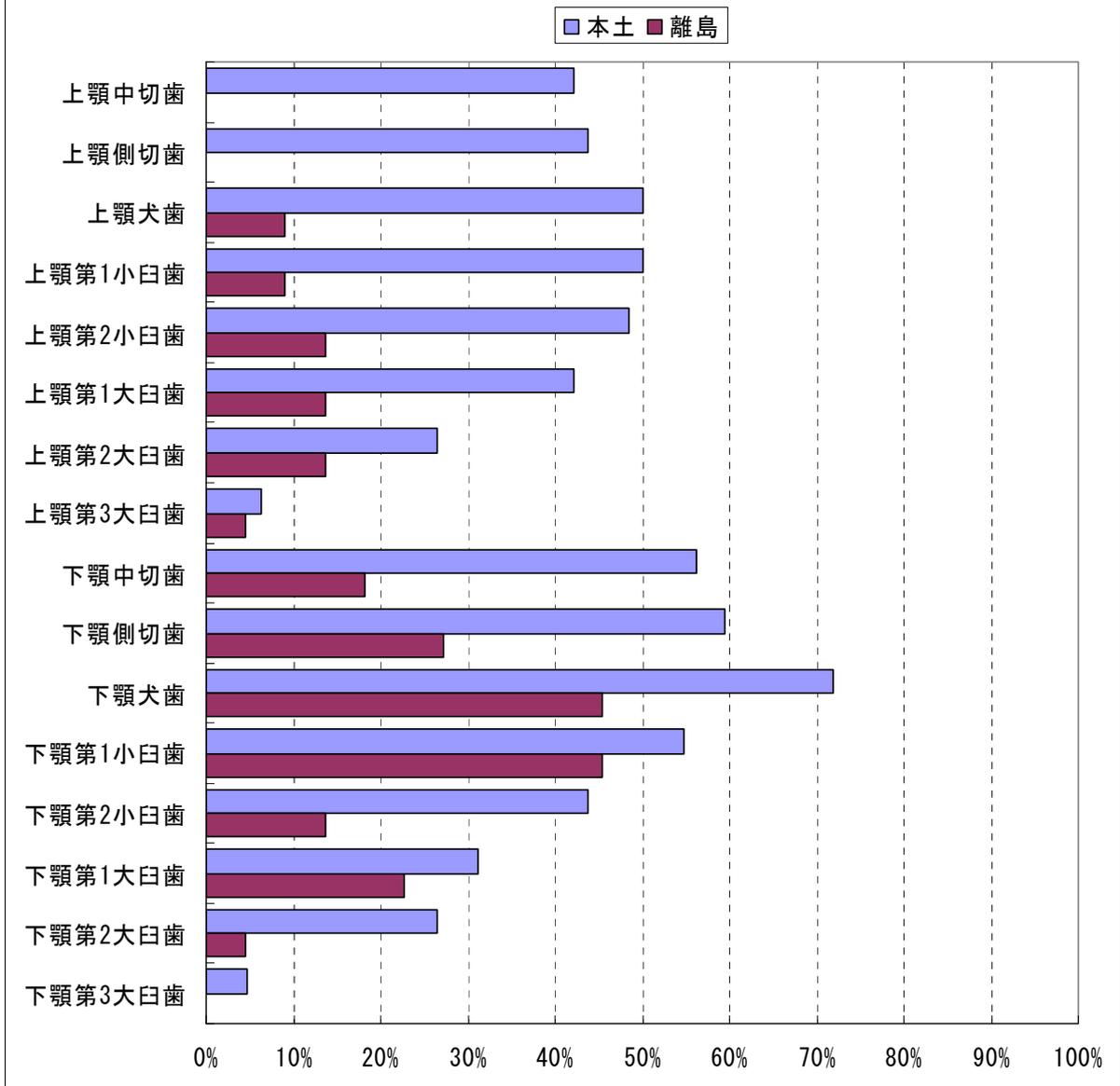
図A-19e. 本土と離島地域における歯種別にみた現在歯の保有割合：60-69歳



図A-19f. 本土と離島地域における歯種別にみた現在歯の保有割合：70-79歳



図A-19g. 本土と離島地域における歯種別にみた現在歯の保有割合：80-89歳



3. 結果のまとめ—口腔内診査（小児：20歳未満）

現在歯（乳歯・永久歯）：

乳歯・永久歯の現在歯数について図表 C-1 に示した。1歳は歯の萌出の個人差が大きく、2歳までに急激に増え、3歳で20歯となる。また5歳から永久歯の萌出による増加が見られ、乳歯の交換を通じて28歯の完成が14歳までにあった。ただし少数例であり、参考値とされたい。

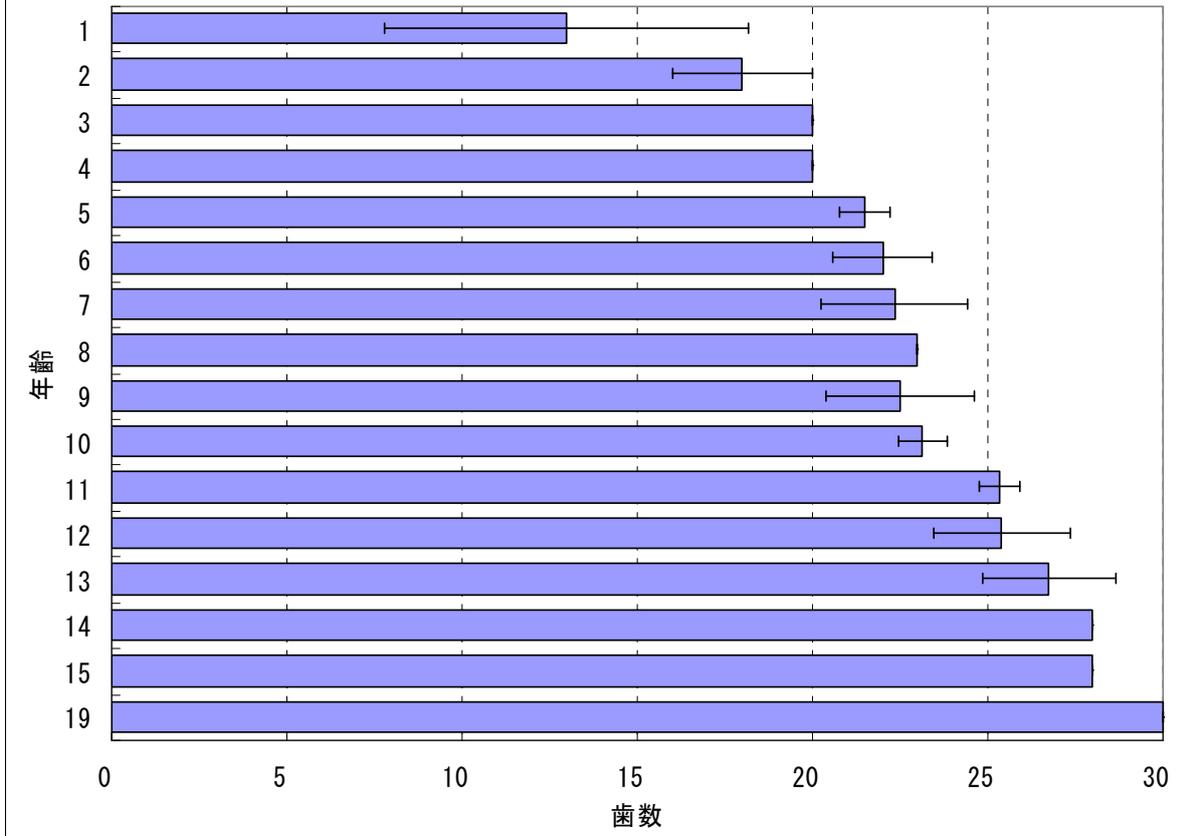
表C-1. 乳歯・永久歯の一人平均現在歯数（pt ; PT指数）

年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9
人数	3	3	2	2	2	2	3	2	2
平均値	13.0	18.0	20.0	20.0	21.5	22.0	22.3	23.0	22.5
標準偏差	5.2	2.0	0.0	0.0	0.7	1.4	2.1	0.0	2.1

表C-1. （続き）

年齢	10	11	12	13	14	15	19
人数	7	3	5	4	1	1	1
平均値	23.1	25.3	25.4	26.8	28.0	28.0	30.0
標準偏差	0.7	0.6	1.9	1.9			

図C-1. 乳歯・永久歯の一人平均現在歯数 (pt ; PT指数)



健全歯（永久歯）：

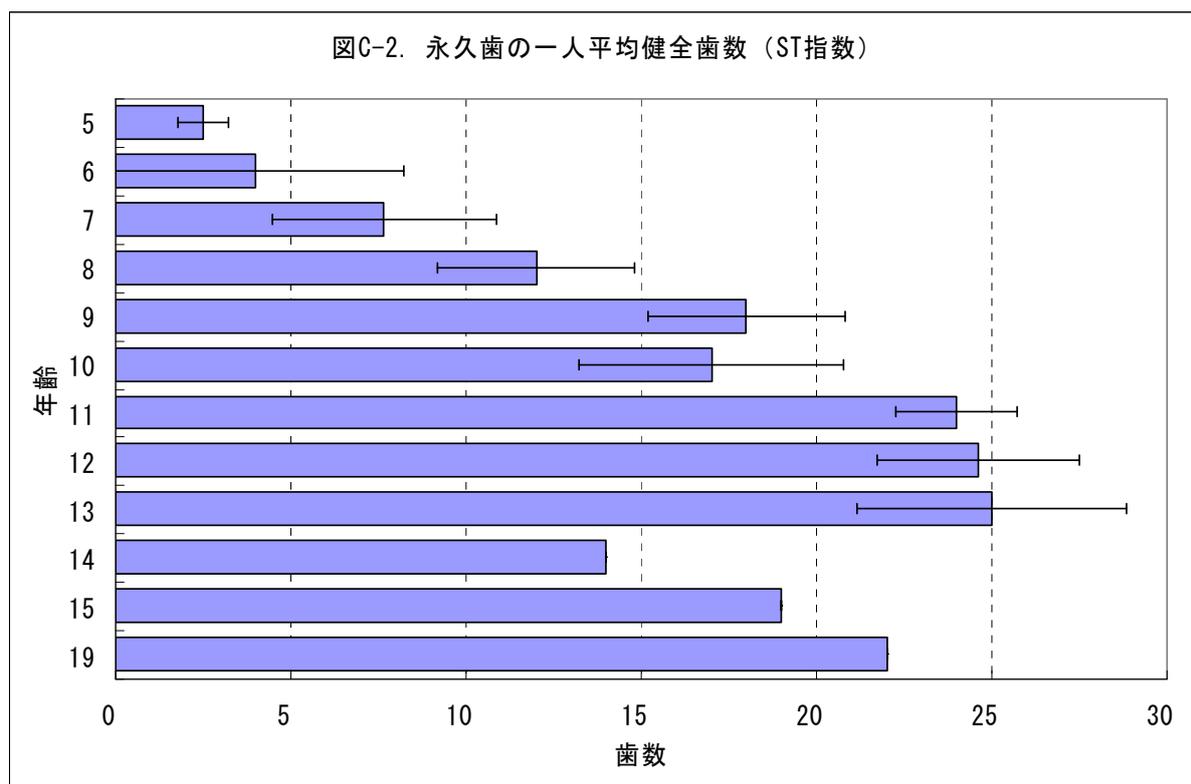
永久歯の健全歯について図表 C-2 に示した。現在歯との差は、ほとんどがう蝕の発症によるものと推察される。ただし少数例であり、参考値とされたい。

表C-2. 永久歯の一人平均健全歯数（ST指数）

年齢	5	6	7	8	9
人数	2	2	3	2	2
平均値	2.5	4.0	7.7	12.0	18.0
標準偏差	0.7	4.2	3.2	2.8	2.8

表C-2. （続き）

年齢	10	11	12	13	14	15	19
人数	7	3	5	4	1	1	1
平均値	17.0	24.0	24.6	25.0	14.0	19.0	22.0
標準偏差	3.8	1.7	2.9	3.8			



処置歯（永久歯）：

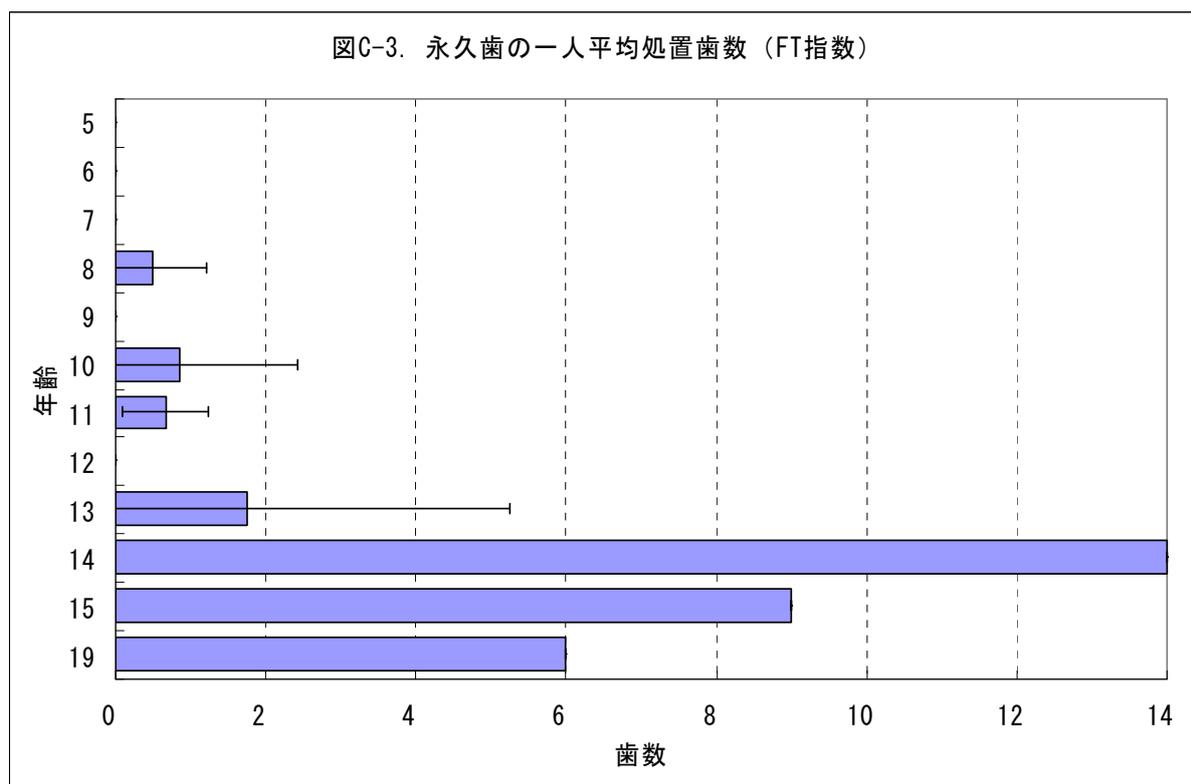
永久歯の処置歯について図表 C-3 に示した。処置歯数は個人差が大きく，13 歳から高い値となった。ただし少数例であり，参考値とされたい。

表C-3. 永久歯の一人平均処置歯数（FT指数）

年齢	5	6	7	8	9
人数	2	2	3	2	2
平均値	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
標準偏差	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0

表C-3. （続き）

年齢	10	11	12	13	14	15	19
人数	7	3	5	4	1	1	1
平均値	0.9	0.7	0.0	1.8	14.0	9.0	6.0
標準偏差	1.6	0.6	0.0	3.5			



処置歯＋未処置歯（永久歯）：

永久歯で 1 歯以上の処置歯または未処置歯保有者の割合，すなわちう蝕経験者率（DF 者率）について図表 C-4 に示した。永久歯が萌出する 5 歳から 7 歳までう蝕経験者は見られなかったが，14 歳から全員であった。12 歳児の永久歯一人平均う蝕経験歯数（DMFT 指数）は 0 となった。ただし少数例であり，参考値とされたい。なお文部科学省の学校保健統計調査でも減少傾向が示されている。

表C-4. 永久歯の処置歯・未処置歯保有者の割合（DF者率，分母：永久歯保有者）

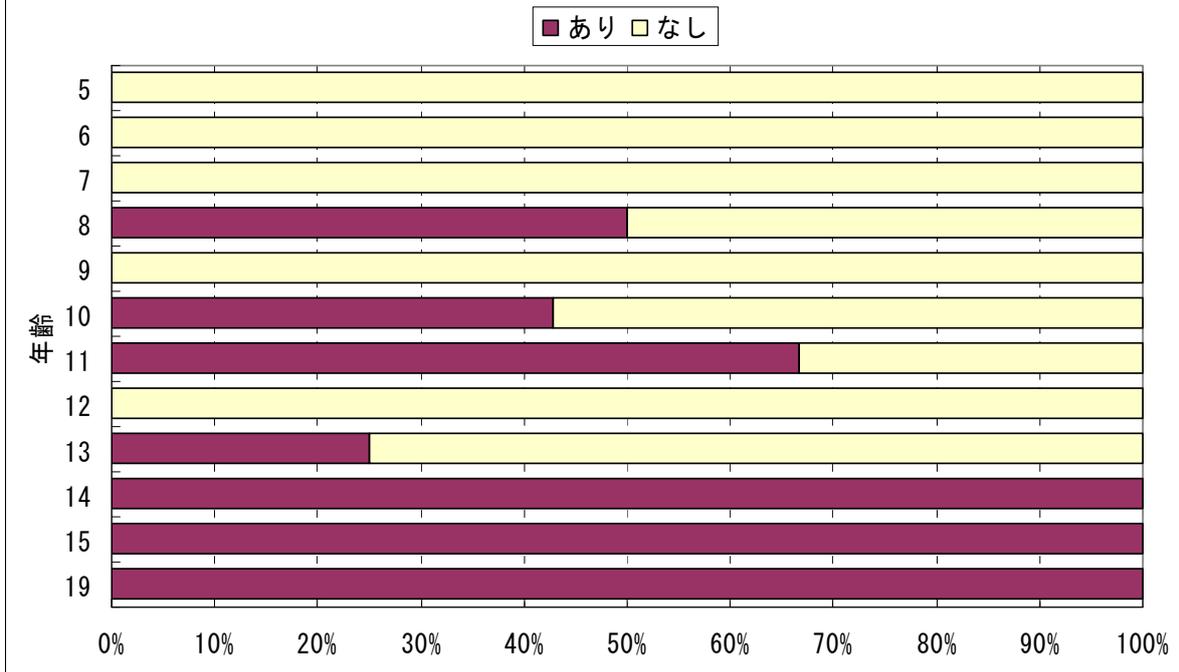
年齢	5	6	7	8	9
なし	2	2	3	1	2
	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%
あり				1	
	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
総計	2	2	3	2	2
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

表C-4. （続き）

年齢	10	11	12	13	14	15	19
なし	4	1	5	3			
	57.1%	33.3%	100.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%
あり	3	2		1	1	1	1
	42.9%	66.7%	0.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%
総計	7	3	5	4	1	1	1
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図C-4. 永久歯の処置歯・未処置歯保有者の割合
(DF者率, 分母: 永久歯保有者)



未処置歯（永久歯）：

永久歯の未処置歯について図表 C-5 と図表 C-6 に示した。1 歯以上の未処置歯保有者は極めて限定的で、図表 C-4 との差からう蝕は概ね処置されていた。ただし少数例であり、参考値とされたい。

表C-5. 永久歯の未処置歯保有者の割合（D者率，分母：永久歯保有者）

年齢	5	6	7	8	9
なし	2	2	3	2	2
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
あり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計	2	2	3	2	2
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

表C-5. （続き）

年齢	10	11	12	13	14	15	19
なし	6	3	5	4	1	1	
	85.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
あり	1						1
	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
総計	7	3	5	4	1	1	1
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

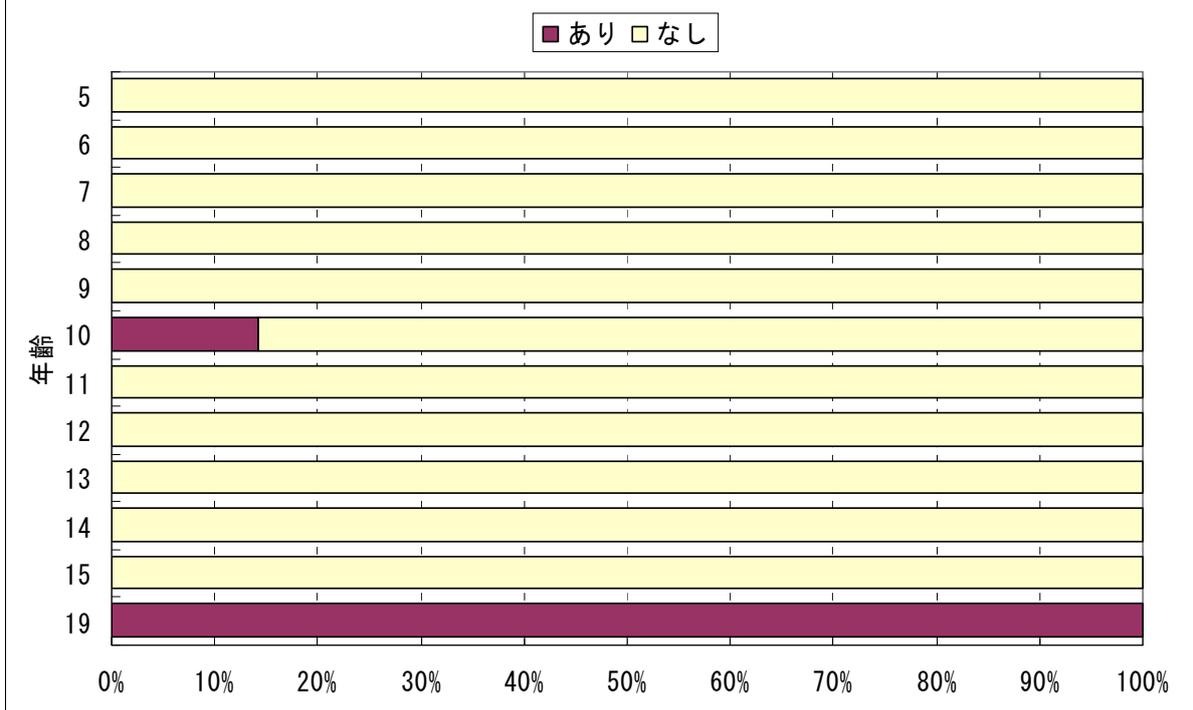
表C-6. 永久歯の一人平均未処置歯数（DT指数，分母：口腔内診査＝永久歯保有者）

年齢	5	6	7	8	9
人数	2	2	3	2	2
平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
標準偏差	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

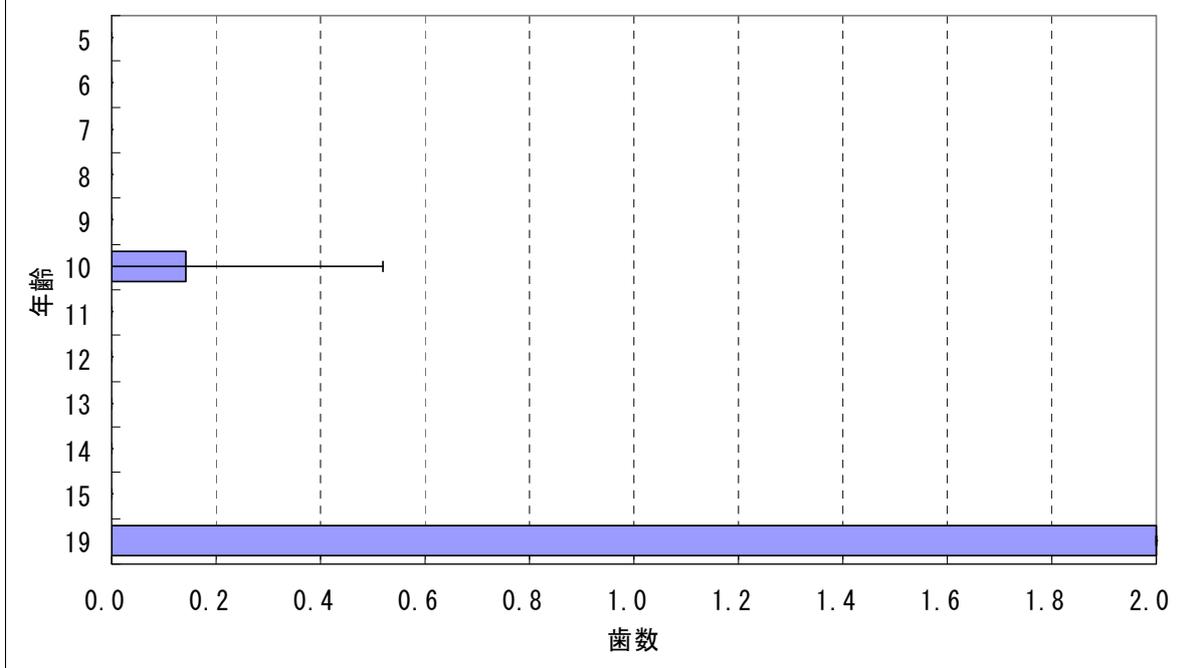
表C-6. （続き）

年齢	10	11	12	13	14	15	19
人数	7	3	5	4	1	1	1
平均値	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
標準偏差	0.4	0.0	0.0	0.0			

図C-5. 永久歯の未処置歯保有者の割合 (D者率, 分母: 永久歯保有者)



図C-6. 永久歯の一人平均未処置歯数 (DT指数, 分母: 口腔内診査=永久歯保有者)



健全歯（乳歯）：

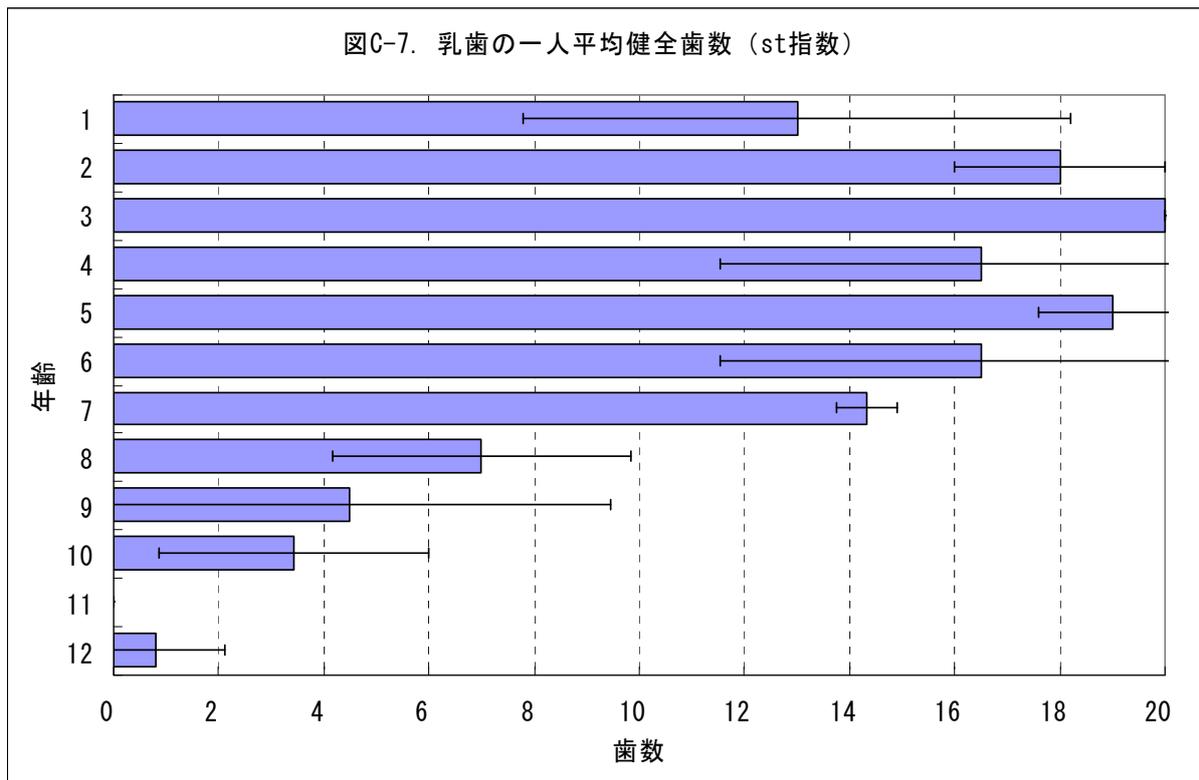
乳歯の健全歯について図表 C-7 に示した。現在歯との差は、ほとんどがう蝕の発症によるものと推察される。ただし少数例であり、参考値とされたい。

表C-7. 乳歯の一人平均健全歯数（st指数）

年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9
人数	3	3	2	2	2	2	3	2	2
平均値	13.0	18.0	20.0	16.5	19.0	16.5	14.3	7.0	4.5
標準偏差	5.2	2.0	0.0	4.9	1.4	4.9	0.6	2.8	4.9

表C-7. （続き）

年齢	10	11	12
人数	7	3	5
平均値	3.4	0.0	0.8
標準偏差	2.6	0.0	1.3



処置歯（乳歯）：

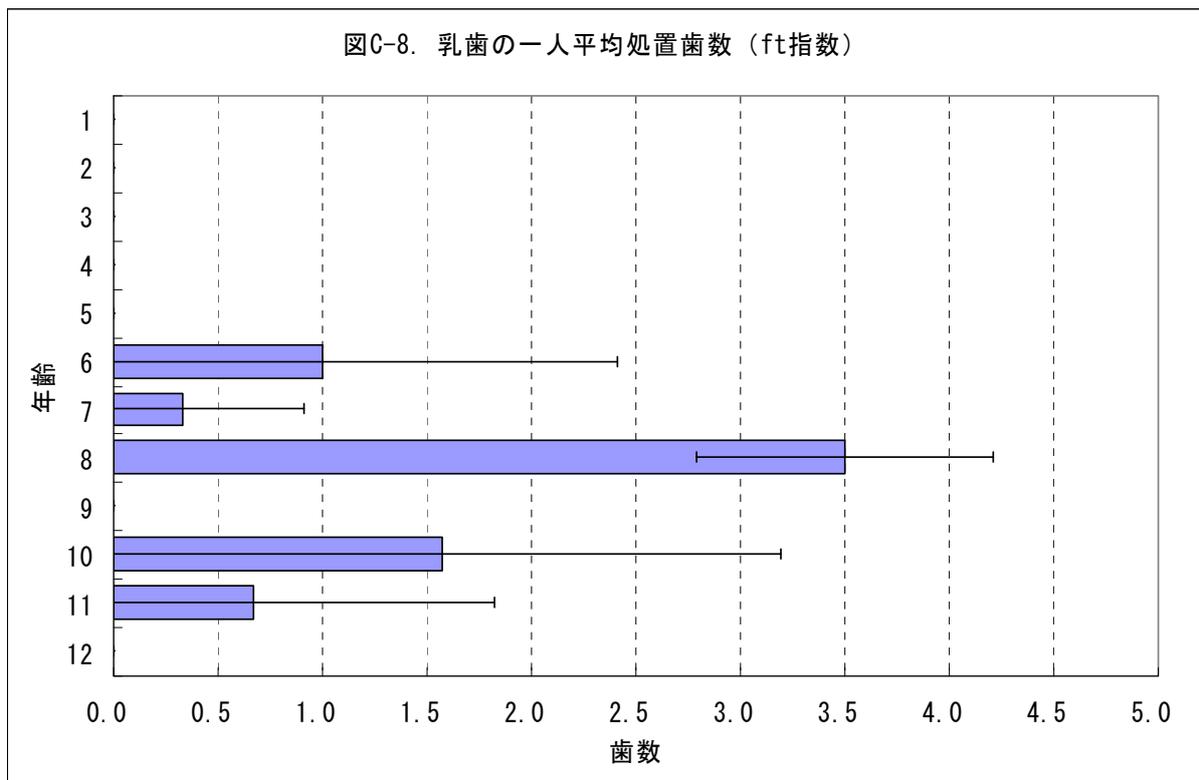
乳歯の処置歯について図表 C-8 に示した。処置歯数は個人差が大きく、8歳で最も高い値となったが、その後は生理的脱落の影響もあり再び低い値となった。ただし少数例であり、参考値とされたい。

表C-8. 乳歯の一人平均処置歯数（ft指数）

年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9
人数	3	3	2	2	2	2	3	2	2
平均値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.3	3.5	0.0
標準偏差	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.6	0.7	0.0

表C-8. （続き）

年齢	10	11	12
人数	7	3	5
平均値	1.6	0.7	0.0
標準偏差	1.6	1.2	0.0



処置歯＋未処置歯（乳歯）：

乳歯で1歯以上の処置歯または未処置歯保有者の割合，すなわちう蝕経験者率（df者率）について図表C-9に示した。3歳までう蝕経験者はいなかったが，4歳から見られた。1歳から4歳まで10人のう蝕罹患型（OABC分類）に関して，9割がう蝕経験のないO型で，残る1割（1人）はB型（上顎前歯および臼歯のう蝕）であった。ただし少数例であり，参考値とされたい。なお厚生労働省の「地域保健・健康増進事業報告」に見る1歳6か月児ならびに3歳児歯科健康診査実施状況でも減少傾向が示されている。

表C-9. 乳歯の処置歯・未処置歯保有者の割合（df者率，分母：乳歯保有者）

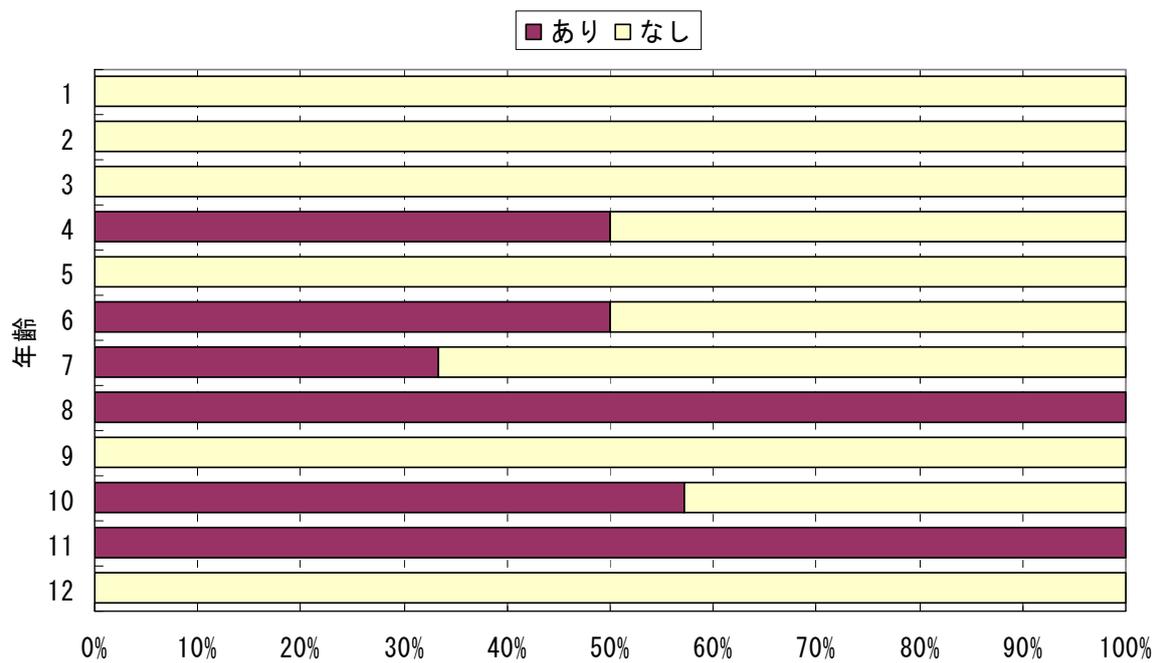
年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9
なし	3	3	2	1	2	1	2		2
	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	66.7%	0.0%	100.0%
あり				1		1	1	2	
	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	33.3%	100.0%	0.0%
総計	3	3	2	2	2	2	3	2	2
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

表C-9. （続き）

年齢	10	11	12
なし	3		2
	42.9%	0.0%	100.0%
あり	4	1	
	57.1%	100.0%	0.0%
総計	7	1	2
	100.0%	100.0%	100.0%

図C-9. 乳歯の処置歯・未処置歯保有者の割合
(df者率, 分母: 乳歯保有者)



未処置歯（乳歯）：

乳歯の未処置歯について図表 C-10 と図表 C-11 に示した。1 歯以上の未処置歯保有者は極めて限定的で、図表 C-9 との差からう蝕は概ね処置されていた。ただし少数例であり、参考値とされたい。

表C-10. 乳歯の未処置歯保有者の割合（d者率，分母：乳歯保有者）

年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9
なし	3	3	2	1	2	1	3	2	2
	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%
あり				1		1			
	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計	3	3	2	2	2	2	3	2	2
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

表C-10. （続き）

年齢	10	11	12
なし	6	1	2
	85.7%	100.0%	100.0%
あり	1		
	14.3%	0.0%	0.0%
総計	7	1	2
	100.0%	100.0%	100.0%

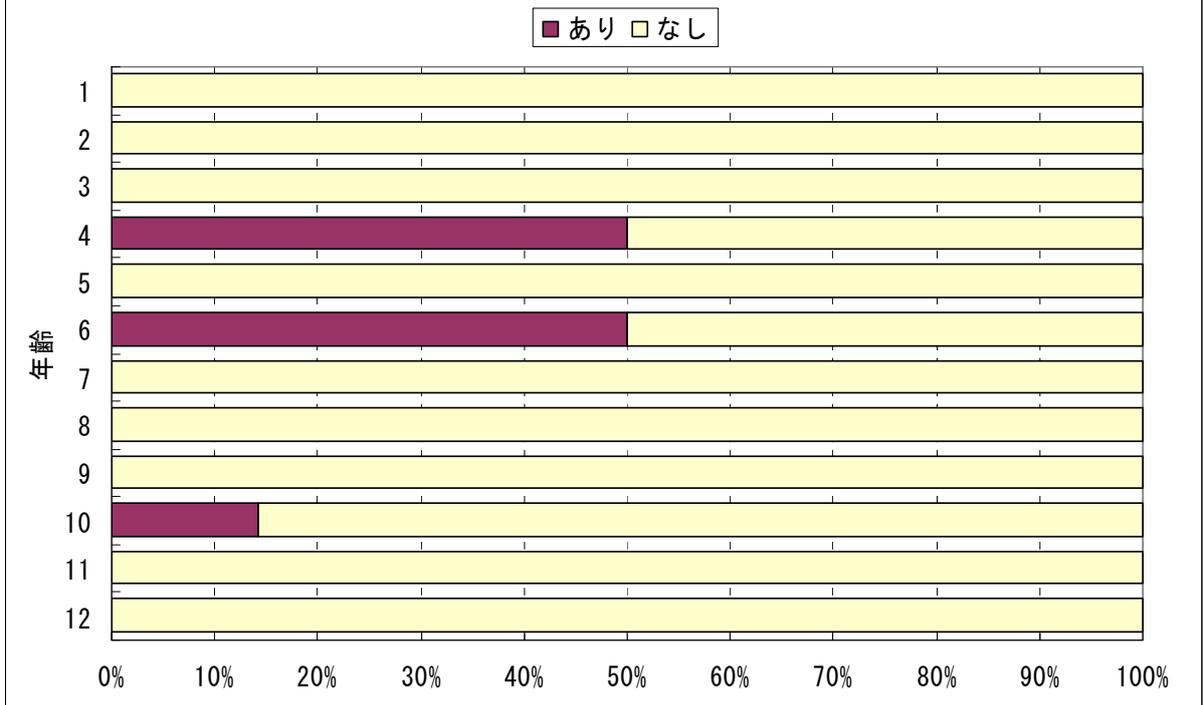
表C-11. 乳歯の一人平均未処置歯数（dt指数，分母：口腔内診査）

年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9
人数	3	3	2	2	2	2	3	2	2
平均値	0.0	0.0	0.0	3.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
標準偏差	0.0	0.0	0.0	4.9	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0

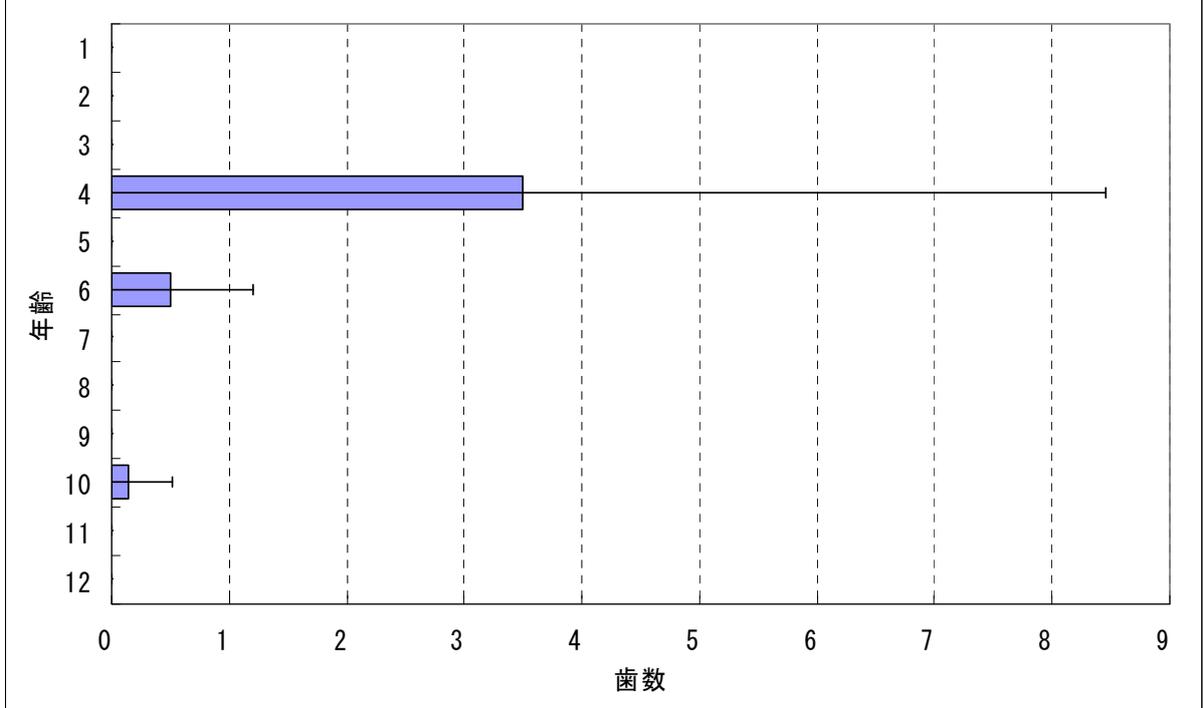
表C-11. （続き）

年齢	10	11	12
人数	7	3	5
平均値	0.1	0.0	0.0
標準偏差	0.4	0.0	0.0

図C-10. 乳歯の未処置歯保有者の割合 (d者率, 分母: 乳歯保有者)



図C-11. 乳歯の一人平均未処置歯数 (dt指数, 分母: 口腔内診査)



歯肉の状況（永久歯列）：

歯肉の状況については、WHO の CPI modified（改変）により評価した歯周ポケット深さ最大値の分布を図表 C-12 に示した。いずれの分画にも診査対象歯がない（第1 大臼歯，中切歯とも未萌出）者は，ここでは対象者から除いて計算を行った。

14 歳未満の者は 6mm 以上の深さを測定していないが，19 歳までは 6mm 以上の歯周ポケットを有する者はいなかった。4-5mm の歯周ポケットを有する者は 6 歳（1 人）と 19 歳（1 人）に見られたが，6 歳では歯の萌出に伴うものと推察された。

歯肉出血については炎症所見の指標となり，図表 C-13 に示した。全体では 2 割から 3 割に見られた。

歯石沈着に関しては，図表 C-14 に示した。全体では 2 割から 3 割であったが，12 歳からは歯肉出血より高い割合で見られた。ただし少数例であり，参考値とされたい。

表C-12. 歯周ポケットの状況

（改変CPI，14歳未満の者は6mm以上の深さを測定しない）

年齢	5	6	7	8	9
3mm以下	1 100.0%	1 50.0%	3 100.0%	2 100.0%	2 100.0%
4-5mm		1 50.0%			
総計	1 100.0%	2 100.0%	3 100.0%	2 100.0%	2 100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

表C-12. （続き）

年齢	10	11	12	13	14	15	19 5-19歳
3mm以下	7 100.0%	3 100.0%	5 100.0%	4 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	30 0.0% 93.8%
4-5mm							1 2 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 100.0% 6.3%
総計	7 100.0%	3 100.0%	5 100.0%	4 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	1 32 100.0% 100.0%

表C-13. 歯肉出血の状況（改変CPI）

年齢	5	6	7	8	9
なし	1	2	3	1	2
	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%
あり				1	
	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
総計	1	2	3	2	2
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

表C-13. （続き）

年齢	10	11	12	13	14	15	19 5-19歳
なし	5	3	5	1	1	1	25
	71.4%	100.0%	100.0%	25.0%	100.0%	100.0%	0.0%
あり	2			3			7
	28.6%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%	21.9%
総計	7	3	5	4	1	1	32
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表C-14. 歯石沈着の状況（改変CPI）

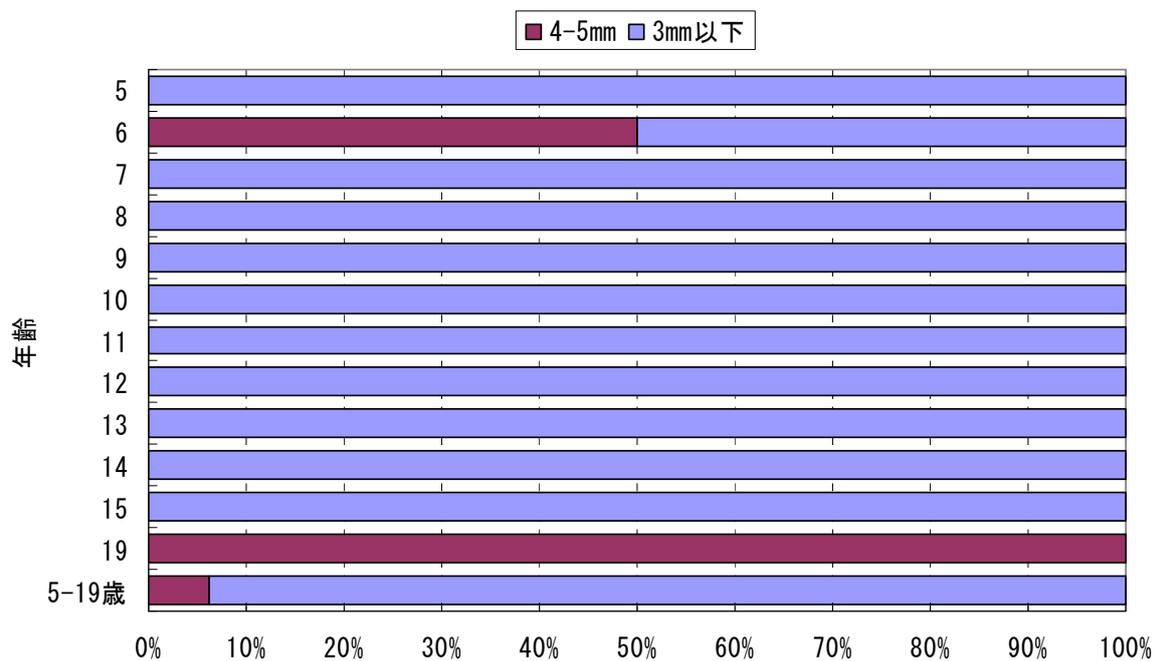
年齢	5	6	7	8	9
なし	1	2	2	1	2
	100.0%	100.0%	66.7%	50.0%	100.0%
あり			1	1	
	0.0%	0.0%	33.3%	50.0%	0.0%
総計	1	2	3	2	2
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

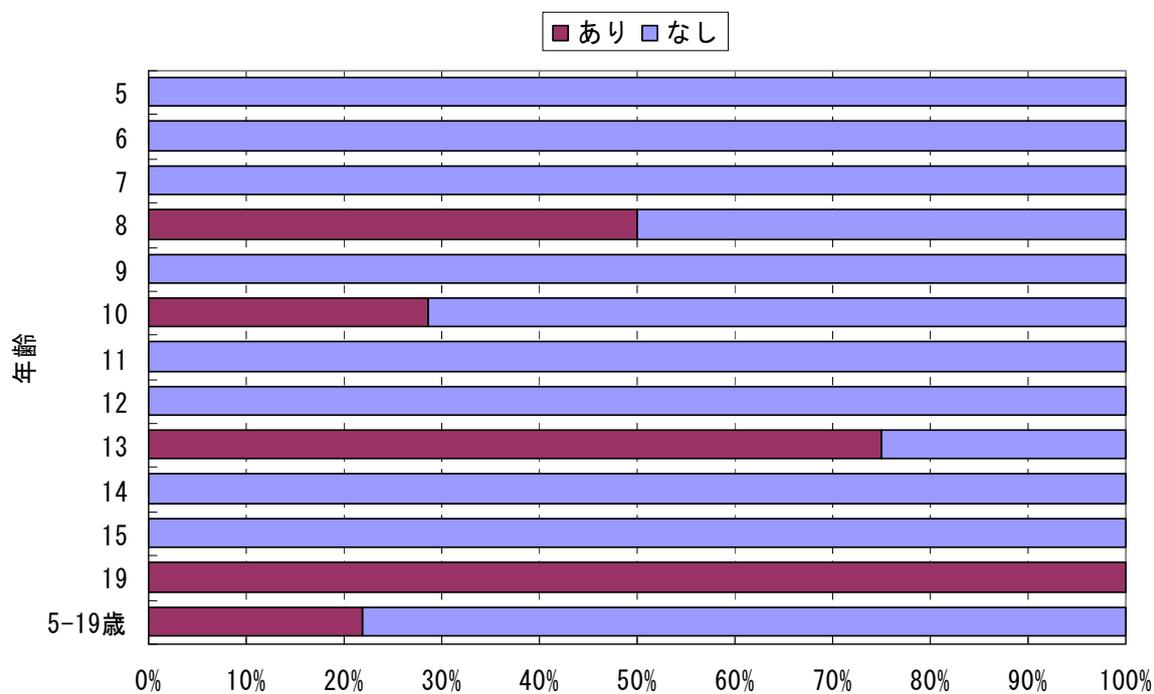
表C-14. （続き）

年齢	10	11	12	13	14	15	19 5-19歳
なし	6	3	3	4			24
	85.7%	100.0%	60.0%	100.0%	0.0%	0.0%	75.0%
あり	1		2		1	1	8
	14.3%	0.0%	40.0%	0.0%	100.0%	100.0%	25.0%
総計	7	3	5	4	1	1	32
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

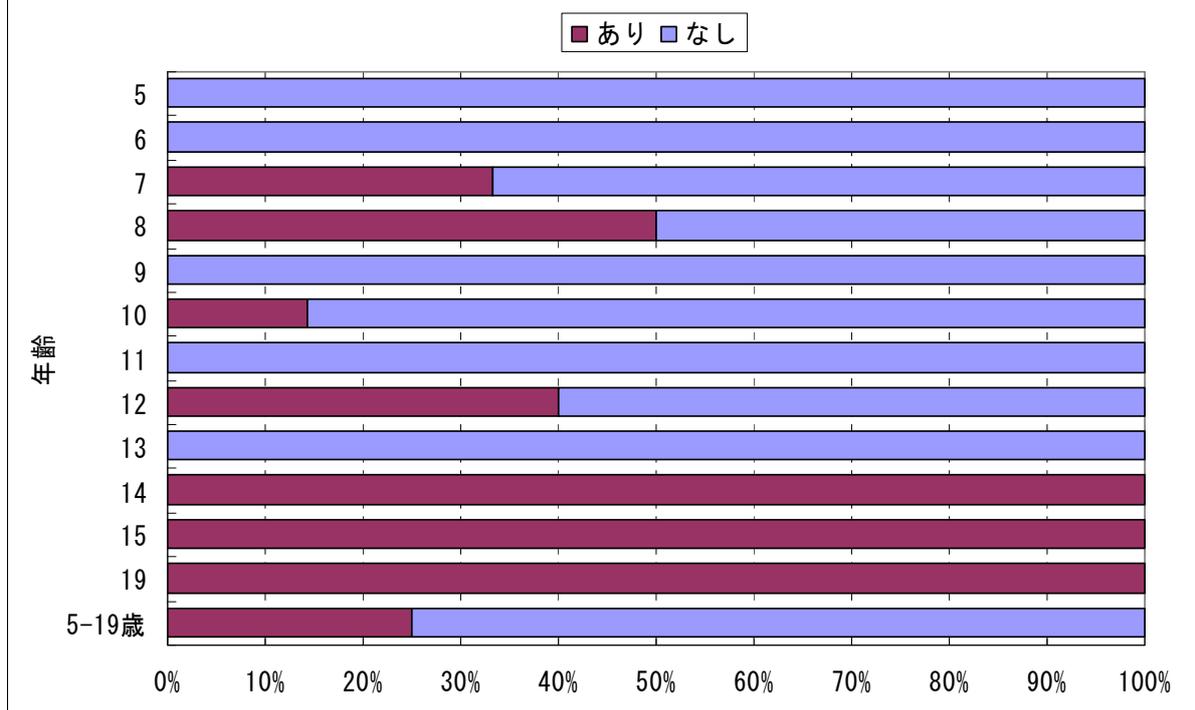
図C-12. 歯周ポケットの状況
 (改変CPI, 14歳未満の者は6mm以上の深さを測定しない)



図C-13. 歯肉出血の状況 (改変CPI)



図C-14. 歯石沈着の状況（改変CPI）



歯列・咬合の状況：

12歳から20歳まで11人の歯列・咬合の状況については、上下顎それぞれに前歯部の叢生・空隙の有無、オーバージェット、オーバーバイト、正中のずれを測定した。オーバージェットは、水平的な上下顎の咬合を、オーバーバイトは、垂直的な対咬関係を表すものである。以下の表に示したが、これらの指標は不正咬合の程度を形態的・審美的な側面からのみ評価したもので、機能的な要素は考慮されていない。保定を含む矯正装置が装着されていた者は、18.2%（2人）であった。ただし少数例であり、参考値とされたい。

表C-15. 叢生（12-20歳の者）

なし	上顎あり	下顎あり	上下あり	全体
10			1	11
90.9%	0.0%	0.0%	9.1%	100.0%

註： 上段, 人数； 下段, 割合

表C-16. 空隙（12-20歳の者）

なし	上顎あり	下顎あり	上下あり	全体
8	2		1	11
72.7%	18.2%	0.0%	9.1%	100.0%

註： 上段, 人数； 下段, 割合

表C-17. オーバージェット（12-20歳の者）

1mm	2mm	3mm	4mm	6mm	全体
2	2	2	3	2	11
18.2%	18.2%	18.2%	27.3%	18.2%	100.0%

註： 上段, 人数； 下段, 割合

表C-18. オーバーバイト（12-20歳の者）

1mm	2mm	3mm	4mm	5mm	6mm	全体
1	5	2	1	1	1	11
9.1%	45.5%	18.2%	9.1%	9.1%	9.1%	100.0%

註： 上段, 人数； 下段, 割合

表C-19. 正中のずれ（12-20歳の者）

0mm	1mm	2mm	全体
4	4	3	11
36.4%	36.4%	27.3%	100.0%

註： 上段, 人数； 下段, 割合

4. 結果のまとめ－質問調査

フッ化物（F）応用の経験の有無（14歳まで）

平成 28 年歯科疾患実態調査から、これまでのフッ化物塗布に加えて各種フッ化物応用に関しても問診するようになった。結果を図表 Q-1 に示した。1 歳児ではいずれのフッ化物も経験されていないが、2 歳児からフッ化物塗布がほとんど 100%で、各種フッ化物の中で最も経験があった。市町の 1 歳 6 か月児歯科健康診査を通じて普及していると思われた。「3 歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある者の割合」は 100%としたが、2 歳児 3 人、3 歳児 2 人、4 歳児 2 人の少数例であり、参考値とされたい。次いでフッ化物配合歯磨剤の使用、フッ化物洗口の順で高かった。フッ化物配合歯磨剤は市場占有率が 9 割を超えることから、洗口のできない年齢を除いてもやや低い傾向で、偽陰性の存在も考えられるが、問診によって確認された。フッ化洗口は小学校で近年拡大しているためと推測された。

表Q-1. フッ化物 (F) 応用の経験の有無 (複数回答可)

年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1) F塗布		3	2	2	2	2	3	1	2
	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%
2) F洗口			1	1	2	1	2	2	2
	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	50.0%	66.7%	100.0%	100.0%
3) F配合 歯磨剤		1	1	2	1	2	3		2
	0.0%	33.3%	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%
4) その 他		1							
	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5) ない	3								
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6) わか らない									
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

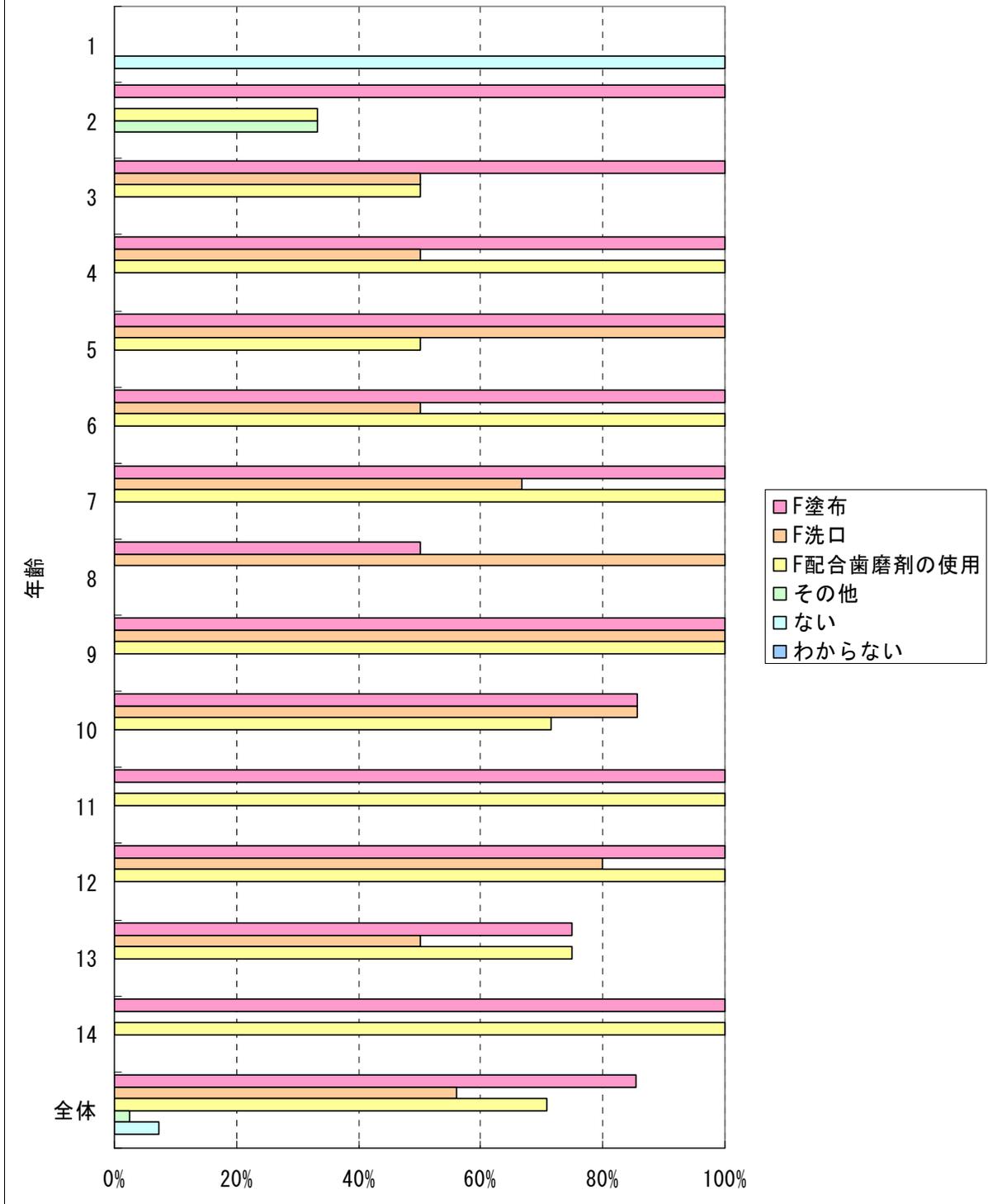
註： 上段, 人数； 下段, 割合

3), F配合歯磨剤の使用

表Q-1. (続き)

年齢	10	11	12	13	14	全体
1) F塗布	6	3	5	3	1	35
	85.7%	100.0%	100.0%	75.0%	100.0%	85.4%
2) F洗口	6		4	2		23
	85.7%	0.0%	80.0%	50.0%	0.0%	56.1%
3) F配合 歯磨剤	5	3	5	3	1	29
	71.4%	100.0%	100.0%	75.0%	100.0%	70.7%
4) その 他						1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%
5) ない						3
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.3%
6) わか らない						
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

図Q-1. フッ化物（F）応用の経験の有無（複数回答可）



顎関節の異常（6歳以上）

口を大きく開け閉めした時、あごの音がしますか。

口を大きく開け閉めした時、あごの痛みがありますか。

顎関節の異常について、問診に基づく結果を図表 Q-2a と図表 Q-2b に示した。音に関して「はい」と回答した者は、全体では1割で、成人から年齢階級が高くなるにつれて減少した。痛みに関して「はい」と回答した者は、音と同様の傾向を示すもいずれの年齢階級でも大幅に少なかった。

表Q-2a. 顎関節の異常—口を大きく開け閉めした時、あごの音がしますか。

年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
はい	0	4	3	7	4	11	3	3	1	36
	0.0%	36.4%	17.6%	15.2%	8.5%	11.5%	3.7%	7.0%	100.0%	9.7%
いいえ	29	7	14	39	43	85	78	40	0	335
	100.0%	63.6%	82.4%	84.8%	91.5%	88.5%	96.3%	93.0%	0.0%	90.3%
総計	29	11	17	46	47	96	81	43	1	371
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

表Q-2b. 顎関節の異常—口を大きく開け閉めした時、あごの痛みがありますか。

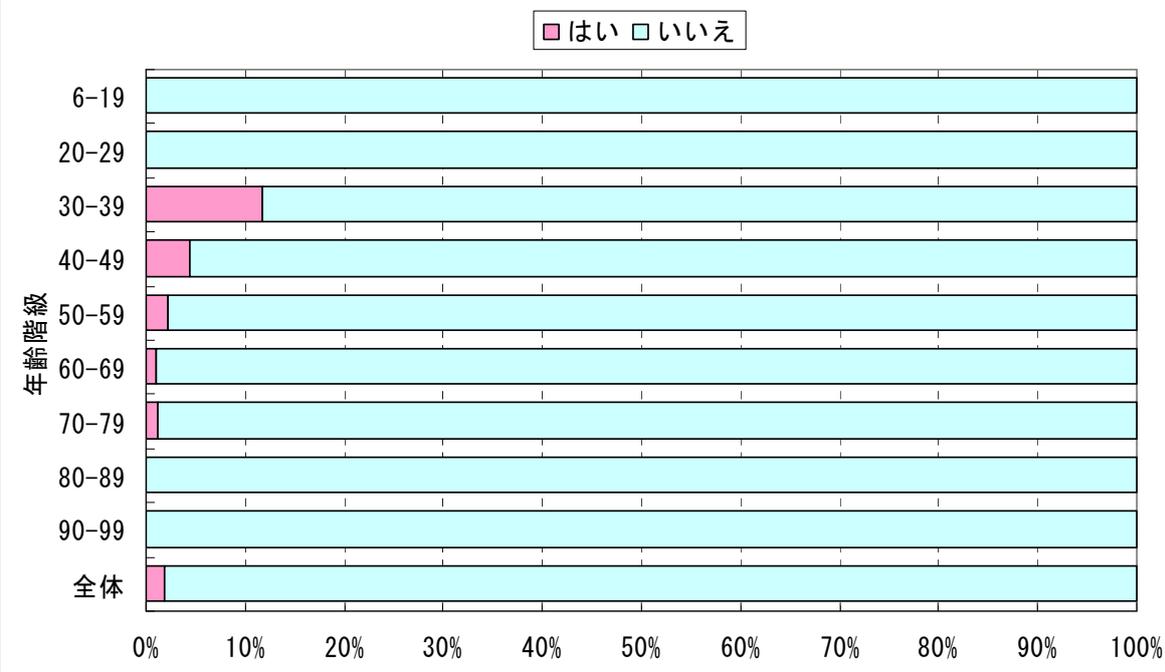
年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
はい	0	0	2	2	1	1	1	0	0	7
	0.0%	0.0%	11.8%	4.3%	2.1%	1.0%	1.2%	0.0%	0.0%	1.9%
いいえ	29	11	15	44	46	95	80	43	1	364
	100.0%	100.0%	88.2%	95.7%	97.9%	99.0%	98.8%	100.0%	100.0%	98.1%
総計	29	11	17	46	47	96	81	43	1	371
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

図Q-2a. 顎関節の異常－
口を大きく開け閉めした時、あごの音がしますか。



図Q-2b. 顎関節の異常－
口を大きく開け閉めした時、あごの痛みがありますか。



歯や口の状態について気になることはありますか? (複数回答可)

歯や口の状態について被調査者が気になることを図表 Q-3 に示した。「ない」がいずれの年齢階級でも最も多いが、年齢階級が高くなると歯や歯ぐきの痛みから咀嚼障害に移行する傾向にあった。その間の 40 歳代から 60 歳代では口臭の問題が 2 割前後に見られた。

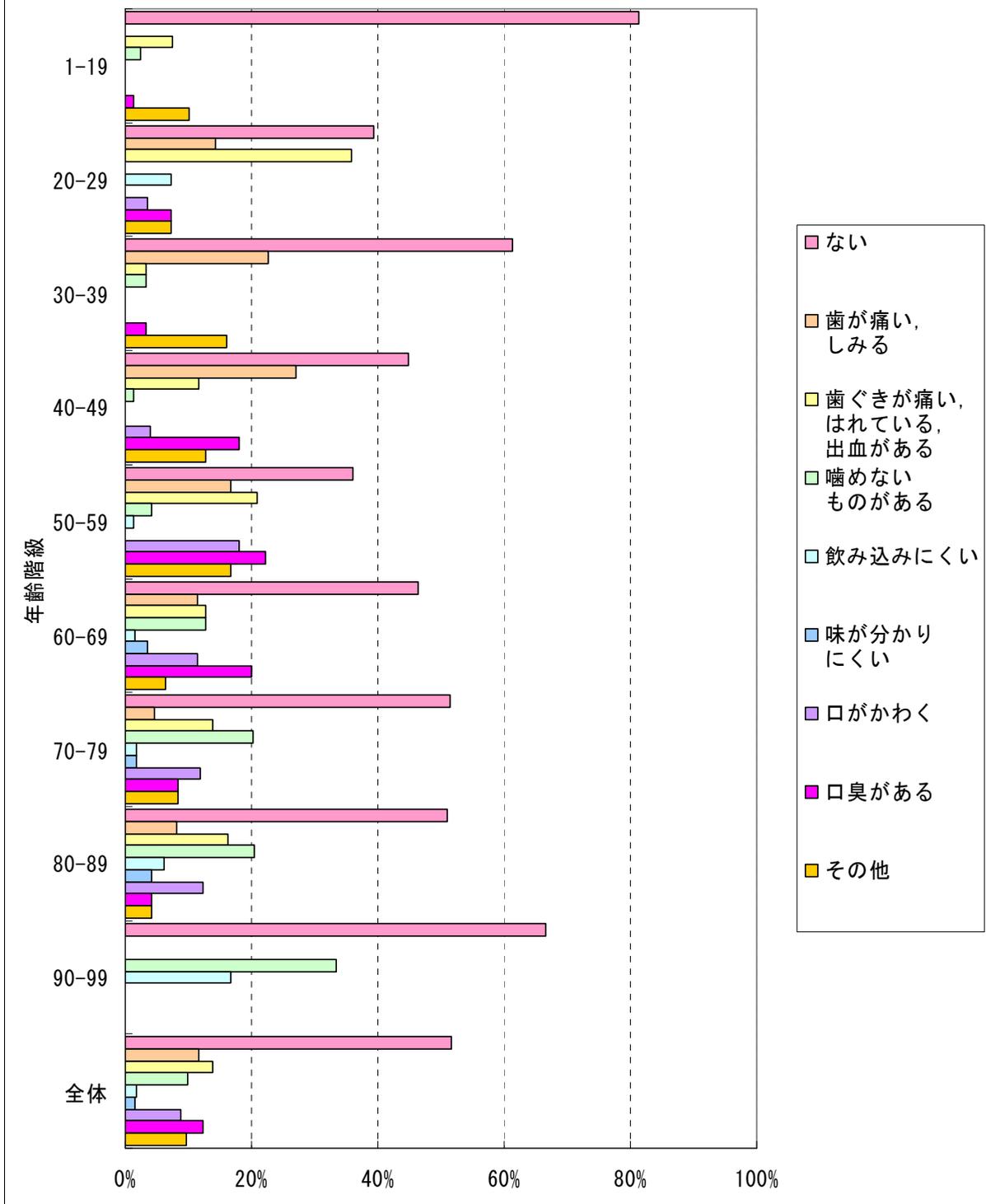
表Q-3. 歯や口の状態について気になることはありますか? (複数回答可)

年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
1) ない	65 81.3%	11 39.3%	19 61.3%	35 44.9%	26 36.1%	65 46.4%	56 51.4%	25 51.0%	4 66.7%	306 51.6%
2) 歯が 痛い	0 0.0%	4 14.3%	7 22.6%	21 26.9%	12 16.7%	16 11.4%	5 4.6%	4 8.2%	0 0.0%	69 11.6%
3) 歯ぐ きが痛い	6 7.5%	10 35.7%	1 3.2%	9 11.5%	15 20.8%	18 12.9%	15 13.8%	8 16.3%	0 0.0%	82 13.8%
4) 噛め ない	2 2.5%	0 0.0%	1 3.2%	1 1.3%	3 4.2%	18 12.9%	22 20.2%	10 20.4%	2 33.3%	59 9.9%
5) 飲み 込み	0 0.0%	2 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	2 1.4%	2 1.8%	3 6.1%	1 16.7%	11 1.9%
6) 味が わかり	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 3.6%	2 1.8%	2 4.1%	0 0.0%	9 1.5%
7) 口が かわく	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%	3 3.8%	13 18.1%	16 11.4%	13 11.9%	6 12.2%	0 0.0%	52 8.8%
8) 口臭 がある	1 1.3%	2 7.1%	1 3.2%	14 17.9%	16 22.2%	28 20.0%	9 8.3%	2 4.1%	0 0.0%	73 12.3%
9) その 他	8 10.0%	2 7.1%	5 16.1%	10 12.8%	12 16.7%	9 6.4%	9 8.3%	2 4.1%	0 0.0%	57 9.6%

註： 上段, 人数； 下段, 割合

- 1), ない； 2), 歯が痛い, しみる；
 3), 歯ぐきが痛い, はれている, 出血がある； 4), 噛めないものがある；
 5), 飲み込みにくい； 6), 味が分かりにくい； 7), 口がかわく；
 8), 口臭がある； 9), その他

図Q-3. 歯や口の状態について気になることはありますか？（複数回答可）



歯ブラシの使用状況

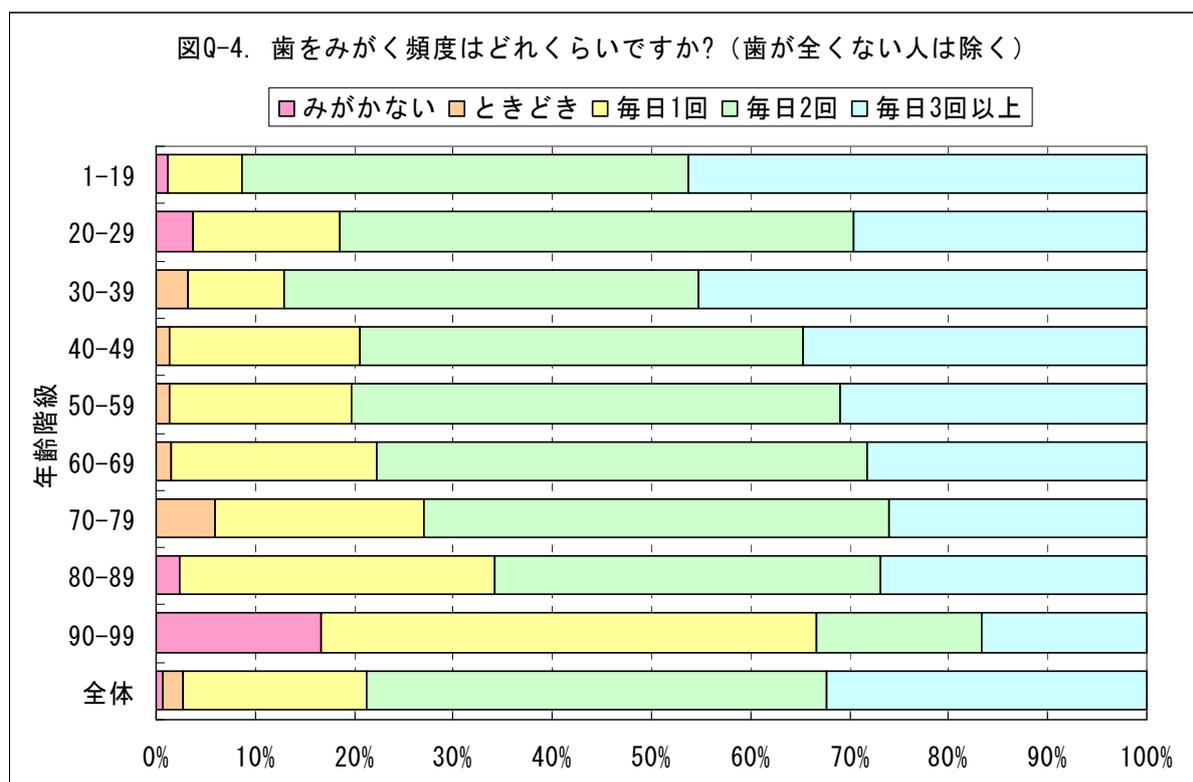
歯ブラシの使用状況について図表 Q-4 に示した。年齢階級が高くなる程、毎日 2 回以上みがく者が減少傾向にあるものの、全体では 8 割を占めた。

表Q-4. 歯をみがく頻度はどれくらいですか？（歯が全くない人は除く）

年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
1) 毎日 1回	6 7.5%	4 14.8%	3 9.7%	15 19.2%	13 18.3%	28 20.7%	21 21.0%	13 31.7%	3 50.0%	106 18.6%
2) 毎日 2回	36 45.0%	14 51.9%	13 41.9%	35 44.9%	35 49.3%	67 49.6%	47 47.0%	16 39.0%	1 16.7%	264 46.4%
3) 毎日 3回以上	37 46.3%	8 29.6%	14 45.2%	27 34.6%	22 31.0%	38 28.1%	26 26.0%	11 26.8%	1 16.7%	184 32.3%
4) とき どき	0 0.0%	0 0.0%	1 3.2%	1 1.3%	1 1.4%	2 1.5%	6 6.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 1.9%
5) みが かない	1 1.3%	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	1 16.7%	4 0.7%
総計	80 100.0%	27 100.0%	31 100.0%	78 100.0%	71 100.0%	135 100.0%	100 100.0%	41 100.0%	6 100.0%	569 100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

- 1), 毎日1回みがく； 2), 毎日2回みがく； 3), 毎日3回以上みがく；
4), ときどきみがく； 5), みがかない



(歯ブラシを用いた歯みがきに加えて、) 以下に示す歯や口の清掃を行っていますか?
(複数回答可)

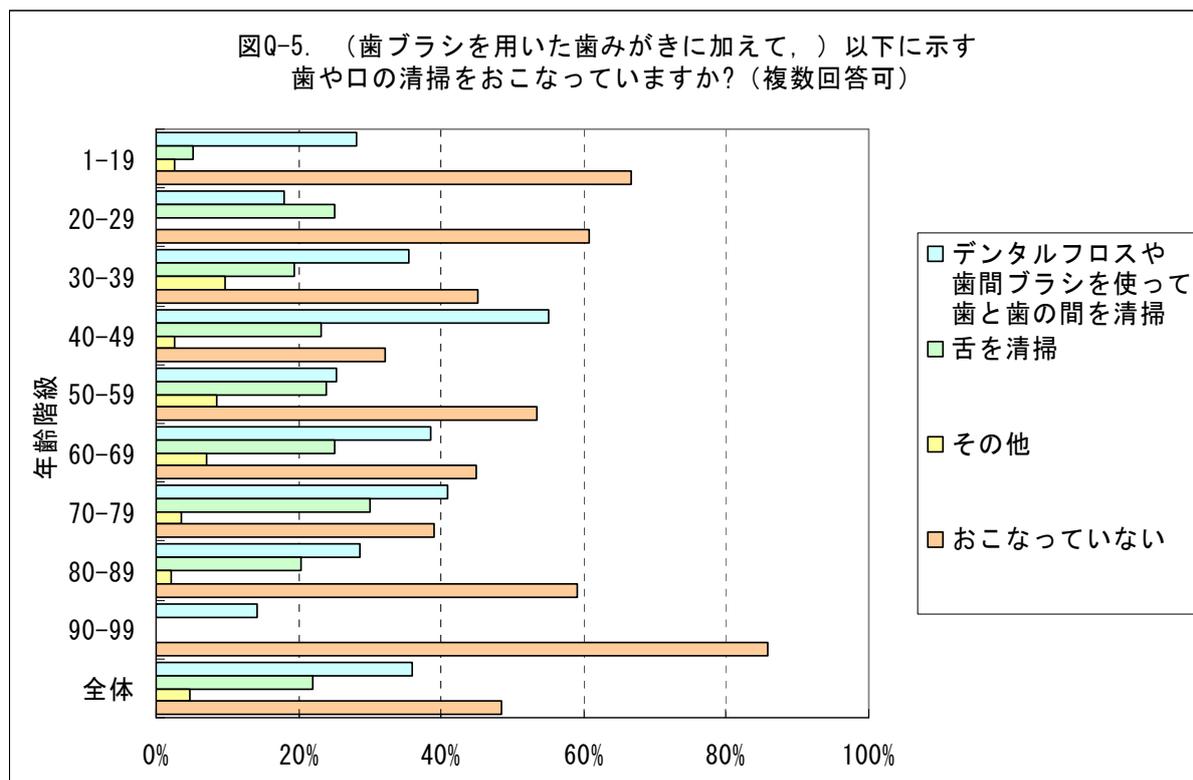
歯間部清掃や舌清掃の状況について図表 Q-5 に示した。「おこなっていない」が全体の半数近くを占めた。40 歳代では歯間部清掃器具の使用が最も高く半数を超えたが、全体では 3 割前後であった。

表Q-5. (歯ブラシを用いた歯みがきに加えて、) 以下に示す歯や口の清掃をおこなっていますか? (複数回答可)

年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
1) 歯間	22 28.2%	5 17.9%	11 35.5%	43 55.1%	18 25.4%	54 38.6%	45 40.9%	14 28.6%	1 14.3%	213 36.0%
2) 舌	4 5.1%	7 25.0%	6 19.4%	18 23.1%	17 23.9%	35 25.0%	33 30.0%	10 20.4%	0 0.0%	130 22.0%
3) その他	2 2.6%	0 0.0%	3 9.7%	2 2.6%	6 8.5%	10 7.1%	4 3.6%	1 2.0%	0 0.0%	28 4.7%
4) ない	52 66.7%	17 60.7%	14 45.2%	25 32.1%	38 53.5%	63 45.0%	43 39.1%	29 59.2%	6 85.7%	287 48.5%

註： 上段、人数； 下段、割合

- 1), デンタルフロスや歯間ブラシを使って、歯と歯の間を清掃している；
2), 舌を清掃している； 3), その他； 4), おこなっていない



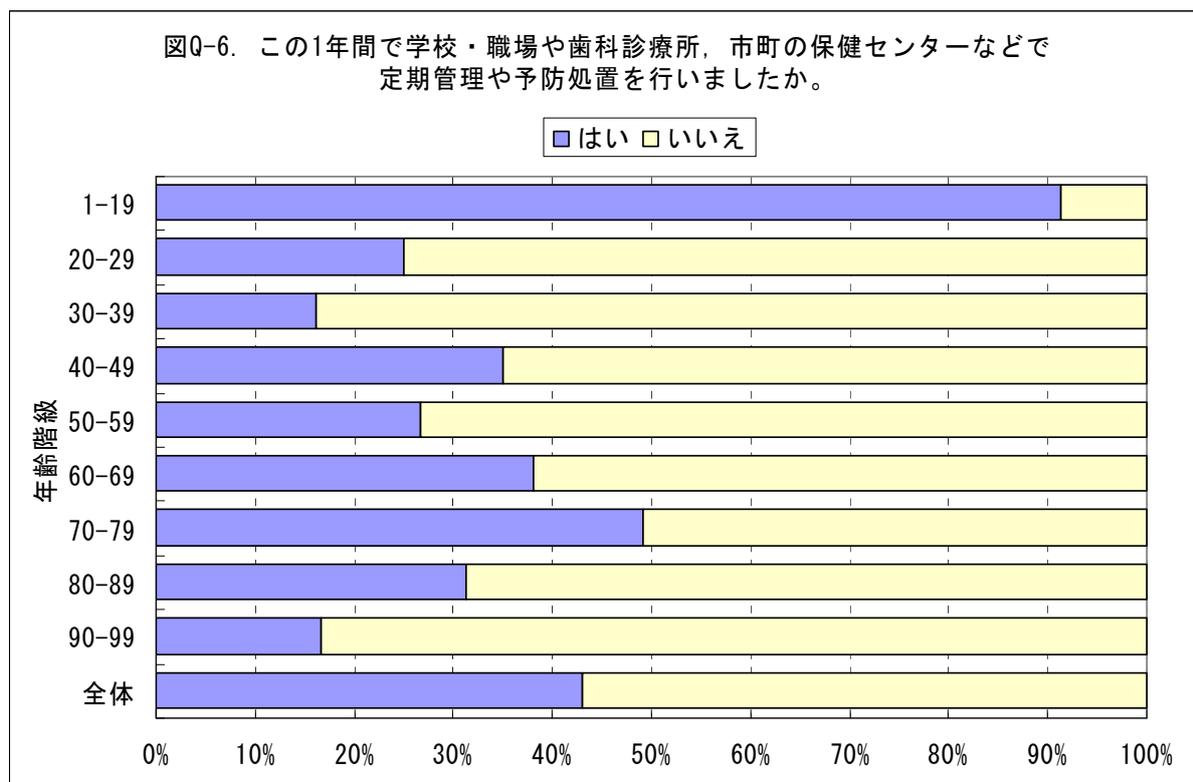
この1年間で学校・職場や歯科診療所，市町の保健センターなどで定期管理や予防処置を行いましたか。(県様式)

定期管理や予防処置の状況について図表 Q-6 に示した。小児が9割と他と比較して高い受診状況であったが，母子保健法と学校保健法に基づくものが大きいと考えられる。全体では半数近くが受診していた。

表Q-6. この1年間で学校・職場や歯科診療所，市町の保健センターなどで定期管理や予防処置を行いましたか。

年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
はい	73	7	5	27	19	53	54	16	1	255
	91.3%	25.0%	16.1%	35.1%	26.8%	38.1%	49.1%	31.4%	16.7%	43.0%
いいえ	7	21	26	50	52	86	56	35	5	338
	8.8%	75.0%	83.9%	64.9%	73.2%	61.9%	50.9%	68.6%	83.3%	57.0%
総計	80	28	31	77	71	139	110	51	6	593
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合



定期管理・予防処置の内容。(県様式)

さらに定期管理や予防処置の内容について、図表 Q-6-1 に示した。30 歳代までは「健診（検診）並びに面談指導」が最も多く、歯周炎の好発する 40 歳代から「歯石除去・歯面清掃」が最も多かった。

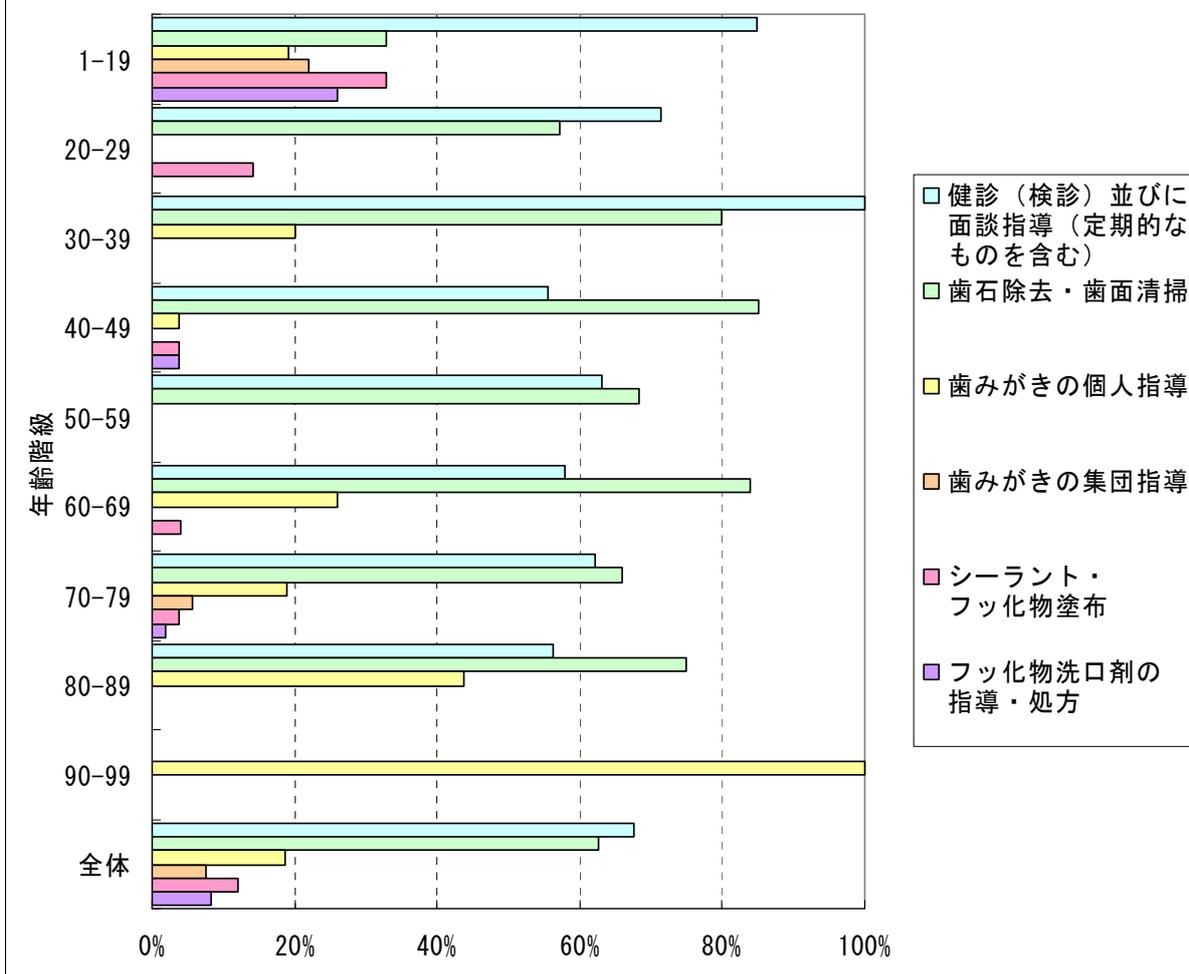
表Q-6-1. 定期管理・予防処置の内容（前掲Q-6で「はい」の場合、複数回答可）

年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
1) 健診	62	5	5	15	12	29	33	9	0	170
	84.9%	71.4%	100.0%	55.6%	63.2%	58.0%	62.3%	56.3%	0.0%	67.7%
2) 歯石 除去	24	4	4	23	13	42	35	12	0	157
	32.9%	57.1%	80.0%	85.2%	68.4%	84.0%	66.0%	75.0%	0.0%	62.5%
3) 個人 指導	14	0	1	1	0	13	10	7	1	47
	19.2%	0.0%	20.0%	3.7%	0.0%	26.0%	18.9%	43.8%	100.0%	18.7%
4) 集団 指導	16	0	0	0	0	0	3	0	0	19
	21.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.7%	0.0%	0.0%	7.6%
5) シー ラント	24	1	0	1	0	2	2	0	0	30
	32.9%	14.3%	0.0%	3.7%	0.0%	4.0%	3.8%	0.0%	0.0%	12.0%
6) F洗口 剤の指導	19	0	0	1	0	0	1	0	0	21
	26.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	8.4%

註： 上段，人数； 下段，割合

- 1), 健診（検診）並びに面談指導（定期的なものを含む）；
- 2), 歯石除去・歯面清掃； 3), 歯みがきの個人指導；
- 4), 歯みがきの集団指導； 5), シーラント・フッ化物塗布；
- 6), フッ化物洗口剤の指導・処方

図Q-6-1. 定期管理・予防処置の内容
 (前掲Q-6で「はい」の場合、複数回答可)



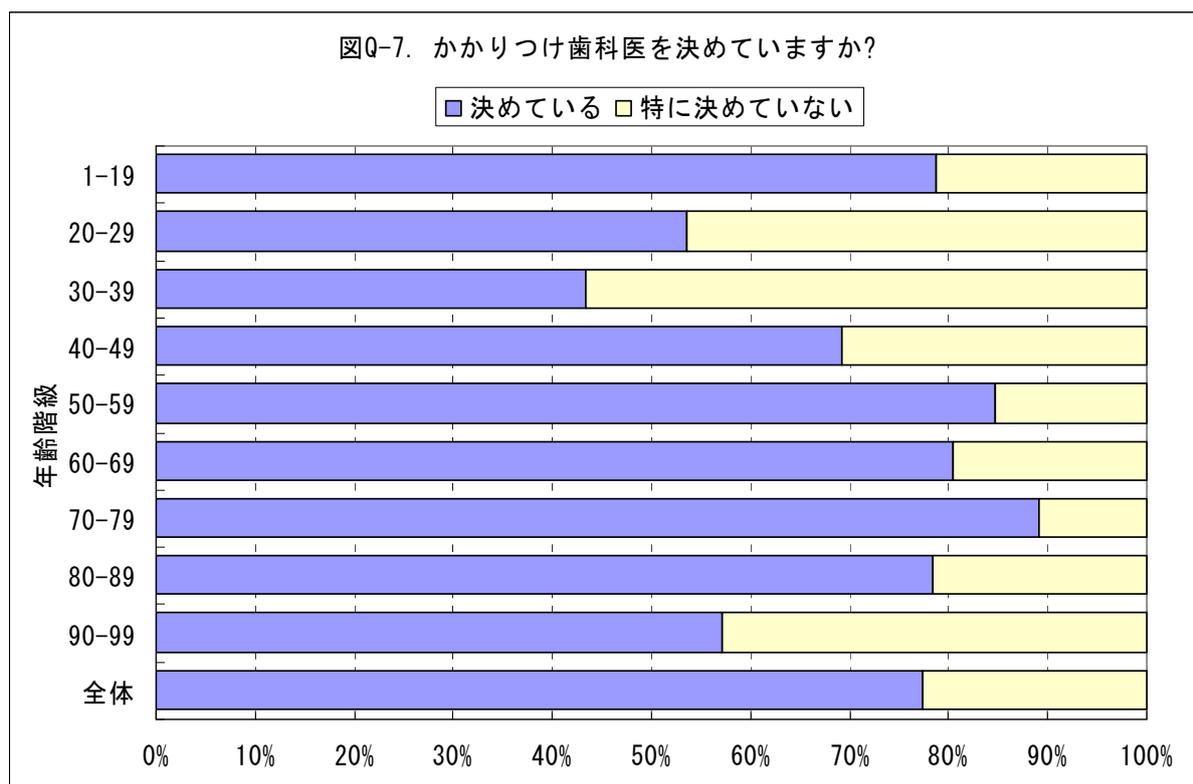
かかりつけ歯科医を決めていますか? (県様式)

かかりつけ歯科医の状況について図表 Q-7 に示した。「決めている」者が全体の 8 割近くを占めた。う蝕や歯周炎の比較的発病しにくい、また転居も多い 20 歳代と 30 歳代では半数程度であった。

表Q-7. かかりつけ歯科医を決めていますか?

年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
決めて	63	15	13	54	61	115	99	40	4	464
いる	78.8%	53.6%	43.3%	69.2%	84.7%	80.4%	89.2%	78.4%	57.1%	77.3%
特に決め	17	13	17	24	11	28	12	11	3	136
ていない	21.3%	46.4%	56.7%	30.8%	15.3%	19.6%	10.8%	21.6%	42.9%	22.7%
総計	80	28	30	78	72	143	111	51	7	600
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段, 人数； 下段, 割合



かかりつけ歯科医では、定期的に健診を受けていますか? (県様式)

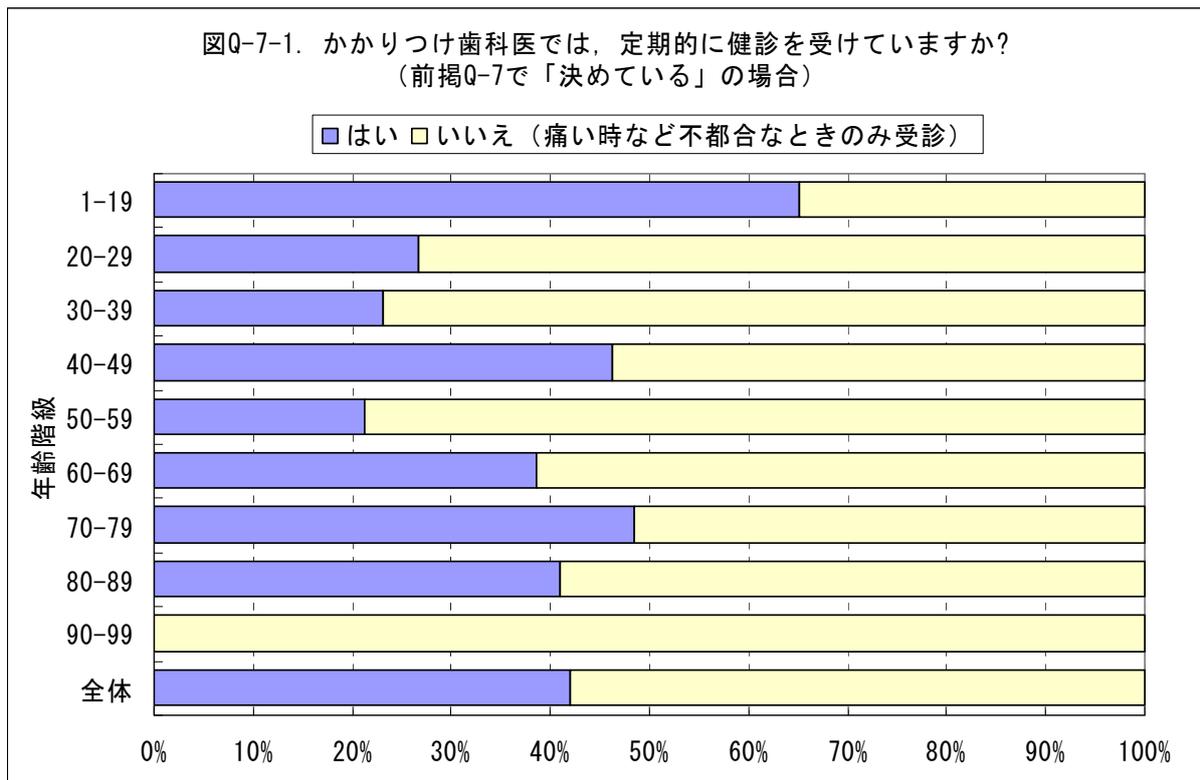
さらに定期健診の状況について、図表 Q-7-1 に示した。かかりつけ歯科医がある場合、「受けている」者が全体の4割を占めたが、特に小児では高い割合であった。

表Q-7-1. かかりつけ歯科医では、定期的に健診を受けていますか?
(前掲Q-7で「決めている」の場合)

年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
1) はい	41 65.1%	4 26.7%	3 23.1%	25 46.3%	13 21.3%	44 38.6%	48 48.5%	16 41.0%	0 0.0%	194 42.1%
2) いいえ	22 34.9%	11 73.3%	10 76.9%	29 53.7%	48 78.7%	70 61.4%	51 51.5%	23 59.0%	3 100.0%	267 57.9%
総計	63 100.0%	15 100.0%	13 100.0%	54 100.0%	61 100.0%	114 100.0%	99 100.0%	39 100.0%	3 100.0%	461 100.0%

註： 上段，人数； 下段，割合

2), いいえ (痛い時など不都合なときのみ受診)



定期健診の受診頻度はどれくらいですか? (県様式)

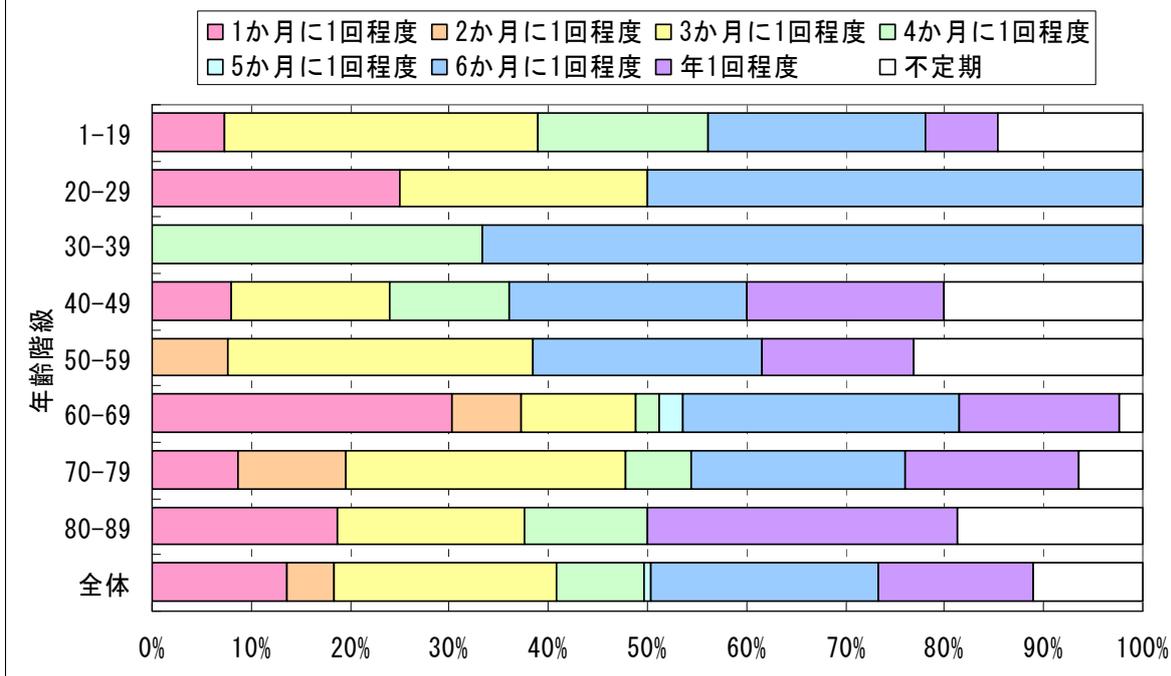
また定期健診の間隔についても、図表 Q-7-2 に示した。全体では「3 か月に 1 回程度」と「6 か月に 1 回程度」が半数を占めた。60 歳代では「1 か月に 1 回程度」が 3 割と高かった。

表Q-7-2. 定期健診の受診頻度はどれくらいですか?
(前掲Q-7-1で「はい」の場合)

年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	全体
1か月に	3	1	0	2	0	13	4	3	26
1回程度	7.3%	25.0%	0.0%	8.0%	0.0%	30.2%	8.7%	18.8%	13.6%
2か月に	0	0	0	0	1	3	5	0	9
1回程度	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	7.0%	10.9%	0.0%	4.7%
3か月に	13	1	0	4	4	5	13	3	43
1回程度	31.7%	25.0%	0.0%	16.0%	30.8%	11.6%	28.3%	18.8%	22.5%
4か月に	7	0	1	3	0	1	3	2	17
1回程度	17.1%	0.0%	33.3%	12.0%	0.0%	2.3%	6.5%	12.5%	8.9%
5か月に	0	0	0	0	0	1	0	0	1
1回程度	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.5%
6か月に	9	2	2	6	3	12	10	0	44
1回程度	22.0%	50.0%	66.7%	24.0%	23.1%	27.9%	21.7%	0.0%	23.0%
年1回	3	0	0	5	2	7	8	5	30
程度	7.3%	0.0%	0.0%	20.0%	15.4%	16.3%	17.4%	31.3%	15.7%
不定期	6	0	0	5	3	1	3	3	21
	14.6%	0.0%	0.0%	20.0%	23.1%	2.3%	6.5%	18.8%	11.0%
総計	41	4	3	25	13	43	46	16	191
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段, 人数 ; 下段, 割合

図Q-7-2. 定期健診の受診頻度はどれくらいですか？
 (前掲Q-7-1で「はい」の場合)



最後に歯科受診したのはいつ頃ですか? (県様式)

歯科受診の状況について図表 Q-8 に示した。う蝕の好発年齢の小児と歯周病の好発と歯の喪失が進む 40 歳以上で受診が増加すると考えられた。

表Q-8. 最後に歯科受診したのはいつ頃ですか?

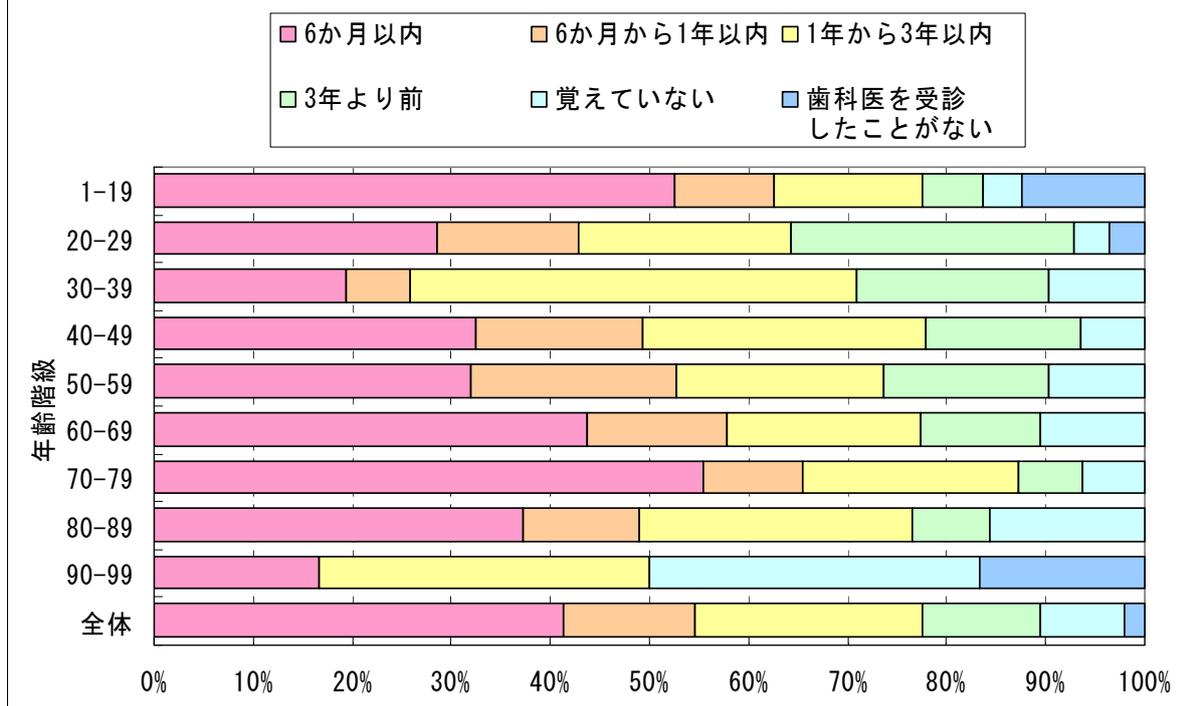
年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
1) 6か月以内	42 52.5%	8 28.6%	6 19.4%	25 32.5%	23 31.9%	62 43.7%	61 55.5%	19 37.3%	1 16.7%	247 41.4%
2) 6か月から1年	8 10.0%	4 14.3%	2 6.5%	13 16.9%	15 20.8%	20 14.1%	11 10.0%	6 11.8%	0 0.0%	79 13.2%
3) 1年から3年	12 15.0%	6 21.4%	14 45.2%	22 28.6%	15 20.8%	28 19.7%	24 21.8%	14 27.5%	2 33.3%	137 22.9%
4) 3年より前	5 6.3%	8 28.6%	6 19.4%	12 15.6%	12 16.7%	17 12.0%	7 6.4%	4 7.8%	0 0.0%	71 11.9%
5) 覚えていない	3 3.8%	1 3.6%	3 9.7%	5 6.5%	7 9.7%	15 10.6%	7 6.4%	8 15.7%	2 33.3%	51 8.5%
6) ない	10 12.5%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	12 2.0%
総計	80 100.0%	28 100.0%	31 100.0%	77 100.0%	72 100.0%	142 100.0%	110 100.0%	51 100.0%	6 100.0%	597 100.0%

註： 上段, 人数； 下段, 割合

2), 6か月から1年以内； 3), 1年から3年以内；

6), 歯科医を受診したことがない

図Q-8. 最後に歯科受診したのはいつ頃ですか？



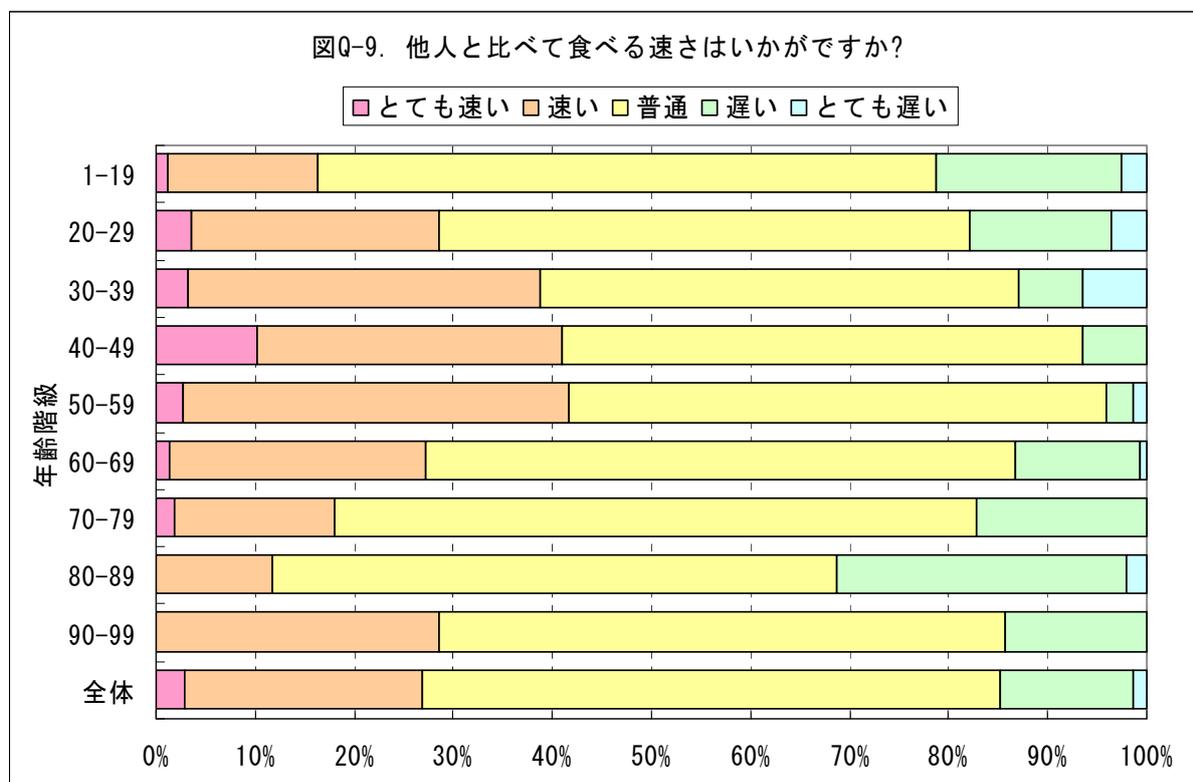
他人と比べて食べる速さはいかがですか? (県様式)

主観的評価による食べる速さについて、図表 Q-9 に示した。これは過食や肥満と関連が近年指摘されている。年齢による違いが見られ、就労の影響か「とても速い」と「速い」を合わせた割合は、30歳代から50歳代までが最も高く、4割を占めた。

表Q-9. 他人と比べて食べる速さはいかがですか?

年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
とても速い	1	1	1	8	2	2	2	0	0	17
速い	1.3%	3.6%	3.2%	10.3%	2.8%	1.4%	1.8%	0.0%	0.0%	2.8%
速い	12	7	11	24	28	37	18	6	2	145
	15.0%	25.0%	35.5%	30.8%	38.9%	25.9%	16.2%	11.8%	28.6%	24.1%
普通	50	15	15	41	39	85	72	29	4	350
	62.5%	53.6%	48.4%	52.6%	54.2%	59.4%	64.9%	56.9%	57.1%	58.2%
遅い	15	4	2	5	2	18	19	15	1	81
	18.8%	14.3%	6.5%	6.4%	2.8%	12.6%	17.1%	29.4%	14.3%	13.5%
とても遅い	2	1	2	0	1	1	0	1	0	8
遅い	2.5%	3.6%	6.5%	0.0%	1.4%	0.7%	0.0%	2.0%	0.0%	1.3%
総計	80	28	31	78	72	143	111	51	7	601
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

註： 上段、人数； 下段、割合



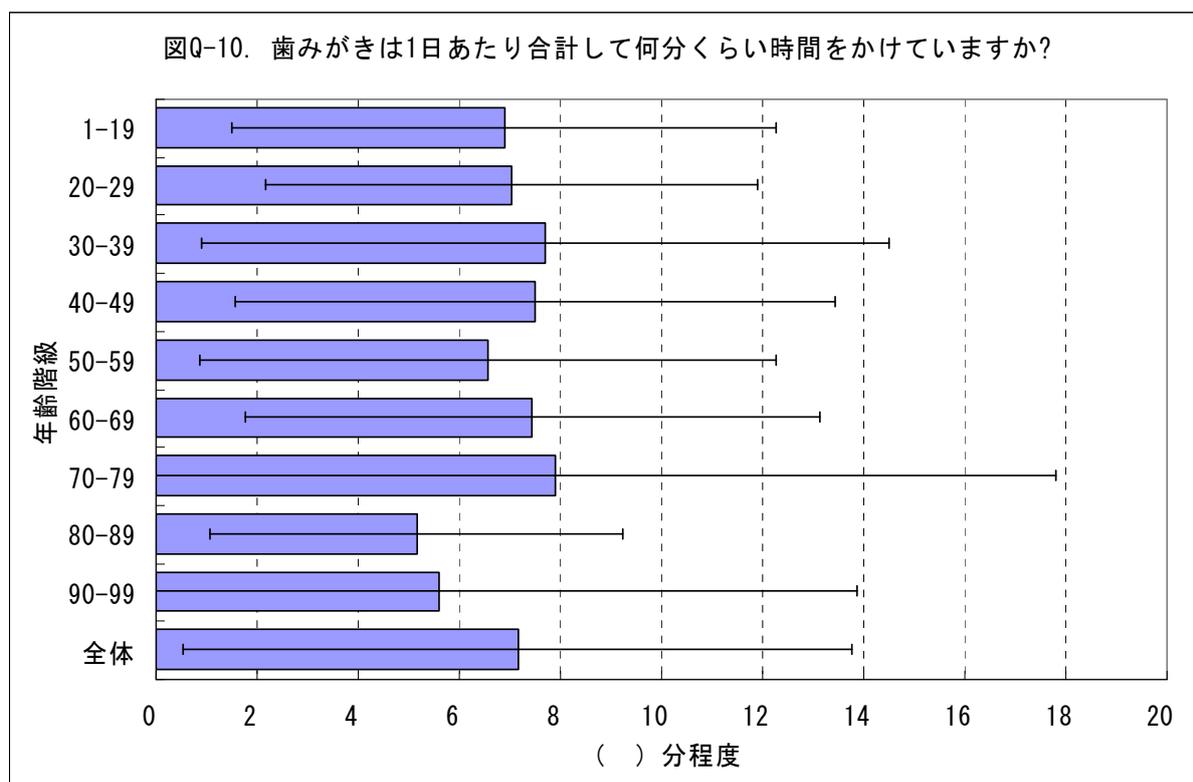
歯みがきは1日あたり合計して何分くらい時間をかけていますか？（県様式）

主観的評価による歯みがきにかかる時間について，図表 Q-10 に示した。歯みがきの頻度は前掲の図表 Q-4 にあるが，プラーク・コントロールに対して時間の影響がより大きいと考えられる。個人差は大きいと全体では 7 分前後で，80 歳以上では，現在歯数が少ないこともあり，時間が短い傾向にあった。

表Q-10. 歯みがきは1日あたり合計して何分くらい時間をかけていますか？

() 分程度

年齢階級	1-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	全体
人数	79	28	30	78	70	138	106	46	5	580
平均値	6.9	7.0	7.7	7.5	6.6	7.4	7.9	5.2	5.6	7.2
標準偏差	5.4	4.9	6.8	5.9	5.7	5.7	9.9	4.1	8.3	6.6



平成 28 年長崎県歯科疾患実態調査に係る調査票及び検診結果票様式の説明書

1. 質問項目

(1) 内容についての方針

- ・ 国の歯科疾患実態調査の質問項目は共通
- ・ 国の調査にあわせ自己記入と調査員による聞き取りによる記入
- ・ 県の上乗せ質問調査は、国の質問にない歯なまるスマイルプランの評価 1 項目及び長崎大学から提案があった「かかりつけ歯科医」に関する事、歯科受診の頻度、食べる速さ、歯磨きの時間に関する調査 4 項目

※平成 23 年までは今後の歯科保健施策に活かすため、考えられる施策内容をあげ意見を聞いていたが、平成 28 年調査から除外。

(2) 質問票の整理 (県一様式第 2 号、県一様式第 2 号国調)

内容	県実調	国実調
国の歯科疾患実態調査の質問内容 (共通内容 1) ※受診者が記入 ・ 性別、生年月日 ・ 歯や口の状態 ・ 歯をみがく頻度 ・ 歯や口の清掃状	県一様式第 2 号 [表面] (1) (2) (3) (4) (5)	国歯科疾患実態調査票 (1) (2) (3) (4) (5)
国の歯科疾患実態調査の質問内容 (共通内容 2) ※調査員聞き取り ・ フッ化物応用の経験の有無 ・ 顎関節の異常	県一様式第 2 号 [裏面] (6) (7)	国歯科疾患実態調査票 (6) (7)
県追加 ・ 過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者 [歯なまるスマイルプランの評価項目] ・ かかりつけ歯科医に関する内容 ・ 歯科受診経験について ・ 食べる速さ ・ 1 日の歯磨きにかかる時間	県一様式第 2 号 [表面] Q 1 ~ 5	県一様式第 2 号国調 [別紙] Q 1 ~ 5

2. 検診票について

(1) 調査票の構成

- ・ 県歯科疾患実態調査分の様式は両面 1 枚、国歯科疾患実態調査分は片面で国調査様式と別紙で県追加様式の 2 枚
- ・ 県歯科疾患実態調査票の口腔内診査の記録は、国歯科疾患実態調査の調査票に基づき構成 (診査内容は、歯科疾患実態調査必携に従い、用いる項目、使用する記号は統一。)
- ・ 調査地区 ID は、実施要領で指定する調査地区の ID とし記入する
- ・ ID は、後に集計するため被調査者毎に番号をつける。(保健所毎に番号をつけ、被調査

者名簿とあわせる) なお、国実態調査の場合は、質問票の方に被調査者名簿の I D をつける。

- ・ 今回の調査から歯肉の状況の調査方法が従来の CPI 診査ではなく、H27 年度に改定された歯周病検診マニュアルに合わせた新 CPI 方式に合わせた形での診査方法に変更となった。

(2) 各保健所の使用調査票

- ・ 国の歯科疾患実態調査 (長崎市・県南保健所)

国から配布される調査票及び県が上乘せ実施する質問調査票 (県一様式第 2 号国調)

- ・ 県の歯科疾患実態調査 (長崎市、佐世保市、西彼・県央・県北・五島・上五島・壱岐・対馬保健所) は県の歯科疾患実態調査票 (両面 1 枚で構成 (県一様式第 2 号))

※長崎市は国と県の調査地区があるので、対象地区に応じて使用する。

3. 受診者への診査結果報告

- ・ 受診者が自分の口の中の状態を簡単にわかりやすいよう、検診結果票を用いて、むし歯の状況・歯ぐき状況・歯石については該当する状態に○をつけ、その他注意する内容についてはフリースペースに記入して結果を知らせる。

歯科疾患実態調査票

(平成28年10月・11月調査)

都道府県 _____ 市区町村 _____ 保健所 _____



政府統計
統計法に基づく国の統計調査
です。調査票情報の秘密の保
護に万全を期します。

秘

調査日 平成28年 ____ 月 ____ 日

地区番号	世帯番号	世帯員番号	市郡	1. 13大都市	2. 人口15万以上の市
(1) 性別	1. 男	2. 女	(2) 生年月日	1. 平	2. 昭
				3. 大	4. 明
				年	月
				日	

(以下の(3)~(5)について、あてはまる番号に○をつけてください。)

(3) 歯や口の状態について気になることはありますか？(複数回答可)

- 1. ない
- 2. 歯が痛い、しみる
- 3. 歯ぐきが痛い、はれている、出血がある
- 4. 噛めないものがある
- 5. 飲み込みにくい
- 6. 味が分かりにくい
- 7. 口がかわく
- 8. 口臭がある
- 9. その他(具体的に _____)

(4) 歯をみがく頻度はどれくらいですか？(歯が全くない人は除く)

- 毎日みがく (1. 1回 2. 2回 3. 3回以上)
- 4. ときどきみがく 5. みがかない

(5) (歯ブラシを用いた歯みがきに加えて、)以下に示す歯や口の清掃をおこなっていますか？(複数回答可)

- 1. デンタルフロスや歯間ブラシを使って、歯と歯の間を清掃している
- 2. 舌を清掃している
- 3. その他(具体的に _____)
- 4. おこなっていない

(以下は問診・診査時に記入すること)

(6) フッ化物応用の経験の有無(14歳まで)(複数回答可)

- 1. フッ化物塗布
- 2. フッ化物洗口
- 3. フッ化物配合歯磨剤の使用
- 4. その他(具体的に _____)
- 5. ない
- 6. わからない

(7) 顎関節の異常(6歳以上の者)

- ・ 口を大きく開け閉めした時、あごの音がしますか (1. はい 2. いいえ)
- ・ 口を大きく開け閉めした時、あごの痛みがありますか (1. はい 2. いいえ)

(8) 歯の状況

永久歯	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	上顎
	(右)		乳歯	E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	(左)			
永久歯	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	下顎
	(右)		乳歯	E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	(左)			

(9) 補綴の状況



(10) 歯肉の状況(永久歯列)

① 歯周ポケット

上顎 7 | 又は 6 | 1 | 6 又は 7

上顎	4未満	4~6	6以上	4未満	4~6	6以上	4未満	4~6	6以上	mm
下顎	4未満	4~6	6以上	4未満	4~6	6以上	4未満	4~6	6以上	mm

7 | 又は 6 | 1 | 6 又は 7

② 歯肉出血

7 | 又は 6 | 1 | 6 又は 7

上顎	有	無	有	無	有	無
下顎	有	無	有	無	有	無

7 | 又は 6 | 1 | 6 又は 7

(11) 歯列・咬合の状況(12~20歳の者)

① 歯列の叢生・空隙	無	上有	下有	上下有
叢生	無	上有	下有	上下有
空隙	無	上有	下有	上下有

② オーバージェット・オーバーハング _____ mm

③ 正中のずれ _____ mm

記入にあたり用いる符号：1. (1) 健全歯 0 : / (2) 健全歯(予防充填) t : / t 2. 未処置歯 : Ci、Ch
 3. 処置歯 (1) 充填歯 : F (2) クラウン : K 4. 喪失歯 : × 5. 補綴の状況 : (9) の図に記入し、全部床義歯 F u、部分床義歯は P、架工義歯は B、インプラントは I m、クラスプは C l の記号をつける

長崎県歯科疾患実態調査票（アンケート）

調査地区 ID

調査日	平成 28 年	月	日
保健所名	保健所		

I D	氏 名	
--------	--------	--

以下のQ1～5について当てはまる番号に○をつけてください。

<p>Q1. この1年間で学校・職場や歯科診療所、市町の保健センターなどで定期管理や予防処置を行いましたか。</p> <p>1. <u>はい</u>（下記から当てはまる番号すべて○印をつけてください。） 2. いいえ</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>（定期管理・予防処置の内容）</p> <p>1. 健診（検診）並びに面談指導（定期的なものを含む） 2. 歯石除去・歯面清掃</p> <p>3. 歯みがきの個人指導 4. 歯みがきの集団指導 5. シーラント・フッ化物塗布</p> <p>6. フッ化物洗口剤の指導・処方</p>	
<p>Q2. かかりつけ歯科医についてお聞きします。</p> <p>（1）かかりつけ歯科医を決めていますか？</p> <p>1. <u>決めている</u> 2. <u>特に決めていない</u></p> <p style="text-align: center;">↓</p>	
<p>（1-1）かかりつけ歯科医では、定期的に健診を受けていますか？ (Q3～)</p> <p>1. <u>はい</u> 2. <u>いいえ（痛い時など不都合なときのみ受診）</u></p> <p style="text-align: center;">↓</p>	
<p>（1-2）定期健診の受診頻度はどれくらいですか。 (Q3～)</p> <p>1. () か月に1回程度 2. 年1回程度 3. 不定期</p>	
<p>Q3. 最後に歯科受診したのはいつ頃ですか？</p> <p>1. 6か月以内 2. 6か月から1年以内 3. 1年から3年以内 4. 3年より前</p> <p>5. 覚えていない 6. 歯科医を受診したことがない</p>	
<p>Q4. 他人と比べて食べる速さはいかがですか？</p> <p>1. とても速い 2. 速い 3. 普通 4. 遅い 5. とても遅い</p>	
<p>Q5. 歯みがきは一日あたり合計して何分くらい時間をかけていますか？ () 分程度</p>	

※受診者の方は太線内のみを記入してください。

長崎県歯科疾患実態調査票

調査地区 ID				調査日	平成 28 年 月 日
				保健所名	保健所
I	氏名	(1) 性別	男 女	(2) 生年月日	1.平 2.昭 3.大 4.明 年 月 日(歳)

以下の(3)～(5)及びQ1～5について当てはまる番号に○をつけてください。

<p>(3) 歯や口の状態について気になることはありますか？（複数回答可）</p> <p>1. ない 2. 歯が痛い、しみる 3. 歯ぐきが痛い、はれている、出血がある</p> <p>4. 噛めないものがある 5. 飲み込みにくい 6. 味が分かりにくい 7. 口がかわく</p> <p>8. 口臭がある 9. その他（具体的に _____ ）</p>					
<p>(4) 歯をみがく頻度はどれくらいですか？（歯が全くない人は除く）</p> <p>毎日みがく（1. 1回 2. 2回 3. 3回以上）</p> <p>4. ときどきみがく 5. みがかない</p>					
<p>(5)（歯ブラシを用いた歯みがきに加えて、）以下に示す歯や口の清掃をおこなっていますか？（複数回答可）</p> <p>1. デンタルフロスや歯間ブラシを使って、歯と歯の間を清掃している</p> <p>2. 舌を清掃している 3. その他（具体的に _____ ） 4. おこなっていない</p>					
<p>Q1. この1年間で学校・職場や歯科診療所、市町の保健センターなどで定期管理や予防処置を行いましたか。</p> <p>1. はい（下記からあてはまる番号すべて○印をつけてください。） 2. いいえ</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>（定期管理・予防処置の内容）</p> <p>1. 健診（検診）並びに面談指導（定期的なものを含む） 2. 歯石除去・歯面清掃</p> <p>3. 歯みがきの個人指導 4. 歯みがきの集団指導 5. シーラント・フッ化物塗布</p> <p>6. フッ化物洗口剤の指導・処方</p>					
<p>Q2. かかりつけ歯科医についてお聞きします。</p> <p>(1) かかりつけ歯科医を決めていますか？</p> <p>1. <u>決めている</u> 2. <u>特に決めていない</u></p> <p style="text-align: center;">↓</p>					
<p>(1-1) かかりつけ歯科医では、定期的に健診を受けていますか？</p> <p>1. <u>はい</u> 2. <u>いいえ（痛い時など不都合なときのみ受診）</u> (Q3～)</p> <p style="text-align: center;">↓</p>					
<p>(1-2) 定期健診の受診頻度はどれくらいですか。</p> <p>1. () か月に1回程度 2. 年1回程度 3. 不定期 (Q3～)</p> <p style="text-align: center;">↓</p>					
<p>Q3. 最後に歯科受診したのはいつ頃ですか？</p> <p>1. 6か月以内 2. 6か月から1年以内 3. 1年から3年以内 4. 3年より前</p> <p>5. 覚えていない 6. 歯科医を受診したことがない</p>					
<p>Q4. 他人と比べて食べる速さはいかがですか？</p> <p>1. とても速い 2. 速い 3. 普通 4. 遅い 5. とても遅い</p>					
<p>Q5. 歯みがきは一日あたり合計して何分くらい時間をかけていますか？ () 分程度</p>					

※受診者の方は太線内のみを記入してください。

以下は問診・診査時に記入します。

<p>(6) フッ化物応用の経験の有無 (14歳まで) (複数回答可)</p> <p>1. フッ化物塗布 2. フッ化物洗口 3. フッ化物配合歯磨剤の使用 4. その他 (具体的に _____) 5. ない 6. わからない</p>																																																								
<p>(7) 顎関節の異常 (6歳以上の者)</p> <p>・口を大きく開け閉めした時、あごの音がしますか (1. はい 2. いいえ) ・口を大きく開け閉めした時、あごの痛みがありますか (1. はい 2. いいえ)</p>																																																								
<p>(8) 歯の状況</p> <table style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="border: none;">永久 歯</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: none;">上 顎</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">(右)</td> <td style="border: none;">乳 歯</td> <td style="border: 1px solid black;">E</td> <td style="border: 1px solid black;">D</td> <td style="border: 1px solid black;">C</td> <td style="border: 1px solid black;">B</td> <td style="border: 1px solid black;">A</td> <td style="border: 1px solid black;">A</td> <td style="border: 1px solid black;">B</td> <td style="border: 1px solid black;">C</td> <td style="border: 1px solid black;">D</td> <td style="border: 1px solid black;">E</td> <td style="border: none;">(左)</td> <td style="border: none;">乳 歯</td> <td style="border: 1px solid black;">E</td> <td style="border: 1px solid black;">D</td> <td style="border: 1px solid black;">C</td> <td style="border: 1px solid black;">B</td> <td style="border: 1px solid black;">A</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">永久 歯</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: none;">下 顎</td> </tr> </table>	永久 歯																	上 顎	(右)	乳 歯	E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	(左)	乳 歯	E	D	C	B	A	永久 歯																	下 顎	<p>(9) 補綴の状況</p> <div style="text-align: center;"> <p>上顎</p> <p>下顎</p> </div>
永久 歯																	上 顎																																							
(右)	乳 歯	E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	(左)	乳 歯	E	D	C	B	A																																						
永久 歯																	下 顎																																							
<p>(10) 歯肉の状況 (永久歯列)</p> <p>① 歯周ポケット</p> <table style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="border: none;">上顎</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: none;">mm</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">下顎</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: none;">mm</td> </tr> </table> <p>② 歯肉出血</p> <table style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="border: none;">上顎</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">下顎</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> </table>	上顎										mm	下顎										mm	上顎								下顎								<p>(11) 歯列・咬合の状況 (12~20歳の者)</p> <p>① 歯列の叢生・空隙</p> <table style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="border: none;">叢生</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">空隙</td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> </table> <p>② オーバージェット・オーバーバイト</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin-left: 50px;"></div> mm <p>③ 正中のずれ</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 20px; margin-left: 50px;"></div> mm	叢生					空隙											
上顎										mm																																														
下顎										mm																																														
上顎																																																								
下顎																																																								
叢生																																																								
空隙																																																								

記入にあたり用いる符号：1.(1) 健全歯 0：／ (2) 健全歯(予防充填) t：／ t 2.未処置歯：Ci、Ch
 3.処置歯 (1) 充填歯：F (2) クラウン：K 4.喪失歯：× 5.補綴の状況：(9)の図に記入し、全部床義歯Fu、
 部分床義歯はP、架工義歯はB、インプラントはIm、クラスプはC1の記号をつける

【備考】

- ・未処置歯数 (Ci、Ch)：永久歯 _____ 本 (乳歯 _____ 本)
- ・注意すべき歯 (Dr. の指示に従うこと)： _____ 本
- ・清掃状況： 良 要注意 不良
- ・歯肉の状況 (最大値)
- 歯肉出血 (BOP)： 0 1
- 歯周ポケット (PD)： 0 1 2

あなたのお口の状態（検診結果票）

☆あなたのお口の状態は下記のとおりです。

1. 歯の状態（むし歯の状況）は（ ）です。

- ①歯の状態は良好です。これからも歯の健康を守りましょう。
- ②むし歯に注意する歯があります。歯科医院での予防管理やフッ化物などでむし歯予防をしましょう！
- ③むし歯の疑いのある歯があります。早急に歯科医院で精査してください！
- ④その他（ ）

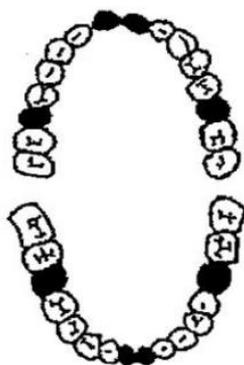
2. 歯ぐきの状態（歯周病の状況）は（ ）です。

- ①歯ぐきの状態は良好です。これからもこの歯ぐきの状態を守りましょう！
- ②歯ぐきから出血します。正しい歯みがきを心がけましょう！
- ③歯と歯ぐきの境目の溝が深くなっています。歯科医院で専門的な治療を受けましょう！
- ④歯と歯ぐきの境目の溝がかなり深くなっています。重症なので早急に歯科医院で専門的な治療を受けて下さい。

<補足指導>

（ ） 歯石があります。歯科医院で歯石をとってもらいましょう！

3. その他注意する内容



☆お口の健康を守る秘訣☆

1. むし歯予防

一度むし歯になると元の健康な歯には戻りません。むし歯にならないように日頃からむし歯予防を心がけましょう。また、治療した歯は再度むし歯になりやすいので注意が必要です。

①フッ化物の応用（フッ化物塗布、フッ化物洗口、フッ化物が入った歯磨剤の使用）

家庭で実践する場合フッ化物が入った歯磨剤を利用するのが簡単です。なお、フッ化物洗口を行うと効果的です。フッ化物洗口及びフッ化物塗布については歯科医院でご相談ください。

②甘味制限

甘い物（砂糖類）の摂取制限はなかなか難しいですが、少なくとも時間を決め、だらだらと口の中に含まないように心がける必要があります。（量ではなく、口の中に入っている時間が問題です。）

③はみがき

お口の中の衛生を保つためには必要ですが、むし歯予防としてはあまり効果が期待できないので過信は禁物です。（歯みがきをするだけではむし歯予防に効果が少ないので他の予防方法と併用しましょう。）

2. 歯周病予防

歯周病は歯ぐきの病気を総称していいます。歯みがきをして出血や痛みがあったりしたら歯周病になっている可能性があります。しかし、大体が気づかず慢性的に進行しますので、気づいたときにはものが食べにくくなったり、重症の場合は歯が抜けてしまいます。したがって歯ぐきが健康な状態のときに予防することが重要です。

○歯周病予防の方法

- ・正しいはみがきを行う。（うがい薬等は一時的なものです）
- ・歯のきわの部分（歯ぐきに近い部分）や歯と歯の間の歯垢（食べかすではありません。プラークとも言い、細菌の塊です。）を正しいはみがきの仕方を取り除いてやることことが最も重要であります。したがって、普段から習慣づけることが必要です。正しい歯みがき方法は、講習会や歯科医院で教わりましょう。

<8020運動を知っていますか！>

「80歳で自分の歯を20本以上保ちましょう」という意味の歯科保健のスローガン

自分の歯が20本以上あると、普通に物が食べられる（噛むことができる）という科学的根拠と我が国の平均年齢が80歳となっているので、健康な生活を営みながら人生を送ることを目指すためこの運動が始まりました。

<長崎県歯・口腔の健康づくり推進条例>

長崎県では、平成22年6月4日から「長崎県歯・口腔の健康づくり推進条例」が施行されています。

県・市町・関係団体等がそれぞれの役割を担い、様々な活動を通じて、県民の皆さんと一緒に、歯・口腔の健康づくりを推進する条例です。県民の皆さんも趣旨をご理解いただき、県全体でのお口からの健康づくりを目指しましょう！